資　料　編

日盲社協ディレクトリー2023　会員施設名鑑
日本盲人社会福祉施設協議会年表

日盲社協ディレクトリー2023
会員施設名鑑

掲載順序：部会別、都道府県コード順・あいうえお順

点字出版部会：25施設

点字出版は、明治23年（1890年）の日本点字の制定から各地で取り組みがはじまり、視覚障害関係事業の中で最も古い歴史があり、昭和28年（1953年）の日盲社協発足当時から重要な役割を担ってきました。

点字出版所では、主に点字図書や雑誌の出版、自治体広報誌や点字印刷物の受託、点字教科書の出版等をしています。事業内容もさまざまで、全国で25の点字出版所が当部会に参加しています。**（部会長 肥後正幸）**

社会福祉法人 桜雲会 桜雲会情報提供施設

〒169-0075東京都新宿区高田馬場4-11-14-102		TEL	03-5337-7866
E-mail	ounkai@nifty.com	URL	http://ounkai.jp

当施設は、東京盲唖学校の盲生徒同窓会として発足してから、令和 4 年（2022 年）1 月に、創立 130 年を迎えた。視覚障害者の情報提供施設として、障害者に希望と喜びを与えるために活動している。

◆事業内容◆

①出版図書類：点字・点字電子データ・墨字（拡大文字）・UD ブラウザ・音声などの媒体を中心に製作・発行をしている。主な図書は視覚障害者の主要職業である“あん摩”“はり”“きゅう”など三療関係者向けの点字および拡大文字雑誌『鍼灸の世界 豊桜（ホウオウ）』（昭和 43 年〔1968 年〕創刊、点字は月刊、墨字は季刊）を発行しており、点字版は 631 号、拡大文字版は 157 号を超えている。また、『疾病の成り立ちと予防 1』、『触察解剖図』などの教科書の製作・発行を行っている。さらに、盲偉人の絵本（英訳付き）を製作し、国内だけでなく世界に向けて情報提供している。

②委託出版事業：自治体の点字版広報や音声版広報などの製作にかかわっている。

③社会活動：視覚障害者を中心としたバスツアーや講演会を企画して、視覚障害者の活動を毎年積極的に公表している。

社会福祉法人 国際視覚障害者援護協会

〒174-0052東京都板橋区蓮沼町20-18		TEL	03-5392-4002
E-mail	info@iavi.jp	URL	https://www.iavi.jp/

国際視覚障害者援護協会（IAVI）の事務所兼研修施設「舟橋記念会館」は、都営地下鉄三田線本蓮沼駅から歩いて 3 分、1 階部分は貸駐車場、2 階が事務所と食堂兼応接室、3 階がアジアの視覚障害留学生の居室と多目的ホールで、点字印刷は 2 階と 3 階の一部で行なっています。

IAVI の事業の柱は、視覚に障害のある発展途上諸国からの有為の若者の日本留学を支援することにあります。具体的には、盲学校の高等部専攻科で三療を学習するための予備研修として、会館に 6 ヶ月泊まり込み、日本語・日本点字の学習、歩行訓練・生活訓練を受けてもらうというものです。以前は、文科省の補助金を受けて実施していましたが、補助金が廃止となり、この事業をそのまま継続できなくなってしまいました。が、各国からの要望もあり、厳しい状況の中で、支援して下さる皆様のお力で、なんとか事業を継続しております。そして、インターネットを活用して、卒業後帰国して各国で頑張る元留学生達への日本語サポートや、マッサージのスキルアップのための支援の活動なども行っています。また、国際交流と視覚障害者の理解のために、地域の皆さんが気楽に集まれる居場所づくりの活動として、一昨年の夏から「こもどサロン」という活動も始めました。

点字印刷・出版 雑草の会

〒116-0011東京都荒川区西尾久1-3-8		TEL	03-3810-1241
E-mail	zassou1241@abelia.ocn.ne.jp		

雑草の会は、点字出版を通じて、視覚障害者と健常者がともに働き、運営する施設です。

点字図書は、視覚障害者のニーズにおこたえし、図を駆使した図書や、希少な図書の点訳など、社会科学から料理レシピにいたるまでさまざまなジャンルの出版を手掛けています。

その他の業務内容としては、地方自治体の広報誌や団体機関紙などの点訳・印刷、点字ラベルや点字名刺製作などを行っています。

社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター

〒167-0034東京都杉並区桃井4-4-3 スカイコート西荻窪2		TEL	03-5310-5051
E-mail	mail@siencenter.or.jp	URL	http://www.siencenter.or.jp/

①月刊『視覚障害 —— その研究と情報』の編集・発行（墨字・点字・DAISY・CD-R の 4 媒体）

②チャレンジ賞・サフラン賞の実施（視覚障害者の文化の向上と福祉の増進に寄与する若い視覚障害男女を表彰）

③点字通信教育の実施と講師派遣

④盲大学生の支援（奨学金の公募・推薦）

⑤点字図書の発行（『基本地図帳』、『鉄道手帳』、『鉄道バリアフリーガイド』等の点字図書出版）

⑥活字図書の編集・発行（点字の啓発書や視覚障害に関する書籍他）

⑦点字教科書の編集・製作・発行（文部科学省著作教科書他）

⑧各種自治体の広報誌等の受託

⑨就労継続支援 B 型「チャレンジ」の運営（点図カレンダーの製作など。障害種別を問わずに受け入れ、個々人に応じた指導・活動を通じ、利用者のスムーズな社会参加を目指す）

⑩イメージ商品として絵はがきの販売

⑪「視覚障害者支援総合センターを支える会」の会員の拡大

社会福祉法人 信愛福祉協会 点字出版部

〒157-0067東京都世田谷区喜多見9-6-2		TEL	03-3416-1804
E-mail	braille@safk.net	URL	http://www.shin-ai-fukushi.or.jp/

信愛福祉協会点字出版部は、信愛福祉協会が社会福祉法人として認可される以前の手書きの『鍼の研究』誌の回覧から読者層が広がった小さな集まりが出発点となりました。『鍼の研究』誌は通巻 750 号を超えました。

同様に出発した季刊誌『信仰の友』も、キリスト教の同人誌として 250 号を数えました。

上記 2 タイトルの点字版・デイジー版の他、信愛ホームで引き継がれ教えられている鍼科学に基づく専門書を発行し、その普及に努めています。一部は DAISY 版も製作しており、今後電子書籍化も計画しています。

法人の基本理念でもあるキリスト教（プロテスタント）関連書籍は、ジョン・バンヤン、A. B. シンプソン、平方龍男らの著書をはじめとし、玉川直重による『ギリシャ語聖書』点字版なども製作してきました。

併設する福岡分室においては、パソコン点訳とデイジー編集によって書籍・雑誌を発行しています。

福岡分室　〒810-0066福岡市中央区福浜1-1-14-1210	TEL	090-1973-6459

社会福祉法人 東京点字出版所　略称：東点（トウテン）

〒181-0013東京都三鷹市下連雀3-32-10		TEL	0422-48-2221
E-mail	info@toten.or.jp	URL	https://www.toten.or.jp

当所は大正 15 年（1926 年）4 月創業の点字出版の老舗です。視覚特別支援学校小学部、中学部、高等部の普通科・理療科の点字教科書を中心に製作しております。特に文部科学省著作点字教科書は 60 年以上にわたり発行しております。また、鍼灸・医学関係の記事を取り扱う月刊雑誌『点字の友』を発行し続けております。

そのほかには国語辞典・古語辞典・英和辞典・和英辞典ほか、外国語の辞書類を多数発行しております。

当所は触図（図版）を得意としており、数学、理科の図のみならず、近年は図版入りの児童向け図鑑、日本地図・世界地図を独自編集で発行しました。

創業当時は理療関係の書籍がほとんどでしたが、現在は多様なニーズに応じて、生活に役立つ内容の図書も手がけております。そのほか、点字名刺印刷・点字冊子・点字パンフレット等の製作も請け負っております。

現在は 20 人ほどの職員で点訳から製本・発送までを一貫して行っております。

社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会 点字出版所

〒169-0072東京都新宿区大久保3-14-4 毎日新聞社早稲田別館内

E-mail	jdz07530@nifty.com	URL	https://thka.jp	TEL	03-3200-1310

英国から固型点字印刷輪転機を輸入し、昭和 43 年（1968 年）10 月に開設しました。以来、衆・参両院議員選挙や地方選挙の点字版『選挙公報』をはじめ、全国の盲学校で使われる小学部・中学部の点字教科書、地方自治体発行の点字版広報などさまざまな点字印刷物を受託・印刷しています。

ほかに、当協会が独自に編集する月刊誌『点字ジャーナル』、生活情報誌『ライト＆ライフ』（年 23 回）を発行するとともに、点字図書も出版しています。

点字印刷では、平成 22 年（2010 年）に（財）JKA の助成を受けて、ドイツ・ブレイルテックで設計してチェコで組み立てられた平板点字印刷機 GPB-3 などを使った新点字システムを導入し、固型点字印刷から現在のエンボス式点字印刷に転換しました。

また、昭和 54 年（1979 年）には録音事業もスタートさせ、衆参選挙や地方選挙の音声版『選挙公報』はじめ、自治体広報の音声版『声の広報』なども受託・製作しています。

衆参選挙（点字版・音声版）では、「日本盲人福祉委員会視覚障害者選挙情報支援プロジェクト」の中核施設の一つとして『選挙公報』製作に取り組んでおり、視覚障害者への選挙情報提供に貢献していると自負しています。

社会福祉法人 日本点字図書館 図書製作部 略称：日点（ニッテン）

〒169-8586東京都新宿区高田馬場1-23-4 TEL 03-3209-0671

E-mail	tenji@nittento.or.jp	URL	https://www.nittento.or.jp/

日本点字図書館では、昭和 30 年（1955 年）に厚生省（当時）の委託による点字図書製作を開始し、現在の当館における点字出版事業の始まりとなりました。以来、公的な機関だけでなく、一般企業などからご依頼をいただき、各種広報誌やメニューなどの点字印刷物を数多く製作しております。

また昭和 50 年（1975 年）から、日本テレビ系列愛の小鳩事業団（現公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団）の委託を受けて製作しているカラー写真の美しい点字カレンダーは、毎年、全国の視覚障害者関連団体・個人の方に郵送し活用していただいています。

その他、点字サインを代表とする公共的な点字や触知案内図などの製作・監修事業や、『いろんなかたちをさわってみよう』『ふれる世界の名画集』など自館での企画出版図書の発行など幅広く事業を行っています。

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合 点字出版所

〒169-8664東京都新宿区西早稲田2-18-2		TEL	03-3200-6157
E-mail	shuppan@jfb.jp	URL	http://nichimou.org/

日本視覚障害者団体連合点字出版所では、全国の自治体からの委託による点字広報および議会報を中心に製作を行っています。

その他の事業では、厚生労働省委託の『点字厚生』『ワールド・ナウ』、日本盲人福祉委員会視覚障害者選挙情報支援プロジェクトにおける国政選挙公報の製作も行っています。

また、視覚障害者団体連合が実施している視覚障害者に関する調査研究事業の報告書の製作、政党広報誌、企業等の広報誌やパンフレット、カタログ、会議資料の製作や、JR 東日本管内の運賃表および点字触知板の点字表記監修を行っています。

身近な生活情報から、国政や行政の情報、視覚障害者を取り巻く現状と将来への展望に関する資料など、当事者団体の特色を生かした幅広い分野の点字資料の製作を通して、日々、視覚障害者に役立つ情報の提供に努めています。

社会福祉法人 東京光の家 指定障害者支援施設 光の家 栄光園

〒191-0065東京都日野市旭が丘1-17-17		TEL	042-581-2340
E-mail	eikoh@hikarinoie.org	URL	https://www.hikarinoie.org/

光の家栄光園を経営する社会福祉法人東京光の家は、キリスト教精神に基づいて創立された視覚障害者のための法人です。聖書の教えを法人経営、ならびに利用者サービスの基本としています。また、「障害者総合支援法」等の関係法令により視覚障害と他の障害を併せ持った盲重複障害者を主たる対象として、利用者の自立と社会経済活動への参加を促進するために必要なサービスを提供しています。

光の家栄光園は、昭和 49 年（1974 年）7 月に重度身体障害者授産施設「旭が丘更生園」として開設されました。開設当初から点字出版を主な作業種目とし、創立者秋元梅吉が点字出版から始めたその伝統を受け継いでいます。

点字出版の他にも弱視者向けのビジュアルイーズノートや各種ノート、スケッチブック、メモ帳、ファイル、封筒等を製造販売しています。また、より多くの利用者が作業に携わることができるようにするために軽作業も行っています。昭和 58 年（1983 年）からは作業棟の一角で「ショップアガペ」という小売店舗の経営も行っています。

点字出版は現在も光の家栄光園の中心的な作業種目であり、地方自治体の広報誌や各種団体の定期刊行物等の製作、『点字聖句特選集』や『てのひらサイズ英語点字略字ブック』等の自主出版の点字図書も発行しています。

社会福祉法人 ぶどうの木 ロゴス点字図書館 点字出版部

〒135-8585東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館内		TEL	03-5632-4428
E-mail	logos@logos-lib.or.jp	URL	https://www.logos-lib.or.jp

母体であるカトリック点字図書館は、昭和 28 年（1953 年）、大田区・カトリック洗足教会内に創設された。初代館長は塚本昇次神父。創設当時は、『公教会祈祷文』や点字雑誌『あけのほし』を他の点字出版所に依頼して発行していた。昭和 49 年（1974 年）に点字製版機を導入し、出版事業を開始。平成 5 年（1993 年）、日盲社協点字出版部会に加盟。平成 13 年（2001 年）、東京都から社会福祉法人の認可を受け「ロゴス点字図書館」に改称。

聖書や教理書、聖歌集やミサ用パンフレット『聖書と典礼』などのキリスト教系図書を製作・発行する一方、日盲社協で行っている社内検定試験（点字技能師検定試験）の過去問題集『点字技能検定試験の対策』の点字版などの発行も行っている。

日々発展するインターネット環境における生活の変化の中でも、「点字」は社会生活をしていく上で不可欠であり、大切な手段となることを忘れることなく、今後も努めたい。

社会福祉法人 光友会 神奈川ワークショップ

〒252-0825神奈川県藤沢市獺郷1008-1		TEL	0466-48-1503
E-mail	tenji@lfa.jp	URL	https://www.lfa.jp/

当法人は昭和 52 年（1977 年）開設の地域作業所をルーツに、昭和 55 年（1980 年）12 月に法人認可を受けました。

その後、身体障害者支援を中心に事業展開をしてきましたが、現在では、身体障害に限らず、入所支援、生活介護、デイサービス、相談支援、グループホームなどさまざまなサービスに取り組んでいます。

就労支援分野では、昭和 56 年（1981 年）に身体障害者授産施設神奈川ワークショップを開設し、点字製版･印刷、テーププリント部門を設け、現在に至っています。

点字部門では、官公庁から受注した点字広報をはじめ、自主出版の『月刊福祉』ほかの点訳出版をしています。また、県内のタクシー協会、建物信号機などの点字サイン製作も引き続き行っています。

選挙関係の公報投票用紙の点字版の製作も行っています。

生活面についてもグループホーム等と連携し、生活の幅を広げることにも取り組んでいます。

社会福祉法人 石川県視覚障害者協会

石川県視覚障害者情報文化センター

〒920-0862石川県金沢市芳斉1-15-26 TEL 076-222-8781

E-mail jimukyoku@ishishikyo.jp URL http://www.ishishikyo.jp

情報文化センター開設以来、点字に関して『日本点字表記法』および『点訳のてびき』に従い正確に点字表記された点訳図書の製作を目指してきた。

点訳グループをはじめボランティアで点字・触図研究会を作り、点字の学習・研究活動を行い、『点字表記辞典』の発行にもつながった。

音訳図書に関して、熱心なボランティアの支えにより、質の良い図書の製作に努めてきた。

昨今の音訳図書のニーズの高まりを受け、『NHK きょうの健康』をはじめ全文音訳の制作に積極的に取り組んでおり、全国各地の多くの録音雑誌の読者を微力ながら支えている。

昨年 5 月に障害者情報アクセシビリティコミュニケーション施策推進法が施行され、当センターにも情報化への対応が求められており、情報支援員を配置し、利用者・点訳ボランティアなどのパソコン指導のほか、IT サポートボランティアの協力を得ながら支援体制の強化を図っている。

エスケービー

〒480-0202愛知県西春日井郡豊山町豊場字新田町154-2 TEL 0568-28-3166

E-mail otn@sf.starcat.ne.jp

当出版所は、「点字をもっと生活の中に……」を合言葉に平成 4 年（1992 年）に設立し、大人の雑誌『大人倶楽部』、プロ野球を楽しむ『月刊ベースボール』、旅行情報誌『ジパング倶楽部』、の月刊誌をはじめ、官能小説、告白手記、ハウツウ本をはじめとして、江戸時代を読み解く『江戸シリーズ』、気になるあなたの運勢を知る『干支シリーズ』など、趣味と娯楽を中心に点字図書を提供し好評を博しています。

また、目の不自由な方たちをはじめ、地域のボランティアグループ、点訳者などとの交流を積極的にはかり情報の収集とニーズに応えられるように努めています。

いつまでも、読者に愛されるよう研鑽を続け、より充実した点字図書の提供を通して社会に貢献できればと願っています。

社会福祉法人 名古屋ライトハウス
情報文化センター 点字出版事業部

〒455-0013愛知県名古屋市港区港陽1-1-65		TEL	052-654-4523
E-mail	syuppan@nagoya-lighthouse.jp	URL	https://nagoya-lighthouse.jp/joubun/

昭和 41 年（1966 年）5 月に誕生した点字出版事業部は現在、視覚障害者 2 人、晴眼者 6 人で運営しています。

主な業務内容は、

①新規出版物、自治体定期刊行物、選挙公報の点字・音声版の製作

②名刺、メニュー、選挙名簿・投票用紙、公共料金帳票の製作

③点字サインの製作と監修

④ UV 加工

⑤点字企画商品の製作販売（一筆箋、干支シール、お袋さんシリーズ、クリアファイルなど）

新規出版物では『最強の食事術――お得技ベストセレクション 2021 最新版』を製作（点字版・全 3 巻）。今日からすぐに実践できる、体に良い食事術を紹介しています。

UV 加工では紫外線照射で透明に固まる樹脂を使い、携帯のキーに丸やバツ模様など、パソコンのキーボードも凸模様や点字表示など施し「市販品を共用品に」変身させています。その他にも、白杖や家電製品、将棋の駒などへの加工も行っています。

点字企画商品では点字や触図をあしらい、「触っても見ても楽しい」商品製作を心がけています。最近は「動物の点図クリアファイル」を販売し大好評です。

社会福祉法人 京都ライトハウス 情報製作センター

〒603-8302京都市北区紫野花ノ坊町11		TEL	075-462-4446
E-mail	seisaku@kyoto-lighthouse.or.jp	URL	https://www.kyoto-lighthouse.or.jp/service/center/

利用者のニーズに沿うことをモットーに、点字やマルチメディアデイジー図書、点字雑誌の出版や、社会生活を送る上で欠かせない、地域生活に関する情報（広報その他）を点字や音声デイジーで製作。点字案内板等の監修も行っています。また、地域の学校に通う児童および生徒の点字教科書の製作や、日本盲人福祉委員会視覚障害者選挙情報支援プロジェクトに参加し、国政選挙等の公報製作にも取り組んでいます。

点字雑誌は、昭和 63 年（1988 年）創刊のロングセラー情報誌『旅』を偶数月に、女性のための情報誌『きょうきらら』を奇数月に発行。長年にわたり、多くの皆さまにご愛読いただいています。

オリジナル商品として、携帯性の良い『はんぶんこシリーズ』や『おてがる BOOK』、ワンコインでお求めいただける『ライト★シリーズ』といった点字図書、また、ハンカチや衣類、かばんに点字や凸模様を施した、触っても楽しい『ドット・テイラー』、視覚障害児・者競技用百人一首かるた、お坊さんめくりなどの『百人一首シリーズ』も販売しています。

時代の流れをとらえつつ、顔の見える身近な出版施設として、利用者の声に耳を傾け、創設者鳥居篤治郎先生の思いを引き継いでいくべく、日々事業に取り組んでいます。

社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター 点字出版施設 紫野点字社（ムラサキノテンジシヤ）

〒610-1111京都市西京区大枝東長町1-67		TEL	075-333-0171
E-mail	tenji@kyo-ssc.com	URL	https://www.kyo-ssc.com/

京都市や視覚障害者関係団体から点字広報誌を受注しています。会議資料やイベント案内、決算や事業報告等の点字需要に対して迅速に安価に提供できるようにしています。

就労継続支援 B 型事業「らくさい作業所」の点字出版部門と連携し、視覚障害者の就労支援として仕事量を確保し、社会参加と工賃につながるような事業展開を行なっています。

毎日新聞社『点字毎日』編集部　略称：点毎（テンマイ）

〒530-8251大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞大阪本社		TEL	06-6346-8386
E-mail	tenmai@mainichi.co.jp	URL	https://www.mainichi.co.jp/

週刊の点字新聞『点字毎日』の発行を中心に点字出版事業を行っています。

『点字毎日』は令和 4 年（2022 年）5 月、創刊 100 年の大きな節目を通過することができました。大正 11 年（1922 年）5 月 11 日に『点字大阪毎日』として創刊以来、毎日新聞大阪本社内に独自の編集部を置き、視覚障害者文化の歩みを伝え、記録してきました。点字編集がデジタル化して以降は、平成 6 年（1994 年）から点字データ版、平成 10 年（1998 年）から活字版、平成 17 年（2005 年）から音声版も発行しています。

社会福祉法人日本盲人福祉委員会が取り組む「視覚障害者選挙情報支援プロジェクト」では、点字版部会の加盟施設と連携し、国政選挙の選挙公報点字版を『点字毎日号外』として発行しています。

主催事業として、全国盲学校弁論大会（昭和 3 年〔1928 年〕創設）、点字毎日文化賞（昭和 39 年〔1964 年〕創設）を続けています。

特定非営利活動法人 点字民報社　略称：点民社

〒558-0011大阪市住吉区苅田5-1-22 ポポロあびこ201 大阪障害者センター内

E-mail	tenjiminposha@ybb.ne.jp	TEL	06-6697-9053

仲間が育てたみんなの点字出版所点字民報社です。

「読みたいものを自分たちの手で」という発足の原点を踏まえながら「視覚障害者が必要とする各種の情報を提供すること等により、その社会的、文化的地位の向上をはかるとともに、視覚障害者の仕事の確保、生活向上に寄与すること」を目的と定めて今日まで活動を続けてまいりました。

現在は自治体や企業・各種団体からの依頼による点字印刷が事業の中心となっておりますが、社会環境の変化に対応しつつ事業を継続・発展させてまいりたいと考えております。

社会福祉法人 日本ライトハウス 点字情報技術センター

〒577-0061大阪府東大阪市森河内西2-14-34　TEL 06-6784-4414

E-mail	tecti@lighthouse.or.jp	URL	https://www.lighthouse.or.jp/

当センターの事業は、法人の創業者岩橋武夫が大正 11 年（1922 年）、点字製版機と手回し点字印刷機を購入し、自宅で『点字日エス辞典』などを点字出版したことに始まります。

当センターでは、視覚特別支援学校小学部、中学部、高等部普通科・理療科用の教科書、児童向けの図書、自治体の広報誌類、テーマパークや博物館のガイドブックなど、さまざまな点字出版物の製作を行っています。

また、理療科用教科書等の音声デイジー版・墨字版、令和 5 年度（2023 年度）より電子教科書（UD ブラウザ版・点字データ版）の発行、公共施設に設置する触知案内板等の監修・校正、地形や水面波の模型など触ってわかる 3 次元模型の研究も行っています。

昭和 55 年（1980 年）、コンピュータを用いた点字編集･製版システム（BRED68）を日本で初めて開発、導入しました。現在は、Windows パソコンで動作するシステム（WinBred10）と新しい点字自動製版機へ発展させ、高精度と安定動作に努めてきました。教科書などに欠かせない触図の編集･製作も長年手がけており、亜鉛板による作図のほか、発泡印刷による『社会科地図帳』等も発行しています。常に正確でわかりやすく魅力的な点字資料を提供したいと、努力を続けています。

社会福祉法人 兵庫県視覚障害者福祉協会

〒651-0062兵庫県神戸市中央区坂口通2-1-1 兵庫県福祉センター内

E-mail	kensikyo@snow.ne.jp	TEL	078-222-5556

当協会は平成 24 年度（2012 年度）に社会福祉法人になりました。現在の課名は点字制作班です。職員は 6 人で、製版機は小林鉄工所のブレイルシャトル 2 台と印刷機 4 台を使用し業務を行っています。

当施設では、主に兵庫県および県内市町の委託を受けて広報誌の点字版（音声版）の製作やリーフレット等の点訳・印刷をしております。

また、各種選挙が執行される際には、国政選挙の場合は日本盲人福祉委員会視覚障害者選挙情報支援プロジェクトに参加し、兵庫県分の選挙公報を点訳・印刷・発送しています。知事・市長選挙等の場合は選挙公報の製作に加え立候補者一覧（氏名掲示）の製作や投票用紙への点字印刷などもあわせて行っています。

加えて、一般業者などからの依頼を受け、点訳・点字印刷や点字サインの監修などを行うほか、協会事業である「点字競技会・交流会」、「触読指導講習」、「点訳講座」など各種事業もサポートしています。

今後とも、視覚障害者の方々に喜んでいただけるような事業・業務に取り組み、努めてまいります。

特定非営利活動法人 自立支援ステーション ぽかぽか
ワークセンター こすもす 略称：こすもす

〒639-1123奈良県大和郡山市筒井町418番地1 TEL 0743-84-4321

E-mail	pokapoka@marble.ocn.ne.jp	URL	http://www.pokapoka-cosmos.com/

こすもすは、指定障害福祉サービス就労継続支援 B 型事業所です。

令和 3 年（2021 年）4 月に新施設へ移転し、利用定数は 40 人となりました。事業所の前身は「柿本点字出版所」（開設昭和 45 年〔1970 年〕）でしたが、平成 24 年（2012 年）に現在の事業所に点字部門を統合しました。

【事業内容】点字・軽作業・製菓・農業・カフェ・ものづくり

点字部門では、地方自治体の広報の製作や、点字名刺、点字シール製作、各種団体からの受注印刷、そして、日本盲人福祉委員会視覚障害者選挙情報支援プロジェクトに加盟し、選挙公報の製作に当たっています。

新施設への移転とともにブレイルシャトル製版機を導入し、複数のローラー印刷機やのりづけ機も設置しています。

同時に録音室を設け、広報などの音訳版の製作にも取り組んでいます。

ものづくりでは、点字用紙を再利用して、ステンシルを加えたペーパーバッグや封筒作りも行っています。

社会福祉法人 岡山ライトハウス 点字出版所

〒700-0975岡山市北区今1-7-25		TEL	086-241-4226
E-mail	tenji@olh-estate.com	URL	https://www.olh-estate.com/

当点字出版所は、創設以来、月刊で点字版の医学雑誌を発行しています。

その他、各地方公共団体が発行している広報誌や福祉関係資料、各種団体の資料等について受託し、点訳・製本まで行っています。

日本盲人福祉委員会選挙情報支援プロジェクトに集結する全国の点字出版所の一施設として、衆議院議員選挙、参議院議員選挙、県知事選挙等の点字選挙公報発行の一翼を担っています。

また、あはき師に必要な医学書の点訳出版および視覚特別支援学校理療科の教科用図書（点字版・拡大活字版・デイジー版・UD ブラウザ版・点字データ版）を発行しています。特にこの分野では専門性をもった先生方に執筆をお願いして、オリジナル図書を製作しています。

一般社団法人 広島ブレイルセンター

〒732-0009広島市東区戸坂千足1-1-25 川口ビル101		TEL	082-516-8411
E-mail	mail@hbrlc.or.jp	URL	https://hbrlc.net

当施設は、社会福祉関係図書や雑学・ハウトゥー図書をはじめとし、平和のことなど「世界にひろげよう広島のねがい」をテーマに、広島の文化や観光に関する情報を中心とした図書を発行しています。

また、各地方公共団体が発行している点字の広報誌の製作、民間企業等からの点字名刺・パンフレット・シール等の受託・製作、手すり点字や触図などの点字サインの監修も行っています。

日本盲人福祉委員会視覚障害者選挙情報支援プロジェクトに参加し、全国の点字出版施設とともに、衆議院議員選挙や参議院議員選挙等の点字公報の製作にも携わっています。

法人格を取得し 11 年目を迎えています。その間、障害者が地域社会の中で、安心して生き生きと活躍できる場としての就労継続支援事業所、居宅介護・同行援護事業所、視覚障害児童・生徒を中心とした放課後等デイサービス事業所などを開設し、地域に根ざした施設として活動しています。

社会福祉法人 佐賀ライトハウス 六星館		
〒840-0815佐賀市天神1-4-16	TEL	0952-29-6621
E-mail	sixstar@po.bunbun.ne.jp	

六星館は、昭和 56 年（1981 年）4 月に身体障害者通所授産施設として開所して以来、令和 5 年（2023 年）まで 42 年間運営しています。当館は、点字の印刷物の製作を仕事としていることもあり、視覚に障害のある利用者を多く受け入れてきました。現在も、利用者 21 名中 10 名に視覚障害があり、さらにその半数に重複した障害があります。

平成 23 年（2011 年）に就労継続支援 B 型事業所に移行しました。

B 型事業所というのは、一般就労が困難な利用者が通所する施設です。視覚と知的障害がある利用者にとって当館は、佐賀県内で唯一無二な施設だと自負しています。作業工程をできるだけ細分化し、利用者全員が何らかの作業で点字出版物製作にかかわる工夫をしています。もちろん、視覚障害者だけでの作業は困難なので、さまざまな障害、幅広い年齢の利用者が協力しあいながら、作業を進めています。

また、10 年前のアピール文には無かった事柄ですが、近年、内職的な作業を請け負うことが増えました。

売り上げ的には、年間 20 万円にもならないのですが、点字使用者の激減により、30 年前と比較して印刷数が半分以下となっています。作業量が十分にないと自由時間ばかりで利用者も退屈します。しかし、点字関連以外のこの作業を利用者は、喜んでいます。全盲の利用者に知的障害がある場合が多く、皆さんが達者に点字の読み書き・校正などができる訳ではありません。その点、内職的な作業は、何個終了したか数えることができ、とても分かりやすいのです。

この 3 年間、コロナ禍の影響で不自由な生活を強いられてきました。しかし、このまま停滞している訳にはいきません。令和 5 年（2023 年）は、コロナ禍以前の生活に戻りたい。心から願っています。

情報サービス部会：85施設

全国の視覚障害者情報提供施設・団体が加盟しており、見えない方・見えにくい方を取り巻く情報環境の向上や読書バリアフリー社会の実現に向けてのさまざまな事業を施設間で連携しながら実施しています。

また部会の主な活動としては、点字指導員、音訳指導員、情報化対応支援者の養成およびスキルアップにかかわる研修会の実施、視覚障害者の選挙情報を保障するため音声版選挙公報（選挙のお知らせ）の製作に取り組んでいます。

（部会長 又木勝人）

社会福祉法人 旭川光風会 旭川点字図書館

〒070-0037北海道旭川市7条通14-66-15		TEL	0166-23-5555
E-mail	fav05071@atlas.plala.or.jp		

当館は、旭川市中心部に位置し、JR 旭川駅よりバスで 10 分程度です。

施設は点字ブロックと同じ黄色で、目立つ建物となっています。施設周辺の歩道は点字ブロックの敷設が施され、一角の私有地に盲導鈴を設置したことで、より便利になりました。

点訳、音訳図書の製作のほか、行政関連のイベント PR などの事業も行っています。

施設には大小の会議室があり、視覚障害者団体の打ち合わせや、クラフト教室・料理教室、サウンドテーブルテニス等に使用されるほか、近くに来たので「一寸（チョット）一服」の場所にも利用されています。

運営主体は社会福祉法人です。隣のデイサービスや三丁（約 300m）離れた場所の盲養護老人ホームは当法人が運営していて、令和 5 年（2023 年）末に建替完了し、新築となり個室の施設になります。

点字図書館を利用する方も、加齢に伴い住環境や生活を考える時期があると思います。そんな時に、確かな情報を身近に提供できる施設でありたいと考えています。

社会福祉法人 小樽市社会福祉協議会 小樽市点字図書館

〒047-0033北海道小樽市富岡1-5-10 小樽市総合福祉センター		TEL	0134-25-7401
E-mail	taruten@pluto.plala.or.jp	URL	http://www.otaru-shakyo.jp/

小樽市では、昭和 40 年代に福祉・医療の充実をはかる施設が計画され、市の中心部に近く、かつ公共交通機関の利便性が良いことから、昭和 46 年（1971 年）に総合福祉センターが、翌昭和 47 年（1972 年）に保健所と医師会館が現住所に、建設されました。当館は、昭和 46 年（1971 年）に点字図書室としてセンター内に設置。昭和 50 年（1975 年）に小樽市総合福祉センター点字図書館として認可。平成 18 年（2006 年）より、小樽市から小樽市社会福祉協議会が指定管理を受け、小樽市点字図書館となりました。

地域に根ざした点字図書館として、開設当初からボランティア団体の協力のもと、ラジオ番組形式で生活情報や利用者からの手紙の紹介、取材した小樽市内の情報、『北海道新聞』の内容を毎日紹介した CD や小樽の視覚障害者団体の会報の製作協力など、地元情報の発信を行っています。また、プライベートサービスや、市から依頼される広報等、および、視覚障害者団体等から依頼された点訳・音訳も行っています。その他ボランティア養成講座の開催や、視覚障害者団体と協力して、館内や市内の環境改善や館内に展示スペースを設け、情報発信に向けて取り組んでいます。

一般社団法人 釧路身体障害者福祉協会 釧路市点字図書館

〒085-0003北海道釧路市川北町4-17 釧路市身体障害者福祉センター			
E-mail	sinsyo-946-centerz@bz04.plala.or.jp	TEL	0154-24-7471

釧路市点字図書館では音訳・点訳のボランティア団体に協力をお願いし、ボランティア団体の支援を行い、年 200 冊近くの音訳図書・点訳図書の製作に力を入れ、点訳図書は約 3,100 タイトル・音訳図書は約 4,800 タイトルを所蔵しております。

また、ボランティア養成講習会を開催し次代を担う音訳・点訳ボランティアの育成を行っております。ボランティア養成講習会は音訳・点訳いずれも釧路市内に住みボランティアに参加できる方を対象としており、6 月～ 11 月頃まで開催しております。音訳はパソコン録音に完全移行するよう努めております。

釧路市で発行されている『広報くしろ』や市議会だより、カレンダーなどの地域定期刊行物の点訳・音訳物の無料配布、プライベートサービス、レファレンスサービス、コピーサービス等を承っております。

札幌市視聴覚障がい者情報センター

〒060-0042北海道札幌市中央区大通西19丁目		TEL	011-631-6747
E-mail	shichokaku@city.sapporo.jp		
URL	https://www.city.sapporo.jp/shinsho-center/shichokaku/index.html		

札幌市視聴覚障がい者情報センターは、視覚・聴覚に障害のある方の情報・コミュニケーションを支援する施設として、平成 17 年（2005 年）5 月に開設されました。

点字図書館業務は、札幌市においては、昭和 40 年（1965 年）より実施されている事業です。

また、札幌市の広報誌の点字・音声版として、『声のさっぽろ』『点字さっぽろ』を製作し、毎月の市政情報を利用者の方々に送付しています。

中途失明者社会適応訓練としては、視覚に障害のある方のための点字、パソコンの訓練を実施しており、それぞれ基本のカリキュラムを設定し、利用者の方の状況に応じて習得できるようにしています。

平成 24 年度（2012 年度）からは、「福祉機器・情報支援機器体験コーナー」を設置し、日常生活用具に指定されている福祉機器などを直接体験できるとともに、機器に関して必要な情報提供を行っています。

社会福祉法人 千歳市社会福祉協議会 千歳市点字図書室

〒066-0042北海道千歳市東雲町2-34 千歳市総合福祉センター内		TEL	0123-27-3921
E-mail	chitose-shikaku@city.chitose.hokkaido.jp		
URL	https://www.chitose-shakyo.or.jp/disability/library.html		

千歳市点字図書室は、視覚障害者の日常生活に必要な地域情報を提供することを目的に設置された施設です。

主に一般図書、定期刊行物、各種雑誌等の製作・貸し出しを行っていますが、個人的に必要な情報、行政が市民に向けた情報、地元選挙にかかわる情報（公報の製作・配布）等の提供も行っています。視覚に障害のある子どもと大人が一緒に楽しめる点訳絵本の貸し出しも行っています。

また、ひとりでも多くの方に視覚障害者の福祉に理解をいただき、点訳、音訳の活動に参加していただけるよう、ボランティアの養成を目的とする講座を開催し、人材確保に取り組んでいます。

規模は小さいながらも熱心な利用者と、多くのボランティアの方々に支えられて地域に密接した事業を展開しており、今後も利用者のニーズに沿った情報の迅速な提供に努めていきたいと考えています。

日本赤十字社 北海道支部点字図書センター

〒060-0002北海道札幌市中央区北二条西七丁目 道民活動センタービル5F			
E-mail	tenkanri@tenjihokkaido.jrc.or.jp	TEL	011-271-1323

点字図書センターは、昭和 54 年（1979 年）9 月、日本赤十字社北海道支部が北海道の要請を受けて設置・運営主体となり設立されました。

当センターは、身体障害者福祉法に基づく情報提供施設で、点字・録音図書の製作・貸し出し、および、図書製作にご協力いただくボランティアの養成を事業の 2 本柱として運営しています。加えて、視覚障害者の個々のニーズにできるだけ対応するために、FAX 代読や代筆等のプライベートサービスも実施しています。

施設内には、点訳ボランティア活動室および六つの録音室を備え、日々、点字・録音図書の製作にあたっています。

また、令和 4 年（2022 年）4 月に新たに設立したテキスト製作奉仕団の協力により、テキストデイジー製作にも積極的に取り組んでいます。

特定非営利活動法人 函館視覚障害者図書館　略称：函館視障図

〒040-0063北海道函館市若松町33-6 函館市総合福祉センター内

E-mail	htt@hakoten.org	URL	http://hakoten.org/	TEL	0138-23-2580

視覚障害者に対して、点訳・音訳図書、雑誌、新聞等の製作や貸し出しを行っています。他に、視覚障害者へのパソコン指導や、代読・代筆支援員による日常生活における種々の情報提供サービスも行って、視覚障害者の読書権の保障と確立を目ざしながら、視覚障害者の社会参加のお手伝いをしています。

また、点訳ボランティア、音訳ボランティア、パソコン点訳ボランティア、代読・代筆ボランティア等の育成のために、毎年、講習会や研修会を開催しています。

当館は、特定非営利活動法人（NPO 法人）として認定され、行政や自治体では行き届かない情報提供サービスをきめ細かく展開すべく、さまざまな事業に積極的に取り組んでいます。しかし、賛助会費や寄付等によって運営している当館にとっては、常に活動資金の不足が悩みの種です。平成 27 年（2015 年）に寄付者が税控除を受けられる NPO 法人として、北海道から認定を受けましたが、事業継続のために、できる限りの努力と工夫を重ねております。

社会福祉法人 ほくてん 北海点字図書館　愛称：ほくてん

〒080-0802北海道帯広市東二条南11-3　TEL 0155-23-5886

E-mail	info@hokuten.com	URL	https://www.hokuten.com

「ほくてん」の名で親しまれている当館は、昭和 23 年（1948 年）ヘレン･ケラー女史の来道を記念し、翌昭和 24 年（1949 年）に全国で 3 番目の点字図書館（初代館長後藤寅市）として北海道帯広市で発足しました。

昭和 40 年（1965 年）から、オリジナルテープ雑誌『北海ジャーナル』を刊行し、声の文芸「俳句・短歌」や、盲界名士による「盲界放談」、利用者が直接参加する「イロハ発言」などを製作、現在は CD 雑誌『アシリ』に引継ぎ、有益な情報の提供に努めています。出版事業では、北海道と帯広市の広報や各種選挙時の点字・録音出版等の受託製作を行っています。

平成 15 年（2003 年）から中途失明者への点字・パソコン指導・生活基礎訓練を実施し、地域の自治体と連携し、外出が困難な方々には自宅へ直接伺い、指導しています。

平成 27 年（2015 年）より、北海道内の道北圏（空白地域）への支援活動を強化するため、名寄事務所（現神奈川事務所）を設置し、関係機関との連携を軸に活動を進めています。

近年では、SNS ツール（Facebook、Twitter、YouTube）での情報発信を行い、支援に関する普及啓発活動にも注力しています。さらに、令和元年（2019 年）より「BLINDSIDE（https://blindside.or.jp）」を立ち上げ、「視覚障害者の新しい活躍の場（就労・イベント等）の支援」等を目的として、動画配信や支援活動を行っています。

今後も、利用者一人ひとりのニーズに応え、日常生活の質の向上を目指し、事業展開を進めていきます。

一般社団法人 青森県視覚障害者福祉会

青森県視覚障害者情報センター　略称：青視セ（アオシ）

〒038-8585青森市大字石江字江渡5-1 青森福祉庁舎3F		TEL	017-782-7799
E-mail	aosise@aosise.com	URL	http://www.aosise.com/

当センターは、平成 12 年度（2000 年度）に点字図書館から視覚障害者情報センターに名称変更されました。平成 18 年度（2006 年度）からは指定管理者制度が導入され、従来の図書製作・貸し出しの他に、視覚障害者に対する情報提供に関し必要な業務を行うことも明示されています。このため関係機関と連携をはかり、利用者の方々が求める情報提供を行うとともに、可能な限り相談等にも対応し、ケースによっては他の機関に繋げる役割をも果たすよう努めております。

社会福祉法人 岩手県社会福祉事業団

岩手県立視聴覚障がい者情報センター

〒020-0045岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1 いわて県民情報交流センター（アイーナ）					
E-mail	iwatesan@aiina.jp	URL	https://www.aiina.jp/site/sityoukaku/	TEL	019-606-1743

昭和 39 年（1964 年）4 月、岩手県点字図書館開館。昭和 53 年（1978 年）、岩手県から岩手県社会福祉事業団が運営を受託。

平成 18 年（2006 年）、盛岡駅西口に新設された「いわて県民情報交流センター」への移転を機に、新たに聴覚障害者情報提供施設機能を加え、岩手県立視聴覚障がい者情報センターとしてスタートしました。

視聴覚障害者一人ひとりの「知りたい」「学びたい」「楽しみたい」という多様なニーズに対応し、点訳図書、録音図書、字幕（手話）入りビデオ等の貸し出し、閲覧および製作、収集を行っています。

また、点訳・音訳・デジタル録音編集ボランティアに加え、IT サポーター、手話通訳者・要約筆記者等の養成講習会を開催し、人材の育成と地域における活動を支援しています。

さらに、点字図書館部門では、情報機器展、交流会（サロン）等を開催し、利用者の方々との交流をはかるとともに、地域の公共図書館と連携をはかりながら、県民に対する啓発活動に取り組み、利用の拡大に努めています。

公益財団法人 宮城県視覚障害者福祉協会

宮城県視覚障害者情報センター

〒980-0011宮城県仙台市青葉区上杉6-5-1		TEL	022-234-4047
E-mail	miyagi-sikaku@nifty.com	URL	http://www.miyagi-sikaku.org/

宮城県内唯一の視覚障害者のための情報提供施設として、自立と社会参加の支援に関する事業を実施しています。

特徴は、宮城県立視覚支援学校敷地内に併設されているため、支援学校の児童・生徒の利用が多いことです。図書の製作・貸出業務のほか、ボランティアの養成、プライベートサービス、対面音訳、点字訓練、相談業務、視覚障害者用情報機器の操作体験および講習などを行っています。

平成 26 年度（2014 年度）より、地域連携推進業務を開始し、県内各地域で情報交流会を開催し、行政・当事者・センターでつながるための場を設けています。

社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団

秋田県点字図書館　略称：アキタテント

〒011-0943秋田市土崎港南3-2-58		TEL	018-845-0031
E-mail	tenji@fukinoto.or.jp	URL	http://www.fukinoto.or.jp/tenji/

当館は点訳・音訳図書製作として、自館製作の月刊誌『PHP スペシャル』（音声デイジー版）、隔月誌『明日の友』（音声デイジー版）、新聞抜粋の『朝日新聞』（音声デイジー版）と『あきた魁（サキガケ）新報』（音声デイジー版）のほか、12 館共同の週刊誌『週刊文春』（デイジー版）を製作しています。このほか、秋田県の広報『あきたびじょん』（録音版）『秋田県議会だより』（録音版）を受託・製作しています。当館情報紙として『点図だより』（音声デイジー版）も製作しています。

また、利用者個人の資料の点訳、音訳も製作しています。

このほかの事業としては、「利用者懇談会」、視覚障害者団体との共催による「情報機器展」、小中学生対象として「夏休み点字図書館探検」や「中高生職場体験」を行うほか、毎週月曜日の午前中に音訳ボランティアが電話で新聞記事を読みあげるサービスなどを行っています。

社会福祉法人 山形県身体障害者福祉協会 山形県立点字図書館

〒990-0031山形市十日町1-6-6		TEL	023-631-5930
E-mail	yamaten@ic-net.or.jp	URL	http://y-sinsyokyo.com/

山形県が設置し、山形県身体障害者福祉協会が運営しています。

主な事業として、点字図書・録音図書（テープ・CD）・点字雑誌・録音雑誌の貸し出し、利用者依頼のプライベートサービスやリーディングサービスを行っております。図書館だよりを隔月ごとに発行し最新の図書の紹介、便利グッズやイベントの開催予定、利用者の声などを掲載し利用者への情報提供に努めています。

また、図書を製作するボランティアの育成・指導を行い、正確な図書製作を心がけております。

広く図書館を PR するため、移動点字図書館として、盲学校や小・中学校、福祉施設・病院等の行事に参加し、利用紹介や点字、プレクストーク、音声パソコンの体験を行っています。

視覚障害者情報交流会を毎年各地域で開催し、講演会、勉強会、音声ガイドアプリを使用した映画体験会、機器体験会、参加者同士の交流会など、その年毎にテーマを決めて行っています。

中途視覚障害者緊急生活訓練事業では、相談窓口として福祉制度や関連機関のご紹介、スマートフォンや視覚障害者用具の使い方、希望者に点字指導を実施しています。

公益社団法人 福島県視覚障がい者福祉協会 福島県点字図書館

〒960-8002福島市森合町6-7		TEL	024-531-4950
E-mail	fukushimatenji@ad.wakwak.com	URL	http://park22.wakwak.com/~fukushimatenji/

本館は、指定管理者である「公益社団法人福島県視覚障がい者福祉協会」が、当事者団体としての知見を生かし、また、当協会が県より受託している「福島県視覚障がい者生活支援センター事業」との連携を図りながら、管理運営をしています。

本館では、広い面積を有する福島県をカバーするために、平成 20 年度（2008 年度）から本館の PR と利用登録者の拡大、開催自治体の福祉施策についての説明会、最新情報機器の展示等を行う目的で「視覚障がいを知る地域交流会」を、毎年県内（2 カ所の市町村）で開催しています。この際には、開催地の障害福祉担当課のご協力をいただいています。

また、本館では毎年、県内から希望者を募り、点訳、音訳、デイジー編集、テキストデイジー奉仕員それぞれの養成講座を実施しています。さらに、当館に登録している奉仕員を対象に各種研修会を実施し、正確で読みやすい、聞きやすい図書製作に努めています。

そして、ここ数年は、本館職員のスキルアップを目指して、各種研修に積極的に参加してもらっています。音訳・点訳指導員研修会・認定試験、同行援護従業者養成研修等です。

これからも、県内外の視覚障害者の読書環境の充実のため、努力を重ねて行きたいと考えています。

社会福祉法人 茨城県視覚障害者協会 茨城県立点字図書館 愛称：茨点			
〒310-0055茨城県水戸市袴塚1-4-64		TEL	029-221-0098
E-mail	ibacenter@work.nifty.jp	URL	http://ibacenter.la.coocan.jp/

当館は茨城県により設立され、現在は社会福祉法人茨城県視覚障害者協会が指定管理者として「茨城県立視覚障害者福祉センター」とともに運営を行っております。この利点を活用し、利用対象である茨城県内在住の視覚障害者と有機的に協調し、点字図書館としての製作・貸し出しのみならず総合的な情報提供、中途失明者緊急生活訓練や視覚障害者に対する社会生活教室等の各種支援事業を複合的に行っております。

点字広報等発行事業として、全国紙や地方新聞の記事抜粋、地元ミニコミ誌や写真週刊誌などを音訳し、茨城県内の利用者、および他県点字図書館や公共図書館などに提供しております。

また、点字版の広報として、社会福祉法人日本視覚障害者団体連合より配信される『点字 JB ニュース』を発行しております。

社会福祉法人 栃木県社会福祉協議会 とちぎ視聴覚障害者情報センター			
〒320-8508栃木県宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ2F		TEL	028-621-6208
E-mail	sityokaku-tenji@tochigikenshakyo.jp		
URL	https://www.tochigikenshakyo.jp/service/center/index.html		

当センターは、栃木県内の視覚障害者に対する情報提供の拠点として、点訳・音訳図書等の製作および貸し出し、点訳・音訳ボランティアの技術向上に取り組んでいます。

また、視覚障害者を対象にしたパソコン講習、地域ボランティアグループと連携した点訳・音訳なども行っており、視覚障害者の社会参加と理解の促進に努めています。令和 3 年（2021 年）には視覚・聴覚に障害のある方の ICT 機器の利活用を支援する「栃木県障害者 ICT サポートセンター」を開設し、相談対応やパソコンボランティアの養成等にも取り組んでおります。

より多くの利用者のみなさまに安心して利用いただける施設となるよう、今まで以上にサービスの充実を心がけていきます。

社会福祉法人 群馬県社会福祉事業団・公益社団法人 群馬県視覚障害者福祉協会

群馬県立点字図書館 略称：群馬点図

〒371-0843群馬県前橋市新前橋町13-12 群馬県社会福祉総合センター3F

E-mail	guntento@mtd.biglobe.ne.jp	URL	https://www.guntento.org/	TEL	027-255-6567

当館は昭和 48 年（1973 年）の設立当時から群馬県社会福祉事業団が運営受託をしてきましたが、平成 18 年度（2006 年度）からの指定管理者制度導入により、群馬県視覚障害者福祉協会と当事業団が共同で管理運営を行っています。共同運営により、利用される方のニーズを的確に把握し、即応したサービスの提供を心がけています。

主な事業は、①利用者サービス（図書等の貸し出し、プライベート点訳・音訳）、②図書等の製作・収集、③ボランティアの養成です。

視覚に障害のある方の「読書権」「知る権利」を保障するために、図書製作はもとより、図書情報等へのアクセス保障にも取り組んでいます。デイジー図書については、再生機の貸し出し・再生機操作相談を行い、利用促進に力を入れています。また、数年前よりシネマデイジー、テキストデイジーの製作も行っており、より多くの媒体から選んで利用できるよう、資料の充実に努めています。平成 28 年（2016 年）からは啓発普及活動として、県内の視覚障害者支援施設・団体による視覚障害者等支援ネットワーク「まゆだまネット」を発足させ、広く県民を対象としたイベント「まゆだまネットフェスタ」を開催してきました。今後も関係機関との連携をさらに強化し、皆さまに役立つさまざまな情報を発信していきたいと考えています。

社会福祉法人 埼玉県ブルーバードホーム

埼玉県立熊谷点字図書館

〒360-0031埼玉県熊谷市末広3-9-1 埼玉県熊谷地方庁舎3F TEL 048-525-0777

E-mail	kumaten@kuh.biglobe.ne.jp	URL	http://www.normanet.ne.jp/~kumatten

当館は、平成 18 年（2006 年）1 月 6 日付埼玉県告示第三十八号で、社会福祉法人埼玉県ブルーバードホームの長年の実績が高く評価され、指定管理者として埼玉県より管理運営を委託された施設です。

活字による読書が難しい視覚障害者等のために、点字図書、録音図書および雑誌等の貸し出し、閲覧を行い、社会的・文化的教養の向上をはかるとともに、点訳・音訳・デイジー編集ボランティアの育成指導を行い、視覚障害者等の福祉の向上に努めています。

点字により日常生活の情報を得ている視覚障害者等に対し、新聞等による最新情報を提供するニュースサービス（点字 JB ニュース）があります。また、さまざまな読書相談にお応えし、趣味や学習などの目的で手元に点字図書や録音図書を置いて役立てたい、データで持っていたいなどのサービスにも対応しております。

視覚に障害のある方や文字を読むことが困難な方など活字による読書が難しい方なら、どなたでもご利用できます。ご登録を心よりお待ち申しあげます。

社会福祉法人 埼玉県視覚障害者福祉センター 埼玉点字図書館

〒330-0852埼玉県さいたま市大宮区大成町1-465		TEL	048-652-4824
URL	http://saitamatenji.jp/		

視覚障害者用図書（点字・録音）の貸し出し・製作と利用支援を行っています。

【貸出】点字図書、録音図書（デイジー CD 図書）の貸し出しを郵送等で行っています。デイジー CD 図書を体験できるようにデイジー図書再生機の貸し出しも行っています。

多様なニーズに応えるため、他館借り受けのほか、複写、L サイズ点字の打出しによる貸し出し等も行っています。

【製作】点字や録音のボランティア養成を行い、図書・雑誌・広報等を製作しています。点字雑誌では、『日本経済新聞』のニュース用語解説『きょうのことば』、『日本経済新聞』の朝刊コラム『春秋』を製作しています。録音雑誌では、週刊誌『ニューズウィーク日本版』、パソコン関連の月刊誌『日経 PC21』、川柳等の投稿を掲載した月刊誌『文芸ネットワーク』を製作しています。そのほか、個人依頼による資料の点訳、音訳、テキストデイジー編集、対面朗読を行っています。

【利用支援】読書バリアフリーを目指して、サピエ図書館の活用支援、デイジー図書再生機の個別操作説明（予約制）、パソコンやスマートフォン等の各種講習会を不定期で開催して、利用者への情報提供に努めています。また、中途障害の方の点字習得支援にも力を入れています。『図書館報』での情報提供や初心者向けの点字読み物の発行、点字一覧表の配布を行っています。

社会福祉法人 千葉県視覚障害者福祉協会
視覚障害者総合支援センターちば 略称：視障センターちば

〒284-0005千葉県四街道市四街道1-9-3		TEL	043-424-2501
E-mail	center-chiba@tisikyo.jp	URL	https://www.tisikyo.jp/

運営法人は、当事者が経営する法人として会員活動のほか、同行援護事業所のぞみ、就労継続 B 型ワークショップ四街道を経営しています。同行援護従業者の養成研修事業も実施しています。

当センターでは、「視覚障害とともに生きる」ことを基本理念として、情報とリハビリテーションの一貫した支援サービスを提供するとともに、こうした人びとの地域生活を支える基盤整備を行うことによって、視覚障害者の社会自立を総合的に支援することに努めています。

具体的には、当センターで実施する点字図書館運営事業、点字出版事業、視覚障害者生活訓練・コミュニケーション等支援事業、（視覚）障害者 IT 支援事業（三者共同事業体の代表団体）、福祉用具斡旋販売事業の各事業を連携させることにより、千葉県における視覚障害者の拠り所となるよう努めています。特に、中途視覚障害者のリハビリテーションについては、平成 7 年（1995 年）に開始された在宅訓練の経験と、昭和 26 年（1951 年）創設の点字図書館が一体となって支援する体制が整ったことは、1,000 人を超える訓練修了者の生活の質の向上に寄与できたものと考えます。さらにスマートサイト（アイサポネット千葉）の中心施設として相談体制を構築しています。平成 25 年（2013 年）から開始した公共図書館、特別支援学校向けの「視覚障害サービス担当者研修会」はサピエ図書館やデイジーの普及に大いに貢献しています。

大田区立障がい者総合サポートセンター 声の図書室

〒143-0024東京都大田区中央4-30-11 A棟3F	TEL	03-5728-9434

対象者：大田区内在住の視覚障害者、障害などにより活字読書が困難な方

事業内容：①録音図書・点字図書等の製作と貸し出し。②プライベートサービスとして、個人向けにパンフレットや各種取扱説明書など墨字で表記されたものの録音・点訳サービスの実施（原本の準備や必要な CD、点字用紙代等は自己負担）。③対面朗読。④録音図書再生機等貸し出し。⑤中途失明の方を対象とした点字講習会の実施。

定期刊行物として、『おおた区報』、『おおた区議会だより』、『声の図書室だより』、『おとなりさん』（大田区・品川区の情報雑誌）『歴史街道』を製作・発行しています。

『歴史街道』は特に人気のある雑誌で、全国の協力施設からバックナンバーのお問い合わせをいただきます。しかし、バックナンバー貸し出しは、最新号発行の 2 年前までとなっています。

その他にも、点訳者養成講座（入門・初級・中級）、音訳者養成講座（初級・中級）の開催や定期的に情報交換会や現任研修を行いながら、点訳者・音訳者の技術向上をはかっています。

公益財団法人 すこやか食生活協会

〒103-0023東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル4F	TEL	03-5641-5311
E-mail	info@sukoyakanet.or.jp	URL	http://www.sukoyakanet.or.jp/

当協会は、昭和 59 年（1984 年）に創立され、食生活に関する知識と情報を録音した月刊『声の食生活情報』を、カセットテープまたはデイジー対応の CD により視覚障害者個人、視覚障害者福祉協会、点字図書館、盲学校などへ無償で提供しています。

この月刊『声の食生活情報』は、当協会のホームページ「すこやか食生活ネット」からも過去 1 年分のバックナンバーを聴いていただけるほか、サピエ図書館からダウンロードして聴いていただけます。

また、視覚障害者が自立してよりよい食生活を営むための手引として、大活字・透明点字を併用し、それに音声コードをつけたレシピ集を作成し、視覚障害者個人や点字図書館などに無償で配布するとともに、このレシピ集を盲学校の授業などにご活用いただいています。

このほか、当協会のホームページでは献立のヒントとなるレシピを、音声でも聴ける形で提供しています。

さらに、シニア世代の食生活に関する課題に対応した各分野の専門家による食育セミナーの開催、料理教室の開催によるバランスのとれた食事の指導、よりよい食生活のためのパンフレットの製作配布なども行っています。

社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会 点字図書館

〒169-0072東京都新宿区大久保3-14-20		TEL	03-3200-0987
E-mail	toshokan@thka.jp	URL	https://thka.jp

法人が運営する、あはき師養成施設「ヘレン・ケラー学院」の図書室を拡充・発展させ、昭和 49 年（1974 年）に点字図書館として開設しました。全国の視覚障害者等に対し、点字図書、録音図書の貸し出しを行っています。

利用者のニーズに沿った点訳・音訳を心がけ、所属する約 120 人のボランティアが点字・録音図書の製作に務めています。

また、中途視覚障害者のための点字講習や、見えない・見えにくいことによる不自由さを軽減するための相談支援、歩行訓練・日常生活訓練を実施しています。

相談・訓練は、支援員一人という制約のなかで、インフォーマルサービスであることを強みに障害初期の方、身体障害者手帳を持たない方も含めた柔軟な対応を行い、支援の入口としての役割を担っています。

図書の利用や点字講習への問い合わせから情報提供・生活相談に発展することもあり、ニーズに応じて、専門的な支援へ繋げるために近隣の支援機関とも連携しながらさまざまな形での支援を提供しています。

豊島区立中央図書館 資料･点字図書館グループ 通名：ひかり文庫

〒170-8442東京都豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル5F		TEL	03-3983-7864
E-mail	hikari@library.toshima.tokyo.jp	URL	http://www.library.toshima.tokyo.jp/

ひかり文庫は豊島区立中央図書館に併設されている点字図書館です。昭和 45 年（1970 年）11 月に発足し、昭和 47 年（1972 年）4 月点字図書館として厚生省より認可を受けました。

点字図書・録音図書（テープ・音声デイジー）、拡大写本、さわる絵本などを備え、視覚に障害のある方などに貸し出しを行ったり、新刊案内『今月の本棚』（毎月 1 回）、デイジー雑誌『図書館通信』（季刊）の発行を行っています。ひかり文庫にない図書でも他の公共図書館や点字図書館から取り寄せることもできます。

対面朗読、点字指導員による点字指導、ボランティア団体による点字・録音図書やテキストデイジーの製作、個人資料の点訳・音訳のプライベートサービス、ボランティア養成のための音訳講習会・点訳講習会を実施しています。

また、館内の視覚障害者用の機器（音声・点字パソコン、点字プリンター、拡大読書機など）がご利用できます（ご利用の際は事前にご連絡ください）。

開館時間：午前 10 時～午後 6 時

休館日：毎月第 2 月曜日、第 4 金曜日、年末年始、特別整理期間

社会福祉法人 日本点字図書館 利用サービス部　略称：にってん

〒169-8586東京都新宿区高田馬場1-23-4		TEL	03-3209-2442
E-mail	tosyo@nittento.or.jp	URL	https://www.nittento.or.jp/

【利用サービス部】

当館の読書サービスは、全国の視覚障害者を対象に三つの方法で提供しています。一つ目は、点字図書、録音図書を点字冊子や CD という形態で貸し出する方法。二つ目はご自身で用意していただいた SD カードやコンパクトフラッシュカードなどに、点字データ、録音データをダウンロードして提供する方法。三つ目はデイジーオンラインに対応した再生機をお持ちの方を対象に、メニューの中にある新着リストへ録音データをオンラインを利用して提供する方法です。

二つ目と三つ目はサピエ図書館が保有するすべてのコンテンツからお好きな図書を選ぶことができます。新刊本、人気の本でも予約待ちなしで、返却期限を気にすることなく利用することができます。

また、希望する本を見つけられない利用者には、レファレンスサービスであいまいな情報から本を探し出します。もし、希望する本が全国の点字図書館に無い場合は、プライベートサービスとして原本をご用意いただき、対面朗読や点字化・デイジー化・テキスト化を行っております（東京都に在住、在学、在勤している方のみご利用になれます）。

その他、視覚障害者のための IT 教室を開講しております。

特定非営利活動法人 日本点字技能師協会　略称：日点協（ニツテンキヨウ）

〒160-0022東京都新宿区新宿七丁目12-1 新宿平和ビル1F		TEL	080-1330-7282
E-mail	nihontenjiginoushikyoukai@gmail.com	URL	http://nittenkyo.her.jp

日本点字技能師協会は、点字技能師を中心に組織する特定非営利活動法人（NPO 法人）です。平成 15 年（2003 年）の設立以来、会員をはじめ、多くの関係者の方々のご協力をいただき、正しい点字の普及と、視覚障害者への理解を深めることを目標に活動してまいりました。

視覚障害者にとっての情報環境は、各種制度の創設や IT 機器の進歩により改善されてきました。

しかし、点字による提供が望ましいと思われる公的な通知もいまだ十分になされていないのが現状です。これは各自治体などが点字での通知の必要性を認識していないこと、点字での提供のノーハウを持っていないことなどによるものだろうと考えられます。

点字技能師をもっと増やし、それぞれが持っている知恵を交換し合い、一人ひとりの資質向上をはかること、そして点字技能師の社会的認知度を高め、各地域で活躍できる場を広げていくことがこの問題解決にもつながるものと考えます。

【おもな活動内容】

◆研修会の開催

◆機関誌『日点協通信』の発行

◆（点字技能師を目指す方を対象とした）点字技能師チャレンジ講習会の開催

◆『点字技能検定試験の対策　過去問題の正答と解説』の発行

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合

日本視覚障害者センター情報部　略称：日視連情報部

〒169-8664東京都新宿区西早稲田2-18-2		TEL	03-3200-0011
E-mail	jouhou@jfb.jp	URL	http://nichimou.org/

日本視覚障害者団体連合は、視覚障害者自身の手で“自立と社会参加”を実現しようと組織された視覚障害者の全国組織です。昭和 23 年（1948 年）に「日本盲人会連合」として結成され、略称「日盲連」として親しまれてきましたが、令和元年（2019 年）に法人名を「日本視覚障害者団体連合」に改名し、略称も「日視連」に変わりました。現在、都道府県および政令指定都市における 60 の視覚障害者団体の連合体として各種の活動を行っています。国や地方自治体の視覚障害者政策（人権保障、福祉、教育、職業、環境問題等）の立案・決定に際し、視覚障害者のニーズを反映させるため、陳情等の組織的な活動を展開しています。また、本部のある日本視覚障害者センターでは、点字図書館、点字出版所、録音製作所、用具購買所の運営の他に、調査研究、点字ニュース即時提供事業、総合相談事業等の各種の事業を行っています。

情報サービス部会に加盟している情報部では、点字ニュース即時提供事業として、月曜～金曜の毎日『点字 JB ニュース』の編集と発信を行い、『情報メール』の名称で福祉関連記事や職業関連記事を送信しています。

また、ホームページの作成・更新、インターネットによる『日視連声のひろば』をはじめ、月刊の『点字日本』、『日視連アワー』、隔月の『点字厚生』、『声の広報「厚生」』、季刊の『愛盲時報』など、定期刊行物用の原稿を作成しています。

霊友会法友文庫点字図書館

〒106-0041東京都港区麻布台1-11-4 いんなあとりっぷビル7F		TEL	03-3586-5755
E-mail	hoyubunko@reiyukai.or.jp		

当館は季刊誌『法友文庫だより』（墨字版、点字版、デイジー版）を発行しています。

点字図書では、霊友会が毎月発行している雑誌『あした 21』、『明法』を発行する他、仏教関連の図書を中心に製作・貸し出しをしています。

録音図書では、『あした 21』発行の他、仏教関連図書、マンガ音訳の製作・貸し出しを行っています。

若い世代の点訳・音訳ボランティアを育成するため、「点訳講習会」「音訳講習会」も実施しています。また、「三者生き方フェスティバル」等のイベントで点字体験会や視覚障害者の誘導体験を行っています。

「日墨交流団」としてメキシコから来日する方々が毎年来館され、日本の障害者福祉や点字図書館について話し、交流を深めています。

社会福祉法人 ぶどうの木 ロゴス点字図書館

〒135-8585東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館内		TEL	03-5632-4428
E-mail	logos@logos-lib.or.jp	URL	https://www.logos-lib.or.jp/

「ロゴス点字図書館」は昭和 28 年（1953 年）、東京都大田区カトリック洗足教会内に「カトリック点字図書館」として創立されました。そして平成 13 年（2001 年）4 月に社会福祉法人格を取得し、名称もあらたに、「社会福祉法人ぶどうの木ロゴス点字図書館」として再スタートをきりました。

視覚障害者はその障害ゆえに諸困難を経験し、それを“苦しみ”として受けとめています。苦しむことを通して、人は“考える”ことを始めます。“考える”ことは、人の内面生活を豊かにすることになり、さらに内面生活が豊かになれば、それは人生の充実につながります。

このことを踏まえ、私たちは〈考える図書館〉を理念として掲げ、視覚障害者が考えるよすがとなる点字や録音などの資料を提供していくことを使命としています。

【名前の由来】

ぶどうの木：夕日に照らされ、棚から重く垂れ下がっている「ぶどう」は豊かさをあらわし、人々は「ぶどうの木」の下で平和を味わう。

ロゴス：ギリシャ語で「言葉」、「原理（神）」をあらわす。点字図書も音訳図書もみんな言葉。

日本赤十字社 神奈川県ライトセンター

〒241-8585神奈川県横浜市旭区二俣川1-80-2		TEL	045-364-0023
E-mail	mail@kanagawalc.org	URL	http://www.kanagawalc.org

当センターは、神奈川県内の視覚障害者（児）を対象に、総合的なサービスを提供しています。

当センターの図書や雑誌は、ほぼ全てボランティアが製作しています。雑誌は、現在点字雑誌 7 誌と録音雑誌 15 誌を製作・発行しています。蔵書以外にも、利用者個人が希望する資料を点訳や音訳、拡大する活動や、対面での音訳活動も行っています。

ボランティアの養成では、点訳・音訳・拡大写本・誘導・在宅援助・IT サポート・スポーツ介助等を行い、指導者の育成も行っています。

視覚障害者に対しては、白杖歩行訓練、デイジー図書再生機やパソコン・スマートフォン等の IT 機器の操作訓練、調理や裁縫等の家事動作訓練等を行っています。

相模原市立視覚障害者情報センター

〒252-5277神奈川県相模原市中央区富士見6-1-1 ウェルネスさがみはらA館2F

E-mail	shikaku-joho@city.sagamihara.kanagawa.jp	TEL	042-769-8275
URL	https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kosodate/fukushi/1026641/1006539.html		

相模原市立視覚障害者情報センターは、視覚障害者への情報提供施設として、平成 29 年（2017 年）4 月にオープンしました。

視覚に障害のある方へ点字図書や録音図書の貸し出しを行うほか、市内の点訳赤十字奉仕団や録音奉仕会と連携し、点字図書や録音図書の製作、対面朗読、書籍を音訳し CD 等に録音するリーディングサービスの提供を行っています。

また、視覚に障害のある方の生活をサポートするため、相模原市視覚障害者協会と連携し、「視覚障害なんでも相談サロン」を月 2 回開催し、ピア相談や情報交換の場の提供、情報機器の体験をサポートするなど、サービスの充実に努めています。

藤沢市点字図書館　略称：藤沢点図

〒252-0804神奈川県藤沢市湘南台7-18-2 藤沢市総合市民図書館内

E-mail	taiyo-2@cityfujisawa.ne.jp	TEL	0466-44-2662
URL	https://www.lib.city.fujisawa.kanagawa.jp		

藤沢市点字図書館は、公共図書館（藤沢市総合市民図書館）内にあります。この利点を生かし、映画会や音楽会などの事業を一緒に企画しています。

毎年の大きなイベントとして、「手で触れて見る彫刻展」を開催しています。市内在住の彫刻家である桒山賀行（クワヤマガコウ）氏のご協力のもと、普段は触れる機会のない彫刻に手で触れることができる催しとなっています。平成 4 年（1992 年）から毎年開催しており、令和 4 年（2022 年）12 月は 4 日間の開催で、延べ 528 人の方にご来場いただきました。動植物など自然のものから、観音像や仏像、家族をモデルにしたものなど、さまざまなモチーフの彫刻が展示されます。

また、毎年特別企画などを実施し、視覚障害のある方も晴眼者の方も一緒に楽しんでいただくことができるイベントとなっていますので、どうぞご来場ください。

横須賀市点字図書館

〒238-0041神奈川県横須賀市本町2-1 横須賀市立総合福祉会館4F			
E-mail	we-hw@city.yokosuka.kanagawa.jp	TEL	046-822-6712
URL	https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2625/tennto/		

横須賀市が直営で運営する点字図書館です。毎年、それぞれ 60 タイトル以上の点訳・音訳の作品を製作している他、市が発行している広報誌や『障害者福祉の手引き』、観光用パンフレット、店の紹介など、市民の生活に密着した資料提供を行っています。

全国でも数少ない市立の点字図書館であるため、市内の視覚障害者の方に「点字図書館があってよかった」と思っていただけるような図書館を目指しています。最近では、iPhone・iPad の音声読み上げ機能を学ぶ講習や勉強会も開催しています。

また、サピエ図書館を支える一図書館として、一時の流行で終わってしまう本ばかりでなく新聞の書評で紹介された本など、長くご利用いただける資料の製作も心掛けています。

社会福祉法人 新潟県視覚障害者福祉協会

新潟県視覚障害者情報センター

〒950-0121新潟市江南区亀田向陽1-9-1 新潟ふれ愛プラザ2F		TEL	025-381-8111
E-mail	ngt@ngt-shikaku.jp	URL	http://ngt-shikaku.jp/

当県での点字図書館のはじまりは、大正 9 年（1920 年）に姉崎惣十（アネザキソウジユウロウ）郎が新潟県柏崎市の自宅に開設した「姉崎文庫」にさかのぼります。当時としては珍しく点字図書の無料の郵送貸出を実施していました。大正 15 年（1926 年）にその運営を新潟県盲人福祉協会（現新潟県視覚障害者福祉協会）が引き継ぎましたが、昭和 33 年（1958 年）には新潟県が新設した「新潟県点字図書館」へ蔵書と図書館業務を移管、その後長年にわたり新潟県の直営施設となります。

平成 9 年（1997 年）に新潟県から新潟県視覚障害者福祉協会に業務委託され、平成 18 年（2006 年）には、指定管理者の指定を受けます。その後、時代の流れに合わせる形で平成 29 年（2017 年）に施設の名称を現在のものに変更しました。

現在のサービス内容は、点字図書、録音図書の製作および貸し出しをメインに、時代やニーズに合わせた情報入手のための機器操作支援、各種情報配信、利用者参加のイベントの企画等を実施し、県内の視覚障害者の情報入手およびより良い生活を送るためのサポートをおこなっています。

時代や運営主体は変わっても「姉崎文庫」からの思いを引き継ぎ、多くの図書製作ボランティアや協力団体、利用してくださる皆様の想いに支えられて運営しています。

社会福祉法人 富山県視覚障害者協会

富山県視覚障害者福祉センター　愛称：とやまライトセンター

〒930-0077富山市磯部町3-8-8		TEL	076-425-6761
E-mail	bcb05647@nifty.com	URL	https://www.toyama-ssk.com

点字図書館と盲人ホームの複合施設であり、富山県内の視覚障害者の活動拠点として活動しています。点字・録音図書製作やボランティアの養成講習はもとより、地方自治体発行の広報等の製作を始め、社会福祉法人富山県視覚障害者協会が受託する障害者社会参加総合推進事業として、70 回を越える点字競技会の開催やパソコン競技会、文化祭、球技大会、更生相談会、ボランティアと利用者交流会、宿泊研修等の開催に加え、各種訓練・生きがい教室、スポーツ教室の月 1 回の開催、また、点字、パソコンの指導、日常生活用具・福祉機器の展示を行っています。

設置経営者である富山県視覚障害者協会と協力し、県内視覚障害者の福祉と文化の向上ならびに自立と社会参加をより推進するため、事業に取り組んでいます。

社会福祉法人 石川県視覚障害者協会

石川県視覚障害者情報文化センター

〒920-0862石川県金沢市芳斉1-15-26		TEL	076-222-8781
E-mail	jimukyoku@ishishikyo.jp	URL	http://www.ishishikyo.jp

開設以来点字に関しては『日本点字表記法』および『点訳のてびき』にしたがって正確に点字表記された点訳図書の製作を目指してきた。

職員・点訳グループのメンバー・盲学校教員からなる点字・触図研究会を作り、点字の学習・研究を行った時期もある。そしてその結果として『点字表記辞典』の発行につながった。

音訳図書に関してもやはり同じく質の良いものを製作すべく努めてきた。

また、多くの人に喜ばれるものをと、『NHK きょうの健康』を初めとする録音雑誌では全文音訳の制作に積極的に取り組んでおり、全国各地に多くの読者がいる。

さらに、情報支援員を配置し、IT サポートボランティアの協力を得ながら利用者・点訳ボランティアなどのパソコン指導も行っている。

社会福祉法人 福井県視覚障害者福祉協会 情報提供センター

〒910-0026福井市光陽2-17-8 福井県視覚障害者情報文化会館		TEL	0776-23-4647
E-mail	fkit@angel.ocn.ne.jp	URL	https://www.fukushikyo.org/

当法人は昭和 33 年（1958 年）に事業を開始し、昭和 48 年（1973 年）に社会福祉法人として認可されました。

平成 15 年（2003 年）4 月に福井県視覚障害者福祉協会の拠点施設「福井県視覚障害者情報文化会館」が完成しました。この施設は県内の視覚障害者の長年の念願が実現したもので、建設にあたっては、日本財団、福井県、県内各市町、企業、協会会員、点字図書館利用者、施設ボランティア等さまざまな方のご厚志をいただきました。

この施設を拠点として、視覚障害者が安心・安全な社会生活を高めるよう、更生相談事業、身体障害者居宅支援等事業、盲人ホーム設置事業、地域活動支援センター事業、グループホーム事業、家庭生活訓練事業、社会生活教室開催事業、ガイドヘルパー斡旋事業、日常生活用具の斡旋等を行っています。

点字図書館（情報提供センター）も併設され、点訳・音訳奉仕員養成事業の実施を始め、図書の貸し出しや館間貸出など全国の点字図書館と協力して利用者の利便に供しています。

社会福祉法人 山梨ライトハウス 情報文化センター

〒400-0064山梨県甲府市下飯田2-10-1		TEL	055-222-3502
E-mail	joho@y-lighthouse.jp	URL	https://yamanashi-lighthouse.or.jp/

山梨ライトハウス情報文化センターでは、図書館活動を中心事業として、視覚障害者への情報提供ならびに点訳・音訳奉仕者の育成、視覚障害者に対する相談・自立訓練、県民に対する啓発交流などを積極的に行なっています。

図書館の事業としては、厚生労働省委託書の貸し出し、公立図書館への一括貸し出し、点訳・音訳・写本奉仕および購入などにより蔵書の充実に努めています。

読書の奨励としては、自館オリジナルの月刊広報『うるおい』（点字・録音・拡大）、月刊雑誌『山梨ジャーナル』（録音）の発刊により新刊図書の紹介をしています。また、現在 220 人の点訳・音訳・写本等の奉仕者の方々が、独自に技術研修、交流活動、機関誌の発行などを積極的に実施し、研鑽を積んでいます。

県民への啓発運動として、創設以来毎年 11 月を中心に行われる「白い杖愛護運動」では、教育現場と連携し、白い杖愛護作文の募集を行っています。さらに視覚障害者への理解を高める事業として、夏休みに児童親子を対象に点字・アイマスク体験や、盲導犬学習会などを実施しています。

社会福祉法人 長野県身体障害者福祉協会

長野県上田点字図書館　略称：上田点図

〒386-0014長野県上田市材木町1-2-5		TEL	0268-22-1975
E-mail	tenjitoshokan@city.ueda.nagano.jp		
URL	https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/tenjitoshokan/1184.html		

長野県上田点字図書館の沿革は昭和 30 年（1955 年）6 月に全国初の公立点字図書館として開館したことに始まり、昭和 49 年（1974 年）に社会福祉法人の施設として移転新築、運営は上田市が受託するという転換を経て現在に至っています。

この間、県内外に点字図書やデイジー図書を貸し出すほか、それらの図書を製作するボランティアの養成および技術向上にも注力して蔵書を充実させ、県内唯一の点字図書館としての役割を果たそうと努めてきました。また製作した蔵書のデータは、今後もサピエ図書館にアップロードすることにより全国の多数の方の利用に供していきます。

社会福祉法人 岐阜アソシア

視覚障害者生活情報センターぎふ　略称：生活情報センター

〒500-8815岐阜市梅河町1-4		TEL	058-263-1310
E-mail	center@gifu-associa.com	URL	https://www.gifu-associa.com/

明治 24 年（1891 年）に発生した濃尾大震災で被災した視覚障害者の救済活動に当たった森巻耳（モリケンジ）と宣教師 A.　F.チャペルは、被災した視覚障害者の救済と生活安定のために「鍼灸按伝習所」を開設しました。これが、やがて全人的に教育を行う視点から盲学校開校へと発展していくことになり、明治 27 年（1894 年）日本で 5 番目の盲学校「岐阜聖公会訓盲院」が誕生しました。

昭和 15 年（1940 年）同訓盲院は県に移管され、岐阜県立岐阜盲学校となり、翌昭和 16 年（1941 年）に社会事業部門を主体とした「岐阜訓盲協会」を設立し、新たな道を歩み始めます。

当初は、視覚障害女性の生活・訓練・就労の場でしたが、昭和 34 年（1959 年）に「岐阜訓盲協会点字図書館」を開設。その後は時代時代に応じた事業を展開し、平成 9 年（1997 年）には念願の新センターが建設され、これを機に現在の法人名と施設名に改称しました。

現在は点訳・音訳図書製作・貸し出し、触図・拡大写本製作のほか、各種指導・訓練（点字・歩行・生活・ICT 機器）やリーディングサービス（読み聞かせ）と音声解説付き映画上映会などを行っています。その他、防災運動会や事業資金確保のためのチャリティーバザー（年 2 回）を岐阜はもんの会（奉仕者の会）を中心に実施しています。

宗教法人 日本キリスト改革派 静岡教会

静岡キリスト教盲人伝道センター

〒422-8041静岡市駿河区中田1-5-21		TEL	054-285-0496
E-mail	shizumouden@dct7.net	URL	https://dct7.net/

当センターは令和 5 年（2023 年）、創立 55 周年を迎えます。主な業務は、キリスト教図書専門の点字図書館としてのリクエストによる図書製作・貸し出しで、超教派のキリスト教図書を扱っています。また、『百万人の福音』、『信徒の友』等の月刊誌も製作し、多くの方々にご利用いただいています。

新約聖書ローマ書 12 章 9 ～ 11 節に次のような言葉があります。「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい」。

福音に仕える奉仕は、このような神様の言葉に学びつつ、キリストの恵みに与りつつ、神様にお仕えする奉仕です。ただそこにだけ奉仕の継続の力の源泉があると思います。

お一人おひとりがセンターの働きに直接触れ、心に覚え、祈り始めてくださること、そのことの意味は決して小さくありません。神様のご支配は、そのような小さなところから始まって、やがて大きく成長して行くのです。

静岡県視覚障害者情報支援センター

〒420-0856静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館2F		TEL	054-253-0228
E-mail	info@i-center-shizuoka.jp	URL	https://i-center-shizuoka.jp

当センターは、駿府城公園の東側にある静岡県総合社会福祉会館シズウエルの 2 階にあります。利用者対応は電話が主ですが、気軽に来所できる環境づくりに力を入れています。ボランティア養成も行っており、録音室やデイジー編集室、点訳作業室などはフル稼働です。視覚障害サービスの県内拠点として、皆さんの一番身近な窓口でありたいと思います。

①相談：日常生活や身体障害者手帳申請など、見えない・見えにくことで生じるさまざまな困りごとに対応

②読書：点字・音声図書の貸し出し、読書相談・案内、資料の点訳・音訳・テキスト化

③体験：スマートフォン・パソコン・音声デイジー図書関連機器や便利グッズなど

④支援：白杖歩行や点字習得などのスキルアップ

⑤情報：偶数月発行『アイサポートニュース』と電子メール配信『アイニュース』で新刊図書案内やセンター主催イベントなどをお知らせ

⑥土曜サロン：IT をテーマとする第 1、体験や交流をメインとする第 3、それぞれ土曜日の午後、イベントを企画・開催

⑦出前センター：年に数回、センター紹介・啓発のため、県内各所を訪問

社会福祉法人 名古屋ライトハウス
情報文化センター 図書館事業部

〒455-0013愛知県名古屋市港区港陽1-1-65		TEL	052-654-4521
E-mail	center@nagoya-lighthouse.jp	URL	https://nagoya-lighthouse.jp/joubun/

昭和 35 年（1960 年）に「あけの星声の図書館」として誕生した当施設は、「名古屋ライトハウス図書館」、「名古屋盲人情報文化センター」を経て、令和 2 年（2020 年）に「名古屋ライトハウス情報文化センター」と改称し、現在に至っています。

点字図書や録音図書の貸し出しをはじめ、レファレンスサービス、対面読書サービス、プリントサービス（有料）、新聞点訳サービス（有料）などを実施しています。

点訳・音訳では、図書に加え、雑誌の製作にも力を入れています。『小説野性時代』、『暮しの手帖』、『鉄道ピクトリアル』、『訪問リハビリテーション』などデイジー雑誌をはじめ、独自に編集をした『街で噂の新書案内』や『本のトビラ』などの点字・デイジー雑誌も取りそろえています。

読書バリアフリーの具現化と地域に開かれた施設を目指し、見え方に関係なく、どなたでも参加できる読書会「よむ・きく・はなす」を定期開催。また、ボランティアによるオリジナルの生解説を付けた映画上映会「みよまい会」は毎回好評をいただいています。

令和 5 年度（2023 年度）には、視覚障害関連図書を集めた「愛盲報恩会文庫」を公開します。

利用者の豊かな生活を目指すための情報収集や学習の場としての小規模な講習会「MAJ」、中途視覚障害者向けの点字学習会、生活相談や ICT 支援、歩行訓練事業も充実しています。

社会福祉法人 愛知県盲人福祉連合会
点字図書館「明生会館」 略称：明生

〒440-0874愛知県豊橋市東松山町37		TEL	0532-52-2614
E-mail	aimou_meisei@tees.jp	URL	http://www.tees.ne.jp/~aimouren/

明生会館は、昭和 43 年（1968 年）10 月 1 日に開館して以来、点字図書・録音図書の製作、貸し出しを行っています。平成 24 年（2012 年）からは、プロ野球中日ドラゴンズの情報誌『月刊ドラゴンズ』を音訳し、ドラゴンズのお膝元ということから利用者には大変好評をいただいています。

音訳・点訳ともに何が視覚障害者にとって喜ばれるのか、何を必要としているのか試行錯誤し、新たな取り組みに意欲を燃やしています。

また、情報誌として、偶数月に『明生会館だより』、奇数月に『くるまえび』を発行し、日々視覚障害者の生活および文化の向上のため、情報発信とサポートに努めています。

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会 上野点字図書館

〒518-0851三重県伊賀市上野寺町1184-2		TEL	0595-23-1141
E-mail	igatenji@ict.ne.jp	URL	https://www.iga-sjk.or.jp/

「点字図書館を伊賀の地に」という先達の情熱が実を結び、昭和 46 年（1971 年）4 月に開館しました。隣接する盲人ホームで働く三療従事者の利用する図書室として始まった当館は、令和 3 年（2021 年）に開館 50 周年を迎えることができました。

運営母体は、創立 70 年余を数える社会福祉法人伊賀市社会事業協会です。法人設立の精神“相扶相愛”（互いに愛をもって助け合う）のもと、同法人が運営する盲養護老人ホーム梨ノ木園をはじめ、児童、高齢者、障害者、医療関係施設など多岐にわたる 32 の事業所とも連携をはかりながら業務に取り組んでいます。

当館の主な事業は、点字資料および録音資料の製作・貸し出し、ボランティアの養成、相談業務です。人口約 9 万人の地方都市にある小さな施設ですが、点字・録音資料の貸し出しサービスの利用登録を全国対象としていることもあり、各地域の個人利用者から図書のリクエストが届きます。

読書バリアフリーにかかわる取り組みとしては、伊賀地域の公共図書館と連携協力し、点字図書や録音図書をはじめとする点字図書館資料の展示会や録音図書の読書体験会を開催するなどして、サービス対象者でありながら録音図書を利用していない潜在的利用者や郵送貸出が適用されない読書困難者への働きかけを、定期的に行なっています。

今後も、利用者に、そして社会に、必要とされる点字図書館を目指して、“すべての人に読書の楽しみを”お届けできるよう、取り組みを進めてまいります。

社会福祉法人 三重県視覚障害者協会 三重県視覚障害者支援センター

〒514-0003三重県津市桜橋2-131 三重県社会福祉会館内		TEL	059-228-3463
E-mail	center@mieten.jp	URL	https://mieten.jp

三重県視覚障害者支援センターは、平成 18 年（2006 年）にそれまであった三重県点字図書館と三重県盲人センターの機能が統合され発足しました。発足とあわせて三重県視覚障害者協会が三重県から指定管理者として指定を受け、その管理運営にあたっています。

センターでは、点訳・音訳図書の製作・貸し出しならびに生活訓練事業として、歩行訓練、家事管理訓練、福祉機器活用訓練、点字教室、日常生活用具の使い方指導や IT サポート事業を実施しています。また、ボランティア養成講座を開設するほか、交流事業としてハイキングの実施、情報支援事業として情報誌を月 1 回発行しています。養成講座を受講した点訳・音訳ボランティア等は、ほぼ毎日センターに集い、グループ活動を行っています。協会事業としては、グラウンドゴルフ、ボウリングなどの教室を開催するほか、支援センターを拠点として、パソコンを通じて視覚障害者の交流を促進するパソメイトの活動やセンターにある卓球台を利用しての健康増進・スポーツ活動も活発に展開しています。

さらに、当地域においては、近い将来、南海トラフを震源とする巨大地震も予想されており、そうした災害時の対応・支援のため、防災意識の向上のための研修会も開催しています。

社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会 滋賀県立視覚障害者センター

〒522-0002滋賀県彦根市松原1-12-17		TEL	0749-22-7901
E-mail	shice2@smile.ocn.ne.jp	URL	https://shigashisho.com/

昭和 31 年（1956 年）に創設された滋賀県立点字図書館を前身として、平成 12 年（2000 年）に開設されました。

琵琶湖の東岸、国宝彦根城を望む風光明媚な場所に当センターはあります。社会福祉法人滋賀県視覚障害者福祉協会が指定管理者となり、当事者の声を反映させてセンターを運営しています。

点字・録音図書の製作・貸出業務の他、料理や編物等の家庭社会生活教室、点字訓練、歩行訓練、IT サポート等の事業を実施し、また、点訳・音訳をはじめとする視覚障害者支援のボランティアの拠点となっています。

センターは県内 1 か所であるため、さまざまな行事や支援は、積極的に県内各地に出向いて、出張教室、訪問 IT サポート、歩行訓練等を実施しています。

家庭社会生活教室では、相続と遺言、薬学、滋賀の交通史、おつきあいのマナーなど、利用者の興味や関心をとりいれたユニークで実用的な内容で開催しています。各種教室、IT サロン・IT 講習等では、視覚障害者自身がスタッフやボランティアとしても活動しています。

令和 4 年度（2022 年度）からは、読書バリアフリー推進員を配置し、読書支援機器の貸し出しや使い方のサポート、公共図書館の読書バリアフリー化の支援等を行っています。

社会福祉法人 京都ライトハウス 情報ステーション

〒603-8302京都市北区紫野花ノ坊町11		TEL	075-462-4579
E-mail	joho@kyoto-lighthouse.or.jp		
URL	https://www.kyoto-lighthouse.or.jp/service/station/		

京都ライトハウスは、昭和 36 年（1961 年）に鳥居篤治郎先生等によって設立されました。京都市名誉市民という偉大な創立者を擁したこと、施設と視覚障害者団体が車の両輪となってきたこと、行政の絶大な支援があったことが、視覚障害者総合福祉施設としての発展の大きな原動力となってきました。

情報ステーションは設立当初からの基幹事業で、全国から京都の大学を目指して来られる視覚障害学生の学習と活動の拠点となってきました。

昭和 38 年（1963 年）には声の図書事業を開始。録音図書の製作が始まりました。平成 2 年（1990 年）には全国で初の「読み書きサービス」を開始し、利用者から大きな反響を得るとともに全国に誇れる事業となっています。情報ステーションという名称は、現在の建物が完成した平成 16 年（2004 年）を期に、点字図書館から変更しました。

サービス内容は、図書・雑誌の貸し出し、プライベートサービス、対面読書、読み書き、レファレンス、情報機器のサポートなどを行っています。ボランティアの皆さまのご協力のもと、利用者の皆さまの「読みたい」「知りたい」情報へのアプローチをお手伝いするとともに、今後も先駆的で特色ある事業を展開していきたいと考えています。

社会福祉法人 丹後視力障害者福祉センター　愛称：あい丹後

〒629-3101京都府京丹後市網野町網野3081		TEL	0772-72-0609
E-mail	aitango@ai-tango.jp	URL	http://ai-tango.jp

社会福祉法人丹後視力障害者福祉センター（あい丹後）は、昭和 50 年（1975 年）4 月に開設され、まもなく 50 年を迎えます。

あい丹後は視覚障害者情報提供施設（点字図書館）、相談支援事業、同行援護事業を三本柱とし運営しています。点字図書館では、利用者のニーズに合った図書製作やボランティアの確保と資質向上に取り組み、毎年養成・育成講習会を開催しています。

相談支援事業では、京都府から視覚障害者訪問相談員派遣事業の委託を受け、京都ロービジョンネットワークや地元関係機関と連携を取り、相談員が巡回訪問し、自立に必要な助言や指導を行うなど、利用者に寄り添った支援を行っています。

同行援護事業では、指定障害福祉サービス事業所「丹後ガイドセンター」を運営するほか、地元の福祉有償運送事業所と連携し視覚障害者の移動の利便性の確保に取り組んでいます。

また、IT 社会が進む中で、視覚障害者に情報格差が生じないように関係団体と連携した IT 講習会や、未来を担う小中高生への障害者福祉学習など、地域共生社会の実現を目指し取り組んでいます。

大阪市立早川福祉会館 点字図書室

〒546-0033大阪市東住吉区南田辺1-9-28 大阪市立早川福祉会館		TEL	06-6622-0123
E-mail	hayakawa-f@k2.dion.ne.jp	URL	https://www.lighthouse.or.jp/hayakawa/

シャープ株式会社の創始者早川徳次氏が、生前大阪市へ寄付された 7,000 万円（建設資金 6,500 万円、整備資金 500 万円）の資金をもとに、昭和 37 年（1962 年）に建設。寄付者を顕彰して、大阪市立早川福祉会館と名付けられました。現在の建物は平成 5 年（1993 年）に建て替えられたものになります。3 階にある図書室では、ボランティアとの協働による点字・録音図書の製作・貸し出しをはじめ、対面読書、プライベートサービス、ボランティアの養成など、視覚障害者の情報支援に関する事業を行っています。また、週 3 日、ボランティアの夜間活動日を設け、職員が午後 9 時まで常駐しサポートを行っています。

平成 22 年（2010 年）4 月より、社会福祉法人日本ライトハウスが大阪市より委託を受け、事業を実施しています。

開館時間：月曜日から土曜日（午前 9 時 30 分～午後 5 時）

休館日：日曜日、祝日、年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日）

一般財団法人 大阪府視覚障害者福祉協会

大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター 点字図書館

〒537-0025大阪市東成区中道1-3-59 大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター内		TEL	06-6748-0611
E-mail	tosyo2@fushikyo.or.jp	URL	http://www.fushikyo.or.jp

昭和 44 年（1969 年）3 月から大阪府内の視覚障害者の読書サービス機関として大阪府青少年会館内において点字図書館業務を開始。昭和 58 年（1983 年）2 月に大阪府盲人福祉センターに移転。令和 2 年（2020 年）6 月には大阪府立福祉情報コミュニケーションセンターが整備されたのを機に同センター内に移転し現在に至る。

運営主体の大阪府視覚障害者福祉協会は、視覚障害者福祉に関するさまざまな事業を実施しており、点字図書館業務以外の網羅的な情報も提供可能。

【主なサービス（事業）内容】

◆図書の貸し出し：図書や雑誌を点字・デイジー・カセットテープ等の媒体で貸し出し
「サピエ」を利用した相互貸借やオンラインサインアップの代行手続きなど

◆対面朗読サービス：ご希望の図書や資料を朗読

◆プライベートサービス：ご希望の図書や資料をご希望の媒体で点訳または音訳（要実費）

◆『図書館だより』の発行（隔月）

◆その他：協会ホームページにおける『図書館だより』、『利用案内』、『追加目録』の案内
製作ボランティア養成事業、デイジー再生機貸し出しなど

特定非営利活動法人 堺障害者団体連合会

堺市立健康福祉プラザ 視覚・聴覚障害者センター

〒590-0808大阪府堺市堺区旭ヶ丘中町4-3-1		TEL	072-275-5024
E-mail	tento@sakai-kfp.info	URL	http://www.sakai-kfp.info/

当センターは堺市立健康福祉プラザ内に設置された施設です。

プラザは「障害者が住み慣れた地域で、主体的に、共生、協働のもと生き生きと輝いて暮らせる社会の実現」を目指して作られています。

その中で点字図書館では「来館していただける図書館」を目指して、プラザ内の関係機関と連携し「見えない・見えにくい方」に対してさまざまな支援を行っています。図書の貸し出し、製作、ボランティア養成、対面朗読はもちろんのこと、加えて関係団体からの依頼を受けて各種資料の点訳化・音訳化を行っています。利用者からの依頼を受けてプライベートサービスも随時実施しています。特に国立がん研究センターとは連携し、最新のがん医療情報の音訳・点訳を実施しています。

教養講座では千利休の生まれた堺らしく、茶道・華道を実施し、また毎月 1 回の交流サロンでは、スポーツ体験・クラフト工作等を実施し、当事者・支援者・職員が交流をしつつ意見交換をする場も設けております。

また、生活訓練指導員による、スマートフォンなどの情報機器の操作、視覚補助具の紹介、歩行訓練等も提供し、プラザに来館していただくだけでなく、ご自宅に訪問する形で、見えない・見えにくいこと全般の相談も行っております。

社会福祉法人 日本ライトハウス 情報文化センター

〒550-0002大阪市西区江戸堀1-13-2		TEL	06-6441-0015
E-mail	info@iccb.jp	URL	https://www.lighthouse.or.jp/iccb/

視覚障害をはじめ、“読み書き”に困難のあるすべての方々に“学び、働き、暮らし、楽しむ”ことを支える情報を届けます。

当センターでは、全国の目の見えない方・見えにくい方をはじめ、読み書きに困難のある方々が等しく情報を共有できる社会を目指し、500 人余におよぶボランティアのお力を借りて、点字・録音図書、アクセシブルな電子書籍、シネマ・デイジーなどを年間 700 タイトル近く製作し、貸し出し・提供しています。

また、館内のサービスフロアでは、音声や手ざわり、見やすい表示などで使うことのできる用具や機器 400 点以上を展示・紹介。視覚障害でお困りの方のご相談にお応えするとともに、電子機器やパソコン、視覚補助具、「サピエ」を中心とするインターネットの手ほどきやサポート講習を行っています。

さらに、iPhone の基本操作や便利なアプリ・最新機器を紹介する YouTube「ニポラチャンネル」を配信している他、毎年、西日本最大級の機器展示会「日本ライトハウス展」を開催し、多くの方にご来場いただいています。

社会福祉法人 視覚障害者文化振興協会 JBS日本福祉放送

〒553-0003大阪市福島区福島7丁目17番9号		TEL	06-6459-7240
E-mail	studio@jbs.or.jp	URL	http://www.jbs.or.jp

①視覚障害者向け専用ラジオ放送

本会が運営する日本福祉放送（JBS）は、昭和 63 年（1988 年）から、35 年間、視覚障害者向け専用ラジオ放送を行っている。全国の視覚障害者に向けて、視覚障害者が必要とする情報を番組にして配信。聞きやすく理解しやすい情報支援を実現し、視覚障害者の自立と社会参加促進に資することを目的としている。

【媒体】

◆ケーブルシステム USEN440 k-08ch（㈱ USEN）

◆衛星放送（CS）SOUND PLANET（㈱ USEN）

◆インターネット放送（JBS）

②視覚障害者情報提供施設 点字出版施設

③障害福祉サービス事業

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会 神戸市立点字図書館

〒650-0016兵庫県神戸市中央区橘通3-4-1 神戸市立総合福祉センター2F

E-mail	tento-kb@with-kobe.or.jp	TEL	078-362-2488
URL	https://www.with-kobe.or.jp/tento/		

本館は、目の見えない・見えにくい方などに情報を提供し、自立と社会参加の推進を目的とする視覚障害者等情報提供施設です。

点字・録音図書・テキストデイジー図書の製作・貸し出しをはじめ、『図書館だより』の発行（隔月発行）や、神戸市が毎月発行する『広報紙 KOBE』の点字版・デイジー版の製作、神戸市の『市会だより』のデイジー版の製作などの公的情報の点訳・音訳を行っています。

また読書環境・情報入手環境の向上を目的に、点訳・音訳のプライベートサービス、読み書き・対面朗読サービス、中途失明者の点字講習会の開催、利用者コーナーの運営（閲覧・機器利用）、視覚障害者用福祉機器展・出前機器講習の開催、デイジー再生機の貸し出し、音声解説付き映画の製作・上映会の実施等を行っています。

そして点訳・音訳・テキストデイジーボランティアの養成講座を定期的に開催し、ボランティアの育成にも取り組んでいます。

見えない・見えにくい方に本館に登録していただき、読書の喜びや情報の大切さを体感してほしいと思います。

社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会
西宮市視覚障害者図書館 略称：西視図

〒662-0913兵庫県西宮市染殿町8-17 西宮市総合福祉センター4F TEL 0798-34-5554

E-mail	n-shito@hcc5.bai.ne.jp	URL	https://nishi-shakyo.jp/

昭和 60 年（1985 年）に開設された西宮市総合福祉センター（身体障害者福祉センター A 型）の一施設として、それまでの「西宮市点字文庫」から「西宮市点字図書館」に生まれ変わりました。その後、諸事情により名称を「西宮市視覚障害者図書館」に変更し、現在に至っています。

視覚障害のある人、活字による読書が困難な人を対象に、点字図書および録音図書の製作・貸し出しサービスのほか、プライベート図書製作、対面朗読サービス、初心者点字教室、福祉機器貸し出し・体験講習、ボランティア育成等を行っています。また、全国書誌情報ネットワークであるサピエ図書館を活用した図書の相互貸借も行っています。

当館の特徴は、少人数のスタッフで運営していますが、高い技術力と熱意をもって献身的に活動に取り組んでくださるたくさんのボランティアの方々によって支えられています。図書館の理念として、常に努力してくださるボランティアさんたちが毎日明るく元気で活動できるように環境整備に努め、ともに力をあわせて「聞きやすい図書、読みやすい図書」を“より早く、より正確に”利用者に届けられることをめざしています。

社会福祉法人 兵庫県視覚障害者福祉協会 兵庫県点字図書館

〒651-0062兵庫県神戸市中央区坂口通2-1-1 兵庫県福祉センター内

E-mail	fav05105@eos.ocn.ne.jp	URL	http://kensikyo.sakura.ne.jp/	TEL	078-221-4400

兵庫県点字図書館は、視覚障害者の知識、教養の向上をはかるために兵庫県が設置し、視覚障害者に対し無料で点字および録音図書の貸し出しを行っています。

◆開館時間：平日の午前 9 時～午後 5 時、土曜、日曜、祝日、年末・年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）は休館になります。毎月第 3 水曜日は「書庫整理日」

◆貸出：貸出数は、点字 3 タイトル、録音 6 タイトルまで。貸出期間は、手元に届いてから 2 週間です。

◆蔵書数（令和 5 年〔2023 年〕3 月末）：点字 15,268 タイトル、42,964 冊。録音 15,212 タイトル、60,012 巻

◆その他：

①蔵書の閲覧、音声ガイド付パソコンの利用や対面朗読もできます。パソコン利用や対面朗読希望の方は 1 人 2 時間までで準備の都合上 1 週間前までにお申し込みください。

②点字図書や録音図書はボランティアのご協力で製作しています。

点訳ボランティアグループ：のじぎく会、西宮中公点訳グループ

朗読ボランティアグループ：声のあけぼの、そよかぜ。

③丸善雄松堂株式会社 ebook（読上げ機能付）を購入しました。購入済み ebook 1,530 タイトル

宗教法人 天理教点字文庫

〒632-8501奈良県天理市三島町1-1 TEL 0743-63-6162

E-mail	bunko@tenrikyo.or.jp	URL	https://fukyo.tenrikyo.or.jp/top/?page_id=13190

天理教点字文庫は、視覚に障害のある方に天理の教えをお伝えしたいという思いから昭和 46 年（1971 年）に開設いたしました。現在は、点字図書・デイジー図書の製作、貸し出しを通してさまざまな情報提供を行うとともに、福祉文化の向上にも努めています。

点字文庫では図書製作のほか、逐次刊行物として点字雑誌『ひかり』や『天理時報』（週刊）、『天理いきいき通信』、『みちのとも』、『陽気』、『親里』（月刊）などのデイジー雑誌を編集・発行し、情報を発信しています。

ひのきしん者（ボランティア）の養成では、「点訳・音訳ひのきしん者養成講習会」を年数回開催するほか、勉強会や通信教育で点訳者・音訳者の養成に努めています。また、中途失明者の自立を支援するための点字指導や相談業務も行っています。

さらに、年に 1 度、「点字文庫総会」を開催し、利用者・ひのきしん者・職員のコミュニケーションをはかるとともに、ひのきしん者への感謝のつどいを行っています。令和 3 年（2021 年）には開設 50 周年を迎え、記念動画を制作しました。ホームページからご視聴ください。

奈良県視覚障害者福祉センター　略称・愛称：奈良視福セ

〒634-0061奈良県橿原市大久保町320-11 奈良県社会福祉総合センター3F			
E-mail	n-sikaku@m3.kcn.ne.jp	TEL	0744-29-0123
URL	https://www.pref.nara.jp/1724.htm		

奈良県視覚障害者福祉センターは、平成 6 年（1994 年）に奈良県社会福祉総合センターが建設された際に、その 3 階に移転するとともに、現在の名称に変更されました。

主な業務は、一般図書、定期刊行物や雑誌等の点字、デイジー図書を製作、貸し出しをおこなっているとともに、サピエ図書館へのコンテンツ提供、プライベートサービス、対面朗読など、視覚に障害のある方の情報支援事業を中心に行っています。

一般図書製作の他にも、県内の行事情報や新刊図書情報等をまとめた音訳雑誌『コレクション草笛』や点訳雑誌『月刊青垣』を発行し、県内の利用者の方に毎月お届けするとともに、暦にその月の行事や情報を組み合わせた『声のカレンダー』の製作など、センターオリジナルの図書製作も長く続けています。

これらの活動は多くのボランティアの協力に支えられており、令和 4 年度（2022 年度）、令和 3 年度（2021 年度）には、点訳、音訳ボランティア団体が、視覚障害者への学び支援に貢献したことで文部科学大臣賞を受賞するなど、長年の活動が認められました。

また、ボランティアの養成を目的とする講習会を開催し、人材確保にも努めています。

さらに、テキストデイジーの製作にも取り組むなど、今後もより充実した図書の提供に努めていきたいと考えています。

社会福祉法人 和歌山県身体障害者連盟 和歌山県点字図書館

〒640-8319和歌山市手平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛5F					
E-mail	wakaten@wakaten.jp	URL	http://wakaten.jp/	TEL	073-488-5721

和歌山県点字図書館は、和歌山県が設置し、社会福祉法人和歌山県身体障害者連盟が管理・運営しています。和歌山県内にお住まい、もしくは和歌山県内に通勤・通学されている視覚障害者等の方を対象に点字図書や録音図書の貸し出しなどを行っています。サービス内容は、以下のとおりです。

1. 貸し出し
2. 図書館だよりの発行
3. 対面音訳
4. プライベートサービス
5. 「サピエ」への登録代行
6. 点字プリントサービス
7. デイジー再生機貸し出し
8. 蔵書目録の発行
9. 視覚障害者社会適応訓練
10. 点字即時情報ネットワーク（点字 JB ニュース）
11. パソコンボランティア派遣

社会福祉法人 鳥取県ライトハウス 点字図書館

〒683-0001鳥取県米子市皆生温泉3-18-3 米子市皆生市民プール管理棟2F

E-mail	info@tottori-lighthouse.or.jp	URL	http://tottori-lighthouse.or.jp/	TEL	0859-22-7655

鳥取県ライトハウスは、昭和 37 年（1962 年）5 月に米子市皆生に盲人センターとして発足しました。

その後、盲人ホーム（マッサージ施術所）、宿泊施設一心寮（平成 23 年〔2011 年〕3 月閉鎖）、点字図書館の設置、運営を行い、現在に至っています。

地理的には山陰屈指の温泉である皆生温泉の一角にあり、北は日本海、南に名峰大山（ダイセン）を仰ぎ自然に恵まれた環境です。そのような中で多くのボランティアグループの皆さまにご支援をいただきながら、視覚障害者情報提供施設として活動をしています。さらに、平成 30 年（2018 年）に相談支援部門強化のため、県下 3 カ所に支援センターを開設し、専任の相談支援員を配置しています。

昭和 30 年代から使用していた建物が老朽化したため、同じ皆生地内の現住所で平成 20 年（2008 年）から業務を行っているところです。

社会福祉法人 島根県社会福祉事業団
島根県西部視聴覚障害者情報センター

〒697-0016島根県浜田市野原町1826-1 いわみーる2F TEL 0855-24-9334

E-mail	bd_seibu@bd-iwami.org	URL	https://www.bd-iwami.org

島根県からの委託を受け、点字図書館事業、聴覚障害者情報提供事業、地域生活支援事業を行っています。

点字図書館事業では、点字図書、録音図書・雑誌およびテキストデイジー図書の製作・貸し出し、プライベートサービス、補装具・日常生活用具の紹介、斡旋等を行っています。また、日ごろ会う機会が少ない視覚に障害のある利用者とボランティア・職員との交流、意見交換、さらには視覚障害者用機器の体験（試用）等を行う場として「利用者とボランティアのつどい」を開催しています。

聴覚障害者情報提供事業では、字幕入り（手話入り）DVD の貸し出し、中継・リレーサービス、日常生活用具の紹介・斡旋のほか、聴覚に障害のある利用者のニーズに即した情報提供や体験、利用者とボランティア・職員との交流等の場として「セミナー＆交流会」を開催しています。

地域生活支援事業では、各種ボランティア（点訳、音訳、デイジー編集）の養成、視覚・聴覚障害者を対象とした IT 講習会の開催、中途失明者の生活訓練等を行っています。管内の各市からの委託を受け、点字・録音広報の発行も行っています。

社会福祉法人 島根ライトハウス ライトハウスライブラリー

〒690-0884島根県松江市南田町141-10		TEL	0852-24-8169
E-mail	library@s-lighthouse.jp	URL	https://www.lighthouse-lib.jp/

ライトハウスライブラリーは、昭和 37 年（1962 年）8 月に点字図書館として誕生しました。誕生から 60 年を迎えた今、施設機能を充実させ、利用者、ボランティア、地域の皆さまとともに、建物全体から情報を発信、交換する施設になりました。

職員 9 名で県内の視覚障害者の生活のサポートをしています。資料室では点字や録音の図書資料を貸し出します。機器展示室では、利用者の生活に役立つ物品や機器の情報を紹介、研修室からはパソコン等情報機器に関する情報を提供します。情報配信室からは『点字 JB ニュース』が配信され、交流室では利用者やボランティアの会が毎日のように開かれ、聴読閲覧室・録音室・編集室は、ボランティアの活動の拠点です。

また、ニーズが高まっている視覚障害者リハビリテーションについて、医療・福祉・教育の関係機関と連携を取りながら、視覚障害者の生活支援をする組織「島根ビジョンネットワーク」を立ち上げ、その構成施設として関係機関と協同し、視覚障害者のサポートを行っています。

社会福祉法人 岡山県視覚障害者協会
岡山県視覚障害者センター　略称：岡山視障

〒700-0927岡山市北区西古松268-1		TEL	086-244-1121
E-mail	ossfc@nifty.com	URL	https://www.ossk-33.jp/center/

岡山県視覚障害者センターとは、岡山県在住の視覚障害のある方への点字・録音図書の貸し出し、または視覚障害関係団体への会議室の提供、ボランティアの養成、その他情報提供やご相談への対応を行なう施設です。

主な業務は図書の製作・貸し出しで、図書には点字図書と録音図書とがあります。ボランティアが点訳・音訳し、それらの多くがデジタル化されてサピエ図書館に登録されており、当センターでも、その利用者の約 45 %の方々がサピエ図書館に登録されています。

利用登録していただけるのは、岡山県内在住の視覚障害により活字の読書が困難な方で、無料で利用できます。利用登録は、来館か電話で可能です。

その他にも、見えない、または見えにくい方の相談事業、対面朗読サービス、音声パソコンやスマホ・タブレット講座の開催、便利グッズの展示なども行なっています。

視覚に障害があり、まだ当センターに利用登録されていない方は、お気軽にお問い合わせください。

宗教法人 金光教 金光図書館

〒719-0111岡山県浅口市金光町大谷320		TEL	0865-42-2054
E-mail	konko-library@konkokyo.or.jp	URL	http://www.konkokyo.or.jp/konko-library/

金光図書館は、昭和 18 年（1943 年）に戦争で荒れた社会に文化の光を、との願いから創立されました。

昭和 24 年（1949 年）に点訳図書が図書館に納本されたのをきっかけに、全国の本を求める視覚障害者のために、点字本を製作し郵送する活動が始まりました。そして、昭和 32 年（1957 年）に青い鳥点訳グループが結成され、今も多くの点訳ボランティアに支えられ活動しています。

現在まで、約 17,000 冊の点字本と点字データを作成しており、それらは金光図書館に寄贈され、全国に貸し出しされています。その後、音訳グループも結成され、音訳図書の製作などを中心に活動しています。

この 2 つのグループと連携しながら、金光図書館では、読書再生機の貸し出し、対面朗読などを含めた読書困難者へのサービスを行い、今後もさらなるサービスの充実を目指したいと願っています。

社会福祉法人 広島県視覚障害者団体連合会
広島県立視覚障害者情報センター

〒732-0009広島市東区戸坂千足2-1-5		TEL	082-229-7878
E-mail	hiroten8@tea.ocn.ne.jp	URL	http://www.hiroten.jp/

広島県立視覚障害者情報センターは、広島県の指定管理者制度のもとで、社会福祉法人広島県視覚障害者団体連合会が管理運営を行っている施設です。

点字・録音図書などの製作・貸し出し、読書に関する相談、点訳・音訳・対面音訳などの個別サービスを行っています。

また、パン教室、フラワーアレンジメント教室、ピラティスレッスンなどのイベントも定期的に開催しています。

令和 4 年度（2022 年度）からは、視覚障害がある方々と、広島市内の学校に通う吹奏楽部員数名で「はりねずみ合奏団」を結成し、年 2 回演奏会を開いています。

特定非営利活動法人 周南視覚障害者図書館　略称：周南視障図

〒745-0844山口県周南市速玉町3-17 周南市徳山社会福祉センター内

E-mail	tokuteny@able.ocn.ne.jp	TEL	0834-34-9351

昭和 45 年（1970 年）4 月に点訳麦笛の会徳山支部として発足。点訳だけでなく音訳グループができ、ボランティアのみで徳山点字図書館の運営も始めました。昭和 51 年（1976 年）5 月点訳やまびこの会に名称変更。そして、平成 23 年（2011 年）3 月に特定非営利活動法人（NPO 法人）の認可を受けました。

視覚障害者に対して、点訳・音訳図書の製作や貸し出しなど情報提供に関する事業や、点訳・音訳ボランティア育成講座を開催しています。

視覚障害者・ボランティアともに高齢化が著しいのですが、「居場所」としての重要性も増しており、今後も細く長く無理のない活動を続けていきたいと思います。

ちなみに、当館の事業は、すべて無報酬のボランティアによって実施されています。

社会福祉法人 山口県盲人福祉協会 点字図書館　略称：山盲点図

〒750-0032山口県下関市関西町1-10　TEL 083-231-7114

E-mail	yamamou@yamamou.com	URL	http://www.yamamou.com/

JR 下関駅からほど近い当館が、厚生労働省から補助金対象の点字図書館として認められたのは、昭和 49 年（1974 年）4 月。その前身は団体が結成された昭和 24 年（1949 年）6 月にさかのぼり、県の視覚障害者図書館として山口市の隣保館の一室を借りて視覚障害者対象の点字指導をはじめ、点訳ボランティア養成や点訳書の貸し出しなどを開始した。

昭和 33 年（1958 年）に、団体が社会福祉法人の認可を受けたことによって点字図書館としての事業も次第に充実。昭和 47 年（1972 年）に鉄筋コンクリート造、約 500 ㎡を日本船舶振興会補助金を受けて建設し、昭和 49 年（1974 年）、正式に点字図書館として認可された。

法人としては、平成 17 年（2005 年）に中国青島市障害者団体連合会と友好協定を締結し、視覚障害者のスポーツ「サウンドテーブルテニス（STT）」や文化等幅広く国際交流を進めてきた。

また、平成 17 年（2005 年）に全国盲人福祉大会を、平成 20 年（2008 年）と平成 30 年（2018 年）には日盲社協全国盲人福祉施設大会を引き受けて開催。

当館は図書館や出版事業のほか、料理・俳句・カラオケ・スマホ教室、さらには同行援護従業者養成研修会なども開催。また、山口県視覚障害者団体連合会事務局や下関市保険鍼灸マッサージ師会事務局業務も全面的に支援し、県下視覚障害者の総合福祉センターとしての役割を果たしている。

なお、下関市出身でガイドヘルパー制度の生みの親元参議院議員の故江藤智先生書の「光の泉」の記念碑が玄関前に建立されている。

山口県点字図書館　略称：山口点図

〒753-0083山口市後河原150-1		TEL	083-922-0375
E-mail	a504011@pref.yamaguchi.lg.jp		
URL	https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/hp/usr/braille/tenji-top.html		

昭和 31 年（1956 年）に開設された、県直営の点字図書館です。

主なサービスとして、郵送による点字図書・雑誌、録音図書・雑誌の貸し出し、利用者依頼の点訳・音訳・テキスト化のプライベートサービスを行っています。

また、ボランティアによる図書製作（点字図書、音声デイジー図書、テキストデイジー図書）を行うとともに、養成講習会を開催し、ボランティアの育成に努めています。

山口県立山口図書館に併設されており、現在、サピエ図書館の A 会員に当たる利用者は点字図書館で、B 会員に当たる利用者は県立図書館で対応しています。点字図書館のレファレンスや選書では県立図書館の資料を活用し、また、県立図書館の利用案内を点字図書館で点訳・音訳するなど、連携してサービスに当たっています。

現在の建物は、昭和 48 年（1973 年）に開館し、令和 5 年（2023 年）で築 50 年を迎えました。これからも、県域の視覚障害者への情報提供施設として、サービスの充実をはかっていきたいと考えています。

社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団
徳島県立障がい者交流プラザ 視聴覚障がい者支援センター

〒770-0005徳島市南矢三町2-1-59		TEL	088-631-1400
E-mail	sityoukaku@kouryu-plaza.jp	URL	http://www.kouryu-plaza.jp/sc-center/

当センターは、徳島県から指定管理事業者として指定を受け、視覚や聴覚に障害がある方々の自立と社会参加支援を目的に、情報提供や社会的リハビリテーション事業を展開しています。

視覚障害者の方への支援としては、生活訓練事業と点字図書館事業を主な業務とし、生活訓練事業では、文化・教養講座、レクリエーションなどを行う「いろいろカルチャー講座」、歩行、点字、パソコン等情報機器の技術支援を訪問・通所で行う「視覚障害リハビリテーション」を実施しております。

点字図書館事業については、点字・録音資料の製作・貸し出しやボランティアの養成など視覚障害者情報提供施設として基本となる業務を実施していますが、特に、情報通信技術を活用した情報提供を推進するため、生活訓練とタイアップして情報機器の普及に努めています。

この他、当センターでは、同行援護従業者養成研修、視聴覚障害者福祉機器展の開催等を実施しています。

公益財団法人 香川県視覚障害者福祉協会

香川県視覚障害者福祉センター

〒760-0017香川県高松市番町1-10-35 香川県社会福祉総合センター4F		TEL	087-812-5563
E-mail	k.shikaku.tosho@sage.ocn.ne.jp	URL	http://shikaku.sakura.ne.jp

【センターご利用案内】

◆点字図書、録音図書の閲覧・貸出：市販の図書を点字や録音の図書に作り変え、貸し出します。また、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」を通じて、全国で作られた図書の情報を提供したり借りるためのお手伝いをします。

◆社会リハビリテーション：視力や生活環境に応じた個別プログラムに基づき、白杖による歩行訓練や点字の読み書き指導など、社会生活に必要なリハビリテーションを提供します。

◆ IT 活用支援：画面読み上げソフトなどを使い、パソコンの使い方の個別支援や、講習会を開催します。

◆点訳・音訳サービス：製作されていない図書や印刷物を利用者の希望に応じて点訳・音訳します。

◆各種の相談や福祉用具の紹介、福祉サービスの情報や支援機関の紹介、生活用具などの斡旋をしています。

点字新聞『点字 JB ニュース』、香川県広報と行事のお知らせを掲載した『声のセンター便り』、選挙公報の製作や発行などさまざまな情報提供を行っています。

◆ボランティアの養成：点訳・音訳・IT 支援ボランティアの養成講習会を開催し、センターで活動していただくボランティアを養成します。

社会福祉法人 愛媛県社会福祉事業団

愛媛県視聴覚福祉センター

〒790-0811愛媛県松山市本町6-11-5		TEL	089-923-9093
E-mail	webmaster@sityoukaku.pref.ehime.jp	URL	http://www.sityoukaku.pref.ehime.jp

当センターは、昭和 38 年（1963 年）に開設された愛媛県盲人福祉センターを前身とし、平成 7 年（1995 年）に視覚・聴覚に障害を持っておられる方の自立や社会参加の拠点として、また、障害者を支えるボランティアの方々の学習・交流の場として設立された施設です。

視覚障害者に対するサービスとしては、点字図書館の運営、点字出版業務のほか、視覚障害者への情報機器の操作支援や各種相談事業、点訳・音訳ボランティアの養成等を行っております。特に視覚障害者の教養文化の向上を目的とした点字月刊誌『新生』は昭和 27 年（1952 年）から 70 年以上発行しており、全国の皆さんに愛読されております。

また、中途視覚障害者に対しては、歩行・コミュニケーション・家事動作等の生活訓練を行うとともに、視覚障害者や関係者を対象とした各種講習会や、同行援護従業者養成研修を行っています。

その他、障害のあるなしにかかわらず、参加者の皆さんがお互いに交流する場として、健康づくりや文化活動などを内容とした「視聴覚交流サロン」を企画したり、年に 1 回視聴覚障害者やボランティアの方々の活動発表を行う場として「視聴覚福祉センター文化祭」を実施しています。

オーテピア高知声と点字の図書館

〒780-0842高知市追手筋2丁目1-1 オーテピア1F		TEL	088-823-9488
E-mail	kc-120200@city.kochi.lg.jp	URL	https://otepia.kochi.jp/braille/

平成 30 年（2018 年）7 月 24 日、高知県と高知市が合同で整備する新図書館等複合施設「オーテピア」の開館に伴い、高知市立高知点字図書館は「オーテピア高知声と点字の図書館」としてリニューアルオープンしました。声と点字の図書館では、「すべての人を本の世界へ！」を基本理念に、県内全域を対象として障害、高齢、病気などさまざまな理由で読書が困難な人にサービスを提供しています。

視覚障害、肢体不自由、発達障害、知的障害その他の障害、高齢、病気などで読書が困難な人の読書を支援するため、点字図書、録音図書、マルチメディアデイジー図書や読書機器（録音図書再生機、タブレット）を貸し出しています。図書や読書機器の郵送・宅配貸出も行っています。

拡大読書器や音声時計、その他の各種視覚障害者向け福祉機器の展示・紹介や操作指導、見えない・見えにくいことの困りごと相談、高知県ロービジョンケアネットワークへの参加など、視覚障害者へのさまざまなサポートを行っています。

点訳・音訳・デジタル資料製作・対面音訳の各種ボランティアの養成や、ボランティアの皆さんと協力して、点字図書、録音図書、マルチメディアデイジー図書の製作、対面音訳サービスを実施しています。

公益財団法人 北九州市身体障害者福祉協会

北九州市立点字図書館　略称：北九点図

〒806-0021福岡県北九州市八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ5F		TEL	093-645-1210
E-mail	kitaten@kita9-s.com	URL	https://www.kitaqshinsyo.com/index.php?id=23

当館は、昭和 50 年（1975 年）4 月北九州市立中央図書館開館に伴い、北九州市立点字図書室として設置され、昭和 55 年（1980 年）4 月より北九州市立点字図書館として開館しました。

施設は、JR 鹿児島本線「黒崎駅」に隣接する複合ビル 5 階にあり、視聴覚障害者情報提供施設として指定管理で運営しています。

北九州市内に在住または通勤・通学されている視覚に障害のある人を対象に、各種情報提供、機器操作支援、点字および録音図書の製作・貸し出し等を行っています。

また、点訳・音訳ボランティアの養成・研修事業、プライベートサービス、対面リーディングサービスや、当事者・ボランティアさんとの交流会も行っています。

毎年夏に、「オープンブレイルライブラリー（OBL）――点字図書館一般公開――」を開催し、点字図書館の日頃の業務や取り組みについて実際に見聞きし体験して、広く一般の方々に視覚障害やその支援について身近に感じ、考えていただけるよう啓発をしています。

一般社団法人 福岡市視覚障害者福祉協会 福岡市立点字図書館

〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1		TEL	092-852-0555
E-mail	tenji.tosho@fukushikyo.com	URL	https://www.fukushikyo.com/tenji/

当館は、昭和 54 年（1979 年）5 月 1 日、「福岡市心身障がい福祉センター点字図書館」として開館しました。

平成 8 年（1996 年）6 月 29 日に現在地への移転に伴い、福岡市総合図書館の中に併設されている点字図書館として、「福岡市立点字図書館」と改称しました。

主な事業は、録音・点字図書の貸し出し、デイジー・点字図書の製作、この図書製作に関わるボランティア指導育成（点訳、音訳、対面朗読、テキストデイジー製作、計 140 人）、利用者が代読を希望する図書や資料等の対面朗読、利用者個人の図書製作に応えるプライベートサービス（点訳・音訳）、デイジー図書再生機貸し出し、FAX 代読、総合図書館所有音楽 CD 郵送貸出、肢体不自由者読書サービス、情報機器支援（デイジー図書再生機、パソコン、アイフォーンを中心とした機器類の操作方法や相談等）、レファレンス（読書奨励、相談業務）等、多岐にわたり事業を行っています。

他に行事として、点字図書館および視覚障害の理解啓発活動としての「オープン･ブレイル･ライブラリー（OBL）」や「点字図書館のつどい」、「利用者懇談会」を行っています。点字図書館のつどいは、利用者とボランティアとの交流を目的とした行事で、文化講演会では地元の著名な方をお招きしての講演会、他に交流会、福祉機器展など行っています。利用者懇談会は、利用者の皆さんから直接要望等をお聞きすることを目的に意見を聞く機会を設けています。

社会福祉法人 福岡県盲人協会 福岡点字図書館 略称：福岡点図・福点

〒816-0804福岡県春日市原町3-1-7 クローバープラザ3F		TEL	092-584-3590
E-mail	tenji.cloverplaza@gmail.com	URL	https://www.normanet.ne.jp/~fukuten/

福岡点字図書館は、福岡県盲人協会を設立された大城雪造（オオシロセツゾウ）氏が提供した 60 冊の点字図書を基に、昭和 24 年（1949 年）に設立されました。その後、昭和 28 年（1953 年）に正式に発足し、本年で、創立 70 周年を迎えます。

本館は点字図書や録音図書の貸し出しや製作、さらにはボランティアの養成や情報機器等の利用についての相談や説明など、他館とほぼ同様な活動をしております。

利用者とボランティアの交流をはかるイベント「つどい」や、一般の方々にも参加していただく「福点まつり」などの活動があります。

毎年 2 月に開催される「福点まつり」では、各ブースごとに最新機器の展示会、点訳や音訳の体験などが行われ、例年 300 人近くの方々に参加をいただいております。展示会では、関係企業の協力によって話題の最新機器の体験や詳しい説明などが行われています。点訳体験では、一般の方々を中心に点字を体験していただくことで、ボランティアや点字文化の普及に取り組んでいます。

点字図書館をより多くの方々に理解していただけるよう、これらの活動に取り組んでいます。

社会福祉法人 佐賀ライトハウス

佐賀県立視覚障害情報・交流センター

〒840-0815佐賀市天神1-4-16		TEL	0952-26-0153
E-mail	info@sagaten.jp	URL	https://sagaten.jp/

令和 4 年（2022 年）4 月、開館から 50 年になる佐賀県立点字図書館をリニューアルし、佐賀県立視覚障害者情報・交流センターとしてオープンしました。

読書バリアフリー計画の策定に伴い、視覚障害者だけでなく「障害や疾病等により視覚による表現の認識が困難な人」も利用対象者となっており、情報保障はもとより、文化・スポーツ・芸術等、さまざまな活動の拠点として当館はさまざまな役割を果たしてきています。

当館の特長的な事業として、相談支援、交流啓発、巡回サービスがあります。令和 5 年（2023 年）現在、県内を 4 地区に分けて利用者宅や施設を巡回サービス車で訪問し、図書の貸し出し・返却を行っています。

交流啓発事業では年に一回、センターを会場とした交流イベントを開催し、利用者、支援者、一般の方に多数来場いただいております。

相談支援事業では常勤の職員等を配置し、当事者や家族、支援者からの多種多様な相談に対応しています。点訳・音訳図書はもちろん、さまざまな面で利用者の方とセンターとの繋がりを強めております。

一般社団法人 長崎県視覚障害者協会

長崎県視覚障害者情報センター

〒852-8114長崎市橋口町10-22 長崎県こども・女性・障害者支援センター3F		TEL	095-846-9021
E-mail	nagasaki.joho.center@gmail.com	URL	https://www.normanet.ne.jp/~nagasaki/

長崎県視覚障害者情報センターは、視覚に障害のある方々に点字図書・録音図書、広報誌の点字版・録音版の製作と貸し出し等を行い、視覚障害者の情報入手の援助をし、ひいてはその生活と文化を向上させ、自立と社会参加の促進をはかることを設置の目的としています。

当施設には、情報機器訓練室、ボランティア活動室、点字製版・印刷室、対面朗読室、録音室、書庫などが設置されています。

情報機器訓練室では、視覚障害者が情報機器の操作を行い、スクリーンリーダー等の体験をすることができます。

ボランティア活動室は、技術向上のため点訳ボランティア、音訳ボランティアの研修が行われ、ボランティア活動の拠点となっています。また、音声解説付き DVD 映画を上映したり、音楽会・出前講座など文化的活動の場としても利用されます。

県北部のサービス向上のため佐世保市万徳（マントクチョウ）町には、分室として長崎県視覚障害者情報センター佐世保があります。

当施設は、周辺に平和祈念像で有名な平和公園や浦上天主堂、永井隆博士が過ごされた二畳一間の小さな住居「如己堂（ニヨコドウ）」等があり、平和の尊さを肌で感じることができる場所にあります。

社会福祉法人 熊本県視覚障がい者福祉協会

熊本県点字図書館　略称：くまてん

〒861-8039熊本市東区長嶺南2-3-2 熊本県身体障がい者福祉センター		TEL	096-383-6333
E-mail	kumashifuku@snow.ocn.ne.jp	URL	https://kumaten.jimdofree.com/

熊本県点字図書館は、熊本県内在住の視覚障害者に対し、情報文化の提供と福祉の向上をはかるため、次の事業を行っています。

◆更生相談事業（中途失明者訓練事業）：自立更生相談、福祉制度利用のための情報提供、関係機関との連絡調整を行っています。歩行訓練、点字習得訓練、音声パソコン等の情報機器操作訓練の支援を行います。利用者のご自宅にうかがうことも可能です。

◆視覚障害者用具の斡旋：日常生活用具の紹介、購入の斡旋・販売を行っています。各市町村への補装具、日常生活用具申請の相談も行います。

◆点字資料の印刷・提供：点字名刺、各種広報類、会議資料等の製作を行っています。

◆利用者とボランティアの交流：点字図書館では、利用者とボランティアとの親睦をはかるために「交流会」を年 1 回開催しています。また各地域でも「歩こう会」を年 1 回開催しています。

社会福祉法人 大分県盲人協会 大分県点字図書館　略称：大分点図

〒870-0043大分市中島東1-2-28 大分県盲人福祉センター2F		TEL	097-538-0399
E-mail	oita-kenmou.tenjitoshokan@mbr.nifty.com		
URL	http://oita-kenmou.on.coocan.jp/tentoindex.html		

【大分県点字図書館が特に力を入れていること】

◆音声ガイド付き映画鑑賞会の実施、シネマ・デイジー製作

◆運営母体である大分県盲人協会の歩行訓練士と連携し、一人ひとりに寄り添ったデイジー図書再生機などの使い方説明を行っている

◆ iPhone の体験会など、視覚障害者に必要・便利な情報の提供・発信を行っている

一般財団法人 延岡愛盲協会 延岡ライトハウス点字図書館

〒882-0055宮崎県延岡市山下町1-7-9 延岡ライトハウス		TEL	0982-32-2973
E-mail	raito-h@ma.wainet.ne.jp	URL	http://www.nobeoka-light179.sakura.ne.jp/

本施設は昭和 37 年（1962 年）、山下町に「延岡市立ライトハウス盲人ホーム」が設立されたことにはじまります。

昭和 47 年（1972 年）、同敷地内に「延岡市立ライトハウス」が新改築され、点字図書館が併設されました。

昭和 62 年（1987 年）10 月に「延岡ライトハウス」と改称され、管理運営が財団法人延岡愛盲協会に委託されました。

平成 18 年（2006 年）4 月、財団法人延岡愛盲協会が指定管理者に指定されました。

平成 24 年（2012 年）4 月、一般財団法人延岡愛盲協会となり、現在に至っています。

本施設は視覚障害者への情報提供を担う点字図書館として、点字・録音図書の製作をはじめ、雑誌、広報等の点訳・音訳、ボランティアの育成、朗読・映画・音楽鑑賞会などを行っています。

資料の収集については漢点字図書や落語、音楽などの CD 収集にも力を入れています。

また、盲人ホーム事業をはじめ同行援護事業、視覚障害者団体への助成、生活用具の相談、斡旋といった視覚障害者の生活支援、社会活動促進事業にも取り組み、地域の視覚障害者のコミュニケーション、情報発信の場として開かれた施設となるよう努めています。

社会福祉法人 都城市社会福祉協議会 都城市点字図書館

〒885-0077宮崎県都城市松元町4-17 都城市総合社会福祉センター2F		TEL	0986-26-1948
E-mail	mkjtenji@circus.ocn.ne.jp	URL	https://miyakonojoshakyo.or.jp/effort/braille-library/

主に都城圏域在住の視覚障害者を対象に、読書バリアフリーの推進、QOL の向上、社会参加のための支援など、寄り添い、そしてともに考え行動するという理念のもと事業を行っております。また、ワーキングポリシーの一つ“知りたい、やりたいをカタチにします”をモットーに点字図書・録音図書および定期刊行物の製作や貸し出し、電子メールによる情報提供、プライベートサービスへの対応、視覚障害者サロン「ぶらいゆサロン」の開催、点訳・音訳をはじめ各種ボランティア養成事業等を実施しております。

特徴的な取り組みとしては、公式 Facebook ページによる啓発にも重点を置いており、日々情報を発信しております。また、公立図書館に常設している施設情報ボックスに展示した、パンフレットや視覚障害関連図書等をご利用いただくことで、視覚障害者理解の促進に努めております。

一方、“来館する楽しみを！”をコンセプトに実施している読み終わった点字新聞でつくるペーパークラフト「アート de 点図」では、来館者に作品に触れていただき好評を得ており、外出の機会の創出にも繋がっております。

今後も利用者ニーズを最優先に事業を展開するとともに、地域の特性を活かした取り組みも実施いたします。

公益財団法人 宮崎県視覚障害者福祉協会 宮崎県立視覚障害者センター

〒880-0051宮崎市江平西2-1-20 宮崎県生活情報センター		TEL	0985-22-5670
E-mail	mzshikyo@lion.ocn.ne.jp	URL	https://www.miyashishou.jp

当センターは、宮崎市の中心部からやや北より、宮崎県民に「神武様（ジンムサマ）」として親しまれている宮崎神宮にほど近い宮崎市江平西町に平成 7 年（1995 年）に開設されました。

交通の便がよく、しかも静かで落ち着いた雰囲気のあるロケーションで、視覚障害者にとりましてもとても利用しやすい環境にある施設となっています。

オープン以来一貫して視覚障害者およびボランティアの皆様の活動拠点として、視覚障害者の自立と社会参加の実現に向けて邁進しており、多くの方々に利用いただいております。

センターでは、日常的な点字・音声による情報提供に加えて、「見えない・見えにくい人のための福祉機器展」や「視覚障害者研修会」など、行事や企画を実施し、視覚障害者の皆様に参加いただくとともに、近年の ICT 機器の普及・発達に伴ってスマートフォンやパソコンの講習・相談なども積極的に実施し、新たなニーズにも応えるよう努めております。

今後とも宮崎の視覚障害者福祉を担う中核施設として、関係機関の皆様とも協力しながらその役割を果たしてまいります。

社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会
鹿児島県視聴覚障害者情報センター

〒890-0021鹿児島市小野1-1-1 ハートピアかごしま3F		TEL	099-220-1814
E-mail	johocenter@shichocenter.kagoshima.kagoshima.jp		
URL	http://www.shichocenter.kagoshima.kagoshima.jp/		

昭和 29 年（1954 年）7 月に「県立盲人点字図書館」として開館。昭和 60 年（1985 年）に「鹿児島県点字図書館」と改称。平成 5 年（1993 年）の水害により、平成 12 年（2000 年）に現在のハートピアかごしまに移転。視覚障害・聴覚障害の情報提供施設として「鹿児島県視聴覚障害者情報センター」と改称。平成 18 年度（2006 年度）より指定管理者になりました。

当センターは「視覚部門」「聴覚部門」に分かれ、「視覚部門」では次の事業を行っています。

◆点字資料・録音資料の製作・貸出
◆プライベート点訳・音訳
◆点訳・音訳ボランティアの養成・研修
◆機関紙の発行（墨字版・墨字拡大版・点字版・音声版・電子メール版）
◆中途失明者緊急生活訓練事業

平成 21 年度（2009 年度）より「盲ろう者通訳・介助員派遣事業」の委託を受け、盲ろう者通訳・介助員の養成・派遣を行っています。

視覚・聴覚障害者への県内唯一の情報提供施設として、150 人ほどのボランティアの方々の活動に支えられながら、地域ユーザーに密着した事業・サービスを展開しています。

社会福祉法人 沖縄県視覚障害者福祉協会 沖縄点字図書館					
〒900-0014沖縄県那覇市松尾2-15-29 沖縄視覚障害者福祉センター2F					
E-mail	oki-tento@okishikyo.net	URL	https://www.okishikyo.net/	TEL	098-866-0222

沖縄点字図書館は、沖縄県視覚障害者福祉協会が運営する点字図書館として昭和 47 年（1972 年）5 月 15 日に創設され、半世紀を越えました。図書製作など他館と同様な事業内容も多いと思いますが、沖縄点字図書館の特色としては次のような活動があります。

琉球古典・民謡の楽譜・点字工工四（クンクンシー）の製作。点字工工四は昭和 56 年（1981 年）頃に当時の点訳ボランティア・糸数菊（イトカズキク）先生によって考案されましたが、歌三線文化をもつ沖縄において、新たに三線を学ぶ方から専門的に取り組む方まで、現在でも幅広いニーズがあります。

旧暦入り点字カレンダーの製作は、年中行事が旧暦で行われることが多い沖縄では、新暦カレンダーと並んで必要なアイテムの一つです。

さわる絵本・拡大写本の製作。さわる絵本部は昭和 56 年（1981 年）、拡大写本部は平成 7 年（1995 年）、どちらも長年盲学校で視覚障害児教育に携わってこられた、中村文（ナカムラフミ）先生と運天恒子（ウンテンツネコ）先生が立ち上げた活動です。どちらも対象が児童生徒であることから、学校司書と連携をとりながら活動しています。

沖縄点字図書館 50 年の中で過ごしたコロナ禍の数年間は、創設当初の頃から活動されているボランティアの高齢化と世代交代を丁寧に取り組んでいく必要があることを強く感じる期間でもありました。これまでの支えに感謝をしつつ、この先へとつなぐ取り組みを行っていきたいと考えています。

自立支援施設部会：51施設

自立支援施設部会は、自立訓練・生活訓練、就労継続・移行・定着支援、盲導犬養成、あはき師養成、盲人ホーム、同行援護など、視覚障害者の生活面、就労面に直接的に福祉サービスを提供する施設の集まりです。

利用者の切実な声が聞こえる「現場」の施設として、研修会を中心に職員の研鑽と諸課題の整理、強固なネットワークの構築に努めています。**（部会長　山下文明）**

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

函館視力障害センター

〒042-0932北海道函館市湯川町1-35-20		TEL	0138-59-2751
E-mail	syomu-hkdt@mhlw.go.jp	URL	http://www.rehab.go.jp/hakodate/

当センターは、視覚障害者のための指定障害者支援施設です。

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を養成する就労移行支援（養成施設）と歩行訓練や日常生活訓練などの自立した社会生活を送るための自立訓練（機能訓練）を実施しています。これまで、約 2 千名の方々が訓練を修了して技能や技術を身に付け、十分に価値ある役割を持ちながら、それぞれの地域で生活をしています。

当センターでは、利用者一人ひとりの能力を最大限に発揮できるように個別の支援に取り組み、さらに、今後の社会参加や自立に役立ててもらうためのプログラム（スポーツ活動や文化活動など）にも力を入れながら支援を行っています。

その他、一般市民や関係団体などを対象として、各種研修会や講座を開催するとともに、また、SNS 等を活用し、視覚障害者の支援に有益な情報の提供や視覚障害者の自立への理解をはかるための啓発活動などを積極的に行っています。

公益財団法人 北海道盲導犬協会

〒005-0030北海道札幌市南区南30条西8-1-1		TEL	011-582-8222
URL	https://www.h-guidedog.org/		

当施設は昭和 45 年（1970 年）の設立以来、盲導犬の育成と視覚障害者の方への盲導犬貸与を事業の柱として活動してまいりました。特に日本国内の盲導犬育成施設の中では唯一、積雪地域に施設があるということから、冬期間の難しい道路状況でも安全に誘導するための盲導犬の訓練と歩行指導を行っています。さらに、卒業後も安心して盲導犬との生活を送られるよう、定期的なフォローアップに加えて、共同訓練終了直後のフォローアップ、卒業 3 か月フォローアップ、冬期フォローアップ、10 歳以上の高齢盲導犬フォローアップ等を実施しております。

また、当施設内には引退した盲導犬たちを迎え入れる、世界で初めて開設された老犬ホームがあり、専門職員によるケアを充実させ、犬の福祉にも力を入れております。

平成 3 年（1991 年）には北海道在住者を対象にして、3 週間短期間入所方式による生活訓練（日常生活訓練、点字訓練、白杖歩行、パソコン訓練等）を開始しました。当施設の生活訓練の特徴は、ご本人が希望すれば何度でも繰り返し入所訓練を受けることができるほか、訓練終了後は現地でのフォローアップを実施し、訓練成果の確認を相互でしていることです。近年はロービジョンケアに取り組まれている病院とも連携して、相談や院内での基礎訓練に応じるなどニーズに広く対応できるよう努めています。

公益財団法人 日本盲導犬協会
仙台訓練センター　愛称：スマイルワン仙台

〒982-0263宮城県仙台市青葉区茂庭字松倉12-2		TEL	022-226-3910
E-mail	info@moudouken.net	URL	https://www.moudouken.net/

仙台訓練センターは東北地方で唯一の盲導犬育成施設として平成 13 年（2001 年）5 月に開設し、東北 6 県と新潟県を中心に目の見えない人・見えにくい人の生活の質の向上と社会参加のため、これまでに多くの盲導犬を育成してきました。

神奈川訓練センターに次ぐ盲導犬訓練の拠点として、常時 20 ～ 30 頭の訓練犬が在所し、仙台市内を中心に訓練に励んでいます。

また、盲導犬育成事業だけではなく、白杖歩行やパソコン・スマホの操作、調理など、日常生活上の相談にも応じ、在宅で行う生活訓練や施設に宿泊して行う「短期視覚障害リハビリテーション」など、総合的な視覚障害リハビリテーション事業にも注力しています。

目の見えない・見えにくい小学生を対象とした「ワン！ぱくっ子サマースクール（視覚障害児向けサマーキャンプ）」や、中学生向けの短期視覚障害リハビリテーションも行い、小学生から継続的に視覚障害リハビリテーションを提供できることが仙台訓練センターの特色です。

一般財団法人 いばらき盲導犬協会

〒312-0052茨城県ひたちなか市大字東石川3610-10		TEL	029-275-3122
E-mail	info@guidedog.ibaraki.jp	URL	https://guidedog.ibaraki.jp/

一般財団法人いばらき盲導犬協会は、茨城県ひたちなか市を本拠地とする盲導犬育成施設です。

平成 24 年（2012 年）に一般財団法人全国盲導犬協会として設立された本協会は、平成 26 年（2014 年）に国家公安委員会より「盲導犬の訓練を目的とする法人」として指定を受け、茨城県では初めて、全国では 11 番目の指定法人となりました。平成 30 年（2018 年）7 月より「いばらき盲導犬協会」と改称して活動しています。

日本の盲導犬育成施設の中では最も若く、設備、陣容ともにとても小さな施設ですが、規模の小ささを活かし、盲導犬希望者のご要望に可能な限り柔軟に対応いたします。

社会福祉法人 足利市社会福祉協議会

足利市視覚障害者福祉ホーム　略称：福祉ホーム

〒326-0052栃木県足利市相生町385		TEL	0284-41-2200
E-mail	f-home@02.watv.ne.jp		

足利市視覚障害者福祉ホーム（以下、「福祉ホーム」）は、視覚障害者の福祉向上のため、生活相談や自立支援をしている施設です。

生活の向上をはかるために料理教室や教養講座の開催、また中途失明者のための電話相談や生活訓練事業を開催しています。この訓練事業では点字の読み書き、歩行訓練、福祉機器や日常生活用具の紹介や使い方などの講習会を行っています。

さらに、福祉ホームは点訳サークル等の活動拠点にもなっており、足利市の広報誌『広報あしかがみ』や足利市社会福祉協議会の『社協だより』、『警察だより』などの点字版の発行を行っています。そして福祉ホーム主催の歩行訓練や点字講習へも協力してもらっています。

また、趣味の部門ではプロ野球情報や大相撲・川柳など視覚障害者の方々のニーズに沿った点訳活動をおこなっています。書籍等に関しては足利市立図書館へ点字書籍を納入し、多くの方に利用していただけるように努めています。

公益財団法人 東日本盲導犬協会

〒321-0342栃木県宇都宮市福岡町1285番地		TEL	028-652-3883
E-mail	info@guide-dog.jp	URL	https://www.guide-dog.jp/

自分自身も視覚障害者であった栃木県立盲学校教員が、昭和 42 年（1967 年）に米国の盲導犬育成施設アイ・ドッグ・ファンデーションで盲導犬歩行の訓練を受け、歩行の快適さを実感し、より多くの人にも感じてもらいたいと思い、当時全国に四つしかなかった育成施設を栃木県内にも設立しようと立ち上がりました。

設立以来、良質な盲導犬を育成し、視覚障害者がより豊かに、自分らしく生活できるよう支援することを目的とし活動しており、令和 6 年（2024 年）には設立から 50 周年を迎えます。

栃木県内はもとより、北は山形県から南は滋賀県まで、広範囲にわたり、視覚障害者へ盲導犬を提供しているほか、白杖歩行訓練等の生活訓練も行っており、視覚障害者の自立支援と社会参加に貢献しています。

全国の盲導犬育成施設の中でも、職員も少数で、決して大きな団体ではありませんが、きめ細かなユーザーサービス、「盲導犬ユーザーに笑顔を！」をモットーに一人ひとりが向上心を持ち、日々努めています。

社会福祉法人 日本失明者協会 盲人ホームあさひ園

〒366-0811埼玉県深谷市人見1665-12		TEL	048-573-5225
URL	https://hitomien.jimdofree.com/		

◆施設概要◆

入所定員：20 人

施設の構造・規模：鉄筋コンクリート平屋建

施設の延床面積：114.15 ㎡

施設の敷地面積：266.71 ㎡

鉄道の最寄駅：JR 高崎線深谷駅

◆施設の特色◆

この施設は、重度の視覚障害者に、マッサージ施術、はり施術等の働く場を提供しており、マッサージ師免許や、はり師免許を所持していない人も働けるような作業項目を用意している。

この施設は、平成 18 年（2006 年）4 月 1 日に、昭和 37 年（1962 年）2 月 27 日付の厚生省社会局長通知に基づく盲人ホームとして出発したが、都合により、平成 21 年（2009 年）6 月 1 日から、障害者自立支援法に基づく就労継続支援 B 型事業所に変更した。

国立障害者リハビリテーションセンター　略称：国リハ

〒359-8555埼玉県所沢市並木4-1		TEL	04-2995-3100
E-mail	rehab-soudan@mhlw.go.jp	URL	http://www.rehab.go.jp/

本センターは、わが国の障害のある人々の自立および社会参加を支援するため、医療から職業訓練まで一貫した体系の下で、障害者の生活機能全体の維持・回復のための先進的・総合的な保健・医療・福祉サービスを提供するとともに、リハビリテーション技術・福祉機器の研究開発、専門職員の人材育成等、障害者リハビリテーションの中核機関としての先導的役割を担っています。

このような中、自立支援局では、障害者総合支援法に基づき、指定障害者支援施設として、障害がある方が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、さまざまなサービスを提供しています。

視覚に障害がある方に対するサービスとしては、移動訓練やロービジョン訓練などの自立訓練（機能訓練）や、就労移行支援（養成施設）として、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家資格取得から、開業、就職、就労後の知識・技術の向上まで一貫して支援しています。

高卒以上の方で修業年限が 3 年の専門課程、中卒以上の方で修業年限が 5 年の高等課程があり、進路は、訪問マッサージ、病院・治療院・老人ホームへの就職、ヘルスキーパー、治療院開業、進学等となっています。

社会福祉法人 埼玉県視覚障害者福祉センター 埼玉盲人ホーム			
〒330-0852埼玉県さいたま市大宮区大成町1-465		TEL	048-663-3427
URL	http://saitamatenji.jp/		

当施設は、昭和 38 年（1963 年）3 月に、あん摩師、はり師、きゅう師の免許を持っている視覚障害者で自営することも雇用されることも困難な者に施設を利用させ、必要な技術の指導を行い、その自立更生をはかるとともに広く視覚障害者に対する福祉の増進に寄与する目的で、国や県の補助や一般の人々の寄付により、当時県下唯一の施設として設置しました。

平成 2 年（1990 年）に点字図書館、点字印刷室を併設した 2 階建ての福祉総合施設として全面新築し、その 1 階入口部分に盲人ホーム治療室を設置しました。

開設から 60 年を経過した今も厳しい治療業界の中で、引き続き地道な活動を続けています。

施術所開業や就職を目指す利用者に、通所による原則 2 年間の施術経験を提供しています。また、併設する点字図書館と合同で情報支援機器の体験会等も行っています。

社会福祉法人 雑草福祉会 雑草授産センター			
〒355-0073埼玉県東松山市大字上野本2183-15		TEL	0493-23-8989
E-mail	mail1@zasso.org	URL	https://zassou-fukushi.org/

社会福祉法人雑草福祉会は、昭和 59 年（1984 年）4 月に社会事業授産施設雑草授産センターを、埼玉県東松山市に創って発足しました。現在、就労継続支援 B 型として、自治体の発行する広報の点字版の印刷や録音 CD 発送、その他に軽作業や農業の仕事をする事業所です。

【福祉会のあゆみ】

昭和 59 年（1984 年）4 月、社会事業授産施設雑草授産センター開所、平成 2 年（1990 年）1 月、社会福祉法人雑草福祉会登記

平成 2 年（1990 年）4 月、知的障害者授産施設第 2 雑草授産センター開所、平成 7 年（1995 年）4 月、第 2 雑草授産センター分場開所

平成 18 年（2006 年）10 月、雑草授産センター就労継続支援 B 型事業所に移行し、平成 22 年（2010 年）11 月、多機能型に移行

平成 24 年（2012 年）4 月、雑草授産センター就労継続支援 B 型に移行し、第 2 雑草授産センター多機能型事業所に移行

平成 30 年（2018 年）8 月、相談支援センター雑草（特定相談支援事業所）開所

【福祉会の目的】

①視覚障害者による視覚障害者のための点字印刷の授産所

②家庭と郷土を敬愛する伝統的精神にもとづく福祉

③空き瓶・空きカンなどのリサイクル等で障害者も地域経済に参加

社会福祉法人 全国ベーチェット協会 視覚障害者支援センター熊谷

〒360-0105埼玉県熊谷市板井1696		TEL	048-536-5421
E-mail	info@konan-rehab.org	URL	http://www.konan-rehab.org

視覚障害者支援センター熊谷では、安全に快適に楽しく生活していただけるよう、個人個人のニーズに対応した、サービスを提供させていただいております。

①自立（機能）訓練：視覚に障害を受けることで、日常生活、移動、文字の読み書き等が困難になります。これらの日常生活での「さまざまな面で感じる困難」の軽減に必要な技術や学習手段を身につけ、社会復帰を目指す「自立（機能）訓練」サービスを提供しております。

②生活介護：日中活動の支援、日常生活の支援、医療的ケア等の支援サービスを実施しております。また、それらの支援を通して、自立や社会参加の機会を提供しております。

当施設では、集団生活をしながらも、利用者お一人おひとりが持たれている力を発揮し、快適な暮らしができるよう、作業やレクリエーションなどのサービスをおこなっています。

さらに当施設は、診療所が併設されており、ベーチェット病、糖尿病等の症状が容易に安定しない全身性疾患を持った視覚に障害のある方も、医療的ケアを行いながらの社会復帰訓練、また、盲ろう者（視聴覚二重障害者）の方への支援サービスも行っております。ご自宅から通える方でしたら、通所でのサービスが利用できます。ご利用日数ご利用までの手続きなど、利用に関する内容は、当施設までご相談ください。

公益財団法人 アイメイト協会

〒177-0051東京都練馬区関町北5-8-7		TEL	03-3920-6162
URL	https://www.eyemate.org/		

昭和 32 年（1957 年）、当会創設者である塩屋賢一（シオヤケンイチ）が国産盲導犬第 1 号「チャンピイ」とその使用者のペアを世に送り出しました。爾来 66 年、送り出したペアも 1,400 組を超え、視覚障害者の歩行問題解決のために邁進しています。

その歴史は、昭和 23 年（1948 年）に塩屋が「視覚障害者に本当に役立つ盲導犬を訓練するには、どんなことが困るのか身をもって知る必要がある」と目隠しの日常生活を始めたところから始まりました。わが国一の歴史と事業実績を有する盲導犬育成団体です。

当事業では、犬の訓練終了後、「視覚障害者に犬を目として歩く方法」を指導する「歩行指導」が最も重要な部分です。十分に指導を受けた使用者が正しい方法で犬に指示を出して初めて、安全な歩行が実現します。目の見えない人を犬が引っ張っているのではなく、人が主体となって歩きます。このため、当会では盲導犬ではなく「アイメイト」（私の愛する目の仲間）と呼んでいます。また、世界中に共通した盲導犬の基準は存在しません。各育成団体がそれぞれの考え方に基づいて事業を実施しています。当会は世界に誇れる基準で訓練・指導を継続しています。

なお、当会へのお問い合わせにつきましては、下記 URL のフォームからお願い致します。
https://www.eyemate.org/inquiry/

同行援護事業所 おとも

〒121-0816東京都足立区梅島3-34-5 西崎ビル1F		TEL	050-5526-2818
E-mail	info@otomo.care	URL	https://otomoinc.jp/

おともは、視覚に障害のある方の外出に付き添い支援する同行援護専門の事業所です。500 名以上のガイドヘルパーが所属しており、都内を中心にサービスを提供しています。

電話や電子メールでの予約受付だけではなく、利用者とガイドヘルパーを直接マッチングする WEB アプリ「ガイドヘルパーズ」の提供をしています。

パソコンやスマートフォンから空いているガイドヘルパーを検索して依頼したり、利用者からの依頼を受けてガイドヘルパーを募集したり、今すぐ対応できるガイドヘルパーを検索したり、事業所の営業時間にかかわらず、いつでも同行援護の依頼をすることができます。

また、視覚障害者向けの補装具・日常生活用具の展示販売をしている「おとも用具店」の運営、ガイドヘルパーの養成研修事業も行っております。

社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会
盲人ホーム杉光園（サンコウエン） 略称：さんこうえん

〒110-0016東京都台東区台東3-1-6 日盲社協会館		TEL	03-3831-0990
E-mail	bz581005@bz01.plala.or.jp	URL	https://sankouen-sejutusho.com/

杉光園は、昭和 34 年（1959 年）、当時、東京都杉並区にあった国立光明寮（コウメイリョウ）で学んだ方々の卒後研修機関として作られた「杉光会」を前身として発足しました。その後、昭和 37 年（1962 年）に厚生省の局長通知により、盲人ホームが制度化されたことを機に、社会福祉法人杉光園と名称を改め、現在地に移転をしました。

昭和 56 年（1981 年）には、日本盲人社会福祉施設協議会と合併し、名称も社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会盲人ホーム杉光園となりました。全国にある盲人ホームの中でも最古参の施設です。

平成 23 年（1981 年）には、杉光園園舎を 5 階建ての建物「日盲社協会館」に改築し、現在、1～3 階を杉光園が、4～5 階を日盲社協の事務局が使用しています。

利用者の定員は 20 名で、施術ベッドは 3 台。現在の利用者は 7 名です。杉光園は日本でも 2 番目に古いと言われる佐竹通り商店街の一角にあり、その中には治療院やマッサージ店等も多く、患者さんの獲得にも苦労しますが、地域に向けてメッセージを発し、さまざまな工夫をして、より多くの患者さんの獲得を目指してきました。その結果、定期的に施術を受けに来られる地域住民の方も増え、地域社会での存在感を高められたと考えています。

経験豊富な指導員のもと、技術指導はもちろん、患者への接客指導や、カルテの電子化に取り組み、利用者の今後の人生設計に少しでもプラスになるよう運営をしております。

社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会

東京視覚障害者生活支援センター

〒162-0054東京都新宿区河田町10-10		TEL	03-3353-1277
URL	http://www.tils.gr.jp		

当センターは昭和 58 年（1983 年）から日常生活訓練を実施し、平成 29 年（2017 年）からは障害福祉サービスの事業所として、自立訓練（機能訓練）と就労移行支援のサービスを通所の形態で行っています。対象は都内在住者ですが、通所が可能であれば、都外にお住まいのかたもご利用いただけます。

定員は機能訓練 25 名、就労移行支援 15 名、個別支援計画に基づき、職員 15 名で訓練を実施しています。

機能訓練では、利用者が希望する訓練、希望する通所の曜日と時間帯にあわせて 1 コマ 50 分の時間割を作成して訓練を実施しています。訓練は歩行、日常生活動作、ロービジョン、スマートフォン（iOS）は個別対応、パソコンと点字はグループ形式でおこなっています。また、ケースワークは公認心理士が担当しています。

就労移行支援では、事務職での一般就労希望者、および休職者を対象に、ビジネスソフトの操作訓練を、教材に基づく自学自習と質問への個別対応のハイブリッド形式で実施しています。

また、マッサージ免許保有者にはヘルスキーパーでの就職をめざし、カルテや予約管理等のパソコン操作訓練と施術技術維持向上のための臨床の場を提供しています。ハローワークや民間職業紹介会社等とも連携し、求人情報の提供、面接試験への同行同席、内定後の通勤経路の歩行訓練、支援機器導入のサポート、勤務開始後のフォローアップなども行っています。

なお、就労移行支援でも必要に応じて機能訓練の訓練項目も実施しています。

多機能型の事業所として、機能訓練、就労移行支援が連携し、利用者を含めた視覚障害者が希望する生活の実現に向け、事業を行ってまいります。

社会福祉法人 日本点字図書館 自立支援室

〒169-8586東京都新宿区高田馬場1-23-4		TEL	03-3209-0241
E-mail	jiritsu@nittento.or.jp	URL	https://www.nittento.or.jp/

日本点字図書館自立支援室では、指定障害福祉サービスのひとつである自立訓練（生活訓練）の枠で視覚障害者への訓練サービスを提供しています。平成 29 年度（2017 年度）からスタートした新しい事業で、それまでは用具販売や図書の貸し出しに来館されて「日常の困りごと」を相談されるかたに対しては、外部の相談・訓練施設を紹介していたのですが、今は同じ法人内の自立支援室につながることでスムーズに相談や訓練に進むことができています。

訓練の内容は多岐にわたっており、白杖を使っての歩行訓練、パソコンやスマホなどの ICT 訓練、点字訓練、ルーペや拡大読書器などの操作を学ぶロービジョン訓練、日常生活を安全に過ごすために視覚以外の感覚や工夫した道具を使って家事、歯磨き、洗顔、髭剃り、化粧などの整容動作、金銭管理などを学ぶ日常生活技術訓練（ADL 訓練）などがあります。月に 1 回、体を動かしたりゲームをしたりといったレクリエーションも実施しています。

訓練の特色としては、点字訓練を除くほとんどの訓練をマンツーマンで行っており、利用者の細かいニーズや要望になるべく応えられるようなサービスを提供しています。また、用具販売や図書の貸し出し、イベントなどの当館における他のサービスにもつながり、生活を便利に楽しくできるよう積極的にサポートしています。

社会福祉法人 日本視覚障害者職能開発センター

〒160-0003東京都新宿区四谷本塩町2-5		TEL	03-3341-0900
E-mail	shokunou@jvdcb.jp	URL	https://www.jvdcb.jp/

Ⅰ．視覚障害者の職業を開発し、訓練と支援を行い社会参加の促進をはかる。
Ⅱ．利用者の意向を尊重し、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫をする。
Ⅲ．利用者の個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。

以上を基本理念として、以下の事業を行っています。

◆東京ワークショップ就労移行支援（基礎、応用、速記、ビジネスワーク各コースで定員 30 人、期間 2 年間）

◆東京ワークショップ就労継続支援 B 型（定員 24 人：パソコンを使い、録音された音声を文字化する作業）

◆東京ワークショップ就労定着支援（期間 3 年間）

◆東京ワークショップ自立訓練（生活訓練）（定員 6 名：ICT 訓練、歩行訓練、点字訓練等、期間 2 年間）

◆ OA 実務科（東京障害者職業能力開発校委託訓練、定員 5 人、期間 1 年間）

◆総合相談

◆視覚障害・就労支援者講習会

◆水曜サロン：視覚障害者がだれでも参加できる情報交換の場

◆日本商工会議所 PC 検定試験の実施：パソコン技術の資格（文書作成 2、3 級、データ処理 2、3 級）

◆ガイドブックの作成と配布：視覚障害者への接し方など

社会福祉法人 東京ヘレン･ケラー協会
ヘレン･ケラー治療院 鍼灸・あん摩マッサージ指圧

〒169-0072東京都新宿区大久保3-14-20		TEL	03-3200-0585
E-mail	syuro@thka.jp	URL	https://thka.jp

ヘレン・ケラー治療院鍼灸・あん摩マッサージ指圧は、就労継続支援 B 型事業所として令和 4 年（2022 年）4 月にスタートしました。

運営する東京ヘレン・ケラー協会としては、昭和 25 年（1950 年）に開設したあはき師を養成するヘレン・ケラー学院、さらに昭和 43 年（1968 年）開設の点字出版所、昭和 49 年（1974 年）にできた点字図書館に次ぐ 4 施設目となります。

三療を学ぶ視覚障害者が激減する一方、あはき師の資格を持ちながら就労が困難な視覚障害者が多くいます。そうした人たちを中心に支援するのが新たな使命だと決意し、立ち上げた施設です。東京都内の就労継続支援 B 型事業所としては初のケースです。

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中でのスタートでしたが、徐々に患者様が増え、開設 1 年目で東京都の平均工賃を超えました。

あはきに関しては一般就労できるレベルの訓練が行われていますが、将来に向け、ICT の活用など時代のニーズに応えられる新たな分野にも支援を広げていこうとしています。

利用してくださる方々にとって、働きながらやりがいや生きがいを感じられる場として身近に存在し続けることが当施設の目標です。

社会福祉法人 ひかり会 盲人自立センター陽光園　通称：陽光園治療室

〒164-0001東京都中野区中野2-29-15 サンハイツ中野208		TEL	03-3383-2424
E-mail	blind@jasmine.ocn.ne.jp	URL	https://hikarikainakano.com/

陽光園治療室は、鍼灸あん摩の有資格者が各々の目標に沿って経験を積むことができる施設です。

マンツーマンでの実技指導期間終了後、治療室で一定期間実際の患者さんを治療して経験を積むことで、治療技術の向上をはかるだけでなく、カルテ管理から衛生面、接遇面など治療室経営全般をも学んでいきます。

目的をともにする者たちとの仲間意識も良い刺激となることでしょう。患者さんからご指名を受けることや、満足のお声をいただくことで、あはきに携わるものとしての喜びや、やりがいを感じます。

やがて陽光園治療室を卒業し、地域社会において立派に自立できるよう日々励んでいます。

日本赤十字社 神奈川県ライトセンター

〒241-8585神奈川県横浜市旭区二俣川1-80-2		TEL	045-364-0023
E-mail	mail@kanagawalc.org	URL	http://www.kanagawalc.org/

当センターは、神奈川県内の視覚障害者（児）を対象に、総合的なサービスを提供する施設として昭和 49 年（1974 年）に開所しました。現在は、指定管理者として日本赤十字社が運営しています。

事業としては、視覚障害者からの各種相談・訓練を行っています。社会的自立支援を目的に、日常生活全般、歩行、点字等訓練、就労相談や視覚障害者用機器の紹介に加え、パソコンやスマートフォンについては、IT サポートボランティアの協力を得て個々のニーズに対応しています。

視覚障害児に対しては、保護者への情報提供を行ったり、子どもたちや保護者の交流会なども開催しています。さらにスポーツを通して健康増進や積極的な社会参加を支援するため、体育館、トレーニングルーム、卓球室、ジョギングコースなどのスポーツ施設があり、さまざまな教室も開催しています。

この他、視覚障害者が自主的に運営・管理するクラブ活動を支援しています。同じ趣味を持つ視覚障害者と晴眼者が協力し合って活動する大切なコミュニケーションの場となっています。現在、スポーツ系と文化系あわせて 34 のクラブが日々活動しています。

川崎市視覚障害者情報文化センター

〒210-0026神奈川県川崎市川崎区堤根34-15 ふれあいプラザかわさき3F			
E-mail	kawasaki-icc@kawasaki-icc.jp	TEL	044-222-1611
URL	http://www.kawasaki-icc.jp/		

見えない・見えにくい人を対象にさまざまな相談・訓練業務、各種生活用具の常設展示と販売、図書の貸し出しを行っています。（利用対象者：川崎市内に在住、在勤、在学の見えにくくなり不便さを感じている方）

1. 相談・訓練業務
   ①各種相談
   ②歩行訓練（白杖歩行、移動介助など）
   ③ ICT 訓練（パソコン、iPhone、点字ピンディスプレイなど）
   ④点字訓練
   ⑤日常生活訓練（調理、身辺処理など）
2. 視覚障害者向け各種生活用具の常設展示と販売
   ①補装具・日常生活用具
   ②視覚障害者の日常生活の QOL を高める便利グッズ
3. 図書の貸し出し
   ①点字図書・音訳図書の貸し出し
   ②点字図書・音訳図書のデータダウンロードサービス

※指定管理者として社会福祉法人日本点字図書館が運営しています。

社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーションセンター
七沢自立支援ホーム

〒243-0121神奈川県厚木市七沢516		TEL	046-249-2403
E-mail	njshien@kanagawa-rehab.or.jp	URL	https://www.jiritsushien.kanagawa-rehab.or.jp/

平成 28 年（2016 年）6 月に福祉棟が新しい建物に移転し、施設名称を「七沢更生ライトホーム」から「七沢自立支援ホーム」へ改称した。神奈川県より指定管理を受けて、施設入所支援と自立訓練（機能訓練）を提供している施設の特性は変わらず。地域移行を目的に個人のニーズに合わせた個別支援が特徴の通過型施設であり、「医療と福祉の有機的な結合」のために設立された神奈川県総合リハビリテーションセンターの中の肢体障害・視覚障害の複合施設である。

◆市町村の受給者証が必要
◆身体障害者手帳を所持する 15 歳以上の方
◆施設利用費は所得状況や障害支援区分によって異なる

事業内容は、生活支援等、視覚障害リハビリテーション訓練（感覚・歩行・日常・ICT・点字等）地域支援（講習会・研修会・体験会・関係団体支援等）神奈川リハビリテーション病院ロービジョンクリニック支援等（アウトリーチ）

公益財団法人 日本補助犬協会 横浜訓練センター

〒241-0811神奈川県横浜市旭区矢指町1954-1		TEL	045-951-9221
E-mail	japan@hojyoken.or.jp	URL	https://www.hojyoken.or.jp

当協会は、身体障害者補助犬法の施行を機に設立された、日本で唯一 3 種類（盲導犬・介助犬・聴導犬）全ての補助犬を育成および認定できる団体です。

「日々の人とのかかわりの中から、補助犬として必要な人への愛着と状況判断能力が育つ」をモットーに、「その人にとっての、よりよい生活」のため、補助犬との生活を選択・希望する障害者の方へ、補助犬を無償貸与しています。

また、犬を介在した情操教育活動や訪問活動、保護犬を聴導犬にする活動など、人と人、人と犬の共生社会を目指して活動しています。

障害者権利条約や障害者差別解消法の歩みに歩調をあわせ、補助犬使用者の方々の社会参加が、相手の好意によって認められてきた段階から、「保障される」段階へと活動を進めて行きます。

同時に、補助犬についての多面的な情報発信を行い、補助犬だけにスポットがあたるのではなく、補助犬使用者が、社会から必要のないプレッシャーを感じることなく生活を送れるよう、補助犬使用者と社会の接点の一つとして活動を行っていきます。

公益財団法人 日本盲導犬協会 神奈川訓練センター

〒223-0056神奈川県横浜市港北区新吉田町6001-9		TEL	045-590-1595
E-mail	info@moudouken.net	URL	https://www.moudouken.net/

「目の見えない人・見えにくい人が、行きたい時に、行きたい場所へ行くことができるように、安全で快適な盲導犬との歩行を提供する」を使命に掲げ、盲導犬の質・歩行指導技術の向上、さらにはユーザーフォローアップの充実にも力を入れています。

神奈川訓練センターは平成 9 年（1997 年）に設立され、日本盲導犬協会にある 4 つの訓練センターの中で最も長く歴史があります。

市街地や住宅地に近いなど訓練環境が恵まれていることもあり、常時約 30 ～ 40 頭の訓練犬がおり、盲導犬訓練の拠点となっています。

また、次世代を担う訓練士の育成にも注力しているほか、各種リハビリテーション訓練や、盲導犬と視覚障害の理解促進のための活動を積極的に行っております。

社会福祉法人 光道園 障害者支援施設 ライトホープセンター

〒916-0146福井県丹生郡越前町朝日22-3-1		TEL	0778-34-1220
E-mail	somu-2@kodoen.or.jp	URL	https://www.kodoen.or.jp/

当施設は指定障害者支援施設として身体障害、知的障害、精神障害を持った利用者一人ひとりに対して、意思と人権を尊重し、個別支援計画に沿って自立した生活を送ることができるよう支援を行っています。

サービス事業内容として、施設入所支援事業（定員 135 名）、生活介護事業（定員 134 名）、自立訓練事業（生活訓練　定員 6 名）、短期入所事業（定員 5 名）を行っています。

当施設の特徴としては、利用されている方の 65 %が視覚障害を持っており、知的障害等を併せ持つ重複障害の方が大半を占めています。そのため障害支援区分の平均は、5.1 と重度な状況です。

重度な方々が自分で考える力や生活する力をつけるために教材を使った課題学習を行ったり、次のステップである就労支援事業所を目指すための作業訓練を行ったりしています。

また、余暇活動の充実などそれぞれ工夫をこらした外出や活動、生活を楽しむ場を提供しています。

以上のような支援を行いながら地域における中間施設としての役割を担っています。

社会福祉法人 長野県視覚障害者福祉協会 長野県盲人ホーム

〒390-0802長野県松本市旭2-11-39 長野県視覚障害者福祉センター		TEL	0263-32-5632
E-mail	welcome@naganoken-shisyokyo.or.jp	URL	http://naganoken-shisyokyo.or.jp/

当盲人ホームは、研修施設として、松本市に所在する長野県視覚障害者福祉センター内に治療室を設け、施設長をはじめ指導員のもとで、通所による研修者に向けて「あん摩マッサージ指圧師、はり師」の技術向上と自立を目的に運営しています。

お陰様で、患者様に恵まれ、長野県内の中信地区を主に、遠方からも受診いただいており、研修施設として、さまざまな患者様に施術の機会を与えていただいています。

引き続き盲学校新卒者の受け入れを行い、研鑽を積む場として、また、さらなる未来を拓く場として在り続けるための努力を重ねて参ります。

社会福祉法人 岐阜アソシア

視覚障害者生活情報センターぎふ　略称：生活情報センター

〒500-8815岐阜市梅河町1-4 生活情報センター		TEL	058-263-1310
E-mail	center@gifu-associa.com	URL	https://www.gifu-associa.com/

施設名に「生活」という言葉を入れていますが、これは、より視覚障害者の生活に寄り添える存在でありたいという思いからです。法人名「岐阜アソシア」の「アソシア」も「ともに生きる社会を」というところからつけられました。

事業としましては、点字・録音・拡大図書・電子書籍製作と貸し出しのほか、歩行訓練、中途視覚障害者の点字指導、ICT 機器指導、日常生活訓練など、できる限り利用者の要望に応じられるようともに考えながら行っております。

ほかにも視覚障害者の要望で健康づくり、一般の教室には入りづらいということから教室として、3B 体操、社交ダンス、太極拳を行ったり、今は見られなくなった餅つき体験をともに地域住民を含めて年末に皆で楽しんでいます。

また「かがり火（結婚研修会）」と銘打って、独身視覚障害男女の出会いの場を 60 年間にわたって実施しております。

昭和 37 年（1962 年）に第 1 回目を開催し、平成 30 年（2018 年）で第 47 回を数え、成立したカップルは 100 組を優に超えます（当センターに報告があったカップル数）。

その他にも視覚障害者のみならず、地域住民を巻き込んで、「防災運動会」（平成 19 年〔2007 年〕から）を実施。東南海地震発生の恐れがあるといわれている中、万一に備え、ともに手を携えて助け合っていけるよう働きかけております。

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 静岡県済生会

静岡医療福祉センター ライトホーム

〒422-8006静岡市駿河区曲金5-3-30		TEL	054-282-2944
E-mail	raito@sizuoka-iryofukusi.jp	URL	https://www.sizuoka-iryofukusi.jp/light.html

視覚障害者にとって、はり、きゅう、マッサージは、命です。

ライトホームは、静岡市が地域生活支援事業で設置している視覚障害者のための施設です。

あん摩・マッサージ・指圧師、はり師またはきゅう師の免許をもつ視覚障害者が自立するのに必要な能力の向上をはかるための実技、経営、接客マナー等の指導を行うとともに三療就業者の技術研修を、経験豊富な指導員が責任をもって施術のフォローに入り指導を行っています。

◆事業内容：三療の技術指導、相談（資料提供）、三療研修、日常生活訓練、奉仕治療、盲学校との研修懇談

◆利用形態：通所（定員 20 名）

◆利用者募集範囲：静岡県内

◆開館時間：月～金曜の午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分

◆休日：国民の休日、土・日曜日、年末年始 12 月 29 日～ 1 月 3 日

◆施設の特色：医療、福祉、教育の機能を一体化した施設運営

公益財団法人 日本盲導犬協会

日本盲導犬総合センター　愛称：富士ハーネス

〒418-0102静岡県富士宮市人穴381		TEL	0544-29-1010
E-mail	info@moudouken.net	URL	https://www.moudouken.net/fuji-harness/

「目の見えない人・見えにくい人が、行きたい時に、行きたい場所へ行くことができるように、安全で快適な盲導犬との歩行を提供する」を使命に掲げ、個性的な外観の施設は、『富士ハーネス』という愛称で親しまれております。

平成 18 年（2006 年）10 月に開設、約 20,000 ㎡の広大な敷地は、当法人 4 訓練施設の中で最大の敷地面積、床面積を誇り、全ての建物が回廊で結ばれ、広い建物内もスムーズに移動が可能です。

雄大な富士山の麓で、年間 100 頭以上の子犬の出産から引退犬のケアまで、盲導犬の生涯を通じたトータルケアを実現している施設です。

母犬の出産場所、子犬の運動エリア、引退犬の生活場所、ケアが必要な犬の専用エリアを有し、衛生的な環境で万全な体制を整えています。

また、日本で唯一、常時見学できる盲導犬訓練施設として、盲導犬や視覚障害への理解、普及啓発活動に努めています。特に、連休や夏休み期間は多くの来場者で賑わい、多くの笑顔で溢れています。理解を深める施設である一方、東海、甲信、北陸エリアの視覚障害者支援拠点としての重要な役割を担っています。

社会福祉法人 中部盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター

〒455-0066愛知県名古屋市港区寛政町3-41-1		TEL	052-661-3111
E-mail	chubu@tcp-ip.or.jp	URL	http://www.chubu-moudouken.jp/

当協会では、中部地方を中心に視覚障害者へ盲導犬を無償貸与しております。

視覚障害者の「社会参加の促進」と「安全な歩行」を目的として昭和 45 年（1970 年）に設立、昭和 49 年（1974 年）に愛知県より財団法人の認可を受け活動してまいりました。

そして平成 25 年（2013 年）4 月、昨今の盲導犬を取り巻く社会情勢、また、盲導犬育成事業のさらなる発展、視覚障害者の総合的な支援を目的として「社会福祉法人」へと法人格を変更いたしました。

盲導犬総合訓練センターでは、盲導犬の育成・歩行指導・アフターフォロー等を行っております。

当協会の盲導犬の特色は、盲導犬の「両手持ち」があります。ユーザーが左右どちらの手でも盲導犬をコントロールすることができるように盲導犬を訓練しております。このことにより、方向転換や狭いところでの歩行などがスムーズに行えるようになります。

盲導犬総合訓練センターは都市部にあり、最寄の駅から徒歩 3 分ほどの大変便利な場所にあります。

盲導犬の貸与をご希望の方はぜひ当協会へご連絡ください。

社会福祉法人 名古屋市総合リハビリテーション事業団

名古屋市総合リハビリテーションセンター 視覚支援課

〒467-8622愛知県名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1-2		TEL	052-835-3523
E-mail	sikaku@nagoya-rehab.or.jp	URL	https://www.nagoya-rehab.or.jp

視覚支援課では、主に人生の中途で目が見えにくくなったり、見えなくなったりしたことによって生じたさまざまな不自由さを、残された視力や視野、あるいは視覚以外の感覚を用いて軽減・解消するためのリハビリテーション訓練（歩行、点字、ICT、日常生活動作など）を、通所・入所・訪問で実施しています。

視力低下後の生活の質の向上、単身生活の実現、盲学校進学、大学進学、復職など、さまざまな目標を持った方が年間約 80 名利用され、目標を達成しています。

それ以外にも、用具・道具の紹介や選定、福祉サービスや社会資源の紹介、同じ悩みを持つ仲間との出会いや交流の場の提供などを通して、地域での生活が豊かなものとなるようお手伝いをしています。

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

障害者支援施設 光和寮

〒466-0856愛知県名古屋市昭和区川名町1-5		TEL	052-751-1268
E-mail	kouwaryo@nagoya-lighthouse.jp		
URL	https://nagoya-lighthouse.jp/base/kowaryou/		

光和寮は視覚障害者の新職場として昭和 21 年（1946 年）戦後の荒廃した中でうぶ声をあげました。

その後作業種目の開拓に努め、多くの障害者が就労を通じて一般就労、地域生活へ移行することができました。

今日では、多様なニーズに対応できるよう障害者支援施設として、「働く場・訓練の場」としての就労継続支援、就労移行・定着支援、「住まいの場」としての施設入所支援、福祉ホーム事業、「日中活動の場」としての地域活動支援センター、生活介護事業、同行援護事業、気軽に相談できる相談支援事業など、生活上のさまざまな場面において一体的なサービスを提供しています。利用者の方々はニーズに応じたサービスを、ワンストップ的に利用することができます。

就労継続支援事業では、三療の国家資格を持つ利用者が働く治療院や録音速記に視覚障害者が活躍しております。また、地域活動支援センターは視覚障害者の利用に特化した日中活動の場として、手芸・陶芸・ビーズ細工・革細工・カラオケ・盲人卓球・ヨガなどなど多彩な活動を提供しております。

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

就労継続支援多機能型事業所 港ワークキャンパス

〒455-0831愛知県名古屋市港区十一屋1-70-4		TEL	052-382-1551
E-mail	office@minato-workcampus.com	URL	https://minato-workcampus.com/

港ワークキャンパスは、就労継続支援 A 型（定員 60 人）の「ライトハウス名古屋金属工場」、就労継続支援 B 型（定員 60 人）の「KAN 食品開発センター」、「かんせい工房」、「あおなみキャンパス」、福祉ホーム「みなと」（定員 20 人）の多機能の事業展開をしています。

「ライトハウス名古屋金属工場」では、主に工業用ブリキ缶の製造を行っています。名古屋ライトハウスが創設（昭和 21 年〔1946 年〕）されて、すぐに進駐軍から払い受けた廃材の加工から始まった歴史ある事業です。

「KAN 食品開発センター」では、非常食用の 5 年保存が可能なパン缶「パンですよ!」の製造販売を行っています。味はチョコチップ、レーズン、コーヒーナッツ、あずきミルク、プレーン（卵不使用）の 5 種類の展開です。ぜひホームページをご確認ください。

「かんせい工房」や「あおなみキャンパス」では、利用者の障害特性や仕事の目標に応じて、軽作業、施設外就労等、利用者の「働く」「暮す」ニーズにフォーカスを当て支援しています。

「働く」よろこびを利用者、家族、職員、取引先、みんなが感じられる施設を目指しています。

社会福祉法人 名古屋ライトハウス 明和寮

〒455-0831愛知県名古屋市港区十一屋1-70-5		TEL	052-383-4381
E-mail	meiwa@nagoya-lighthouse.jp	URL	https://nagoya-lighthouse.jp/base/meiwaryou/

昭和 54 年（1979 年）11 月、名古屋市内で初の重度身体障害者授産施設（当時の施設種別）として開設。下請け作業などを中心に受注し、最大 120 名の定員で運営してきた。

平成 20 年（2008 年）1 月、障害者自立支援法のサービス体系に移行。現在は、就労継続支援 B 型（100 名）、就労移行支援事業（14 名）、生活介護事業（12 名）を運営している。

就労継続支援事業（B 型）では、印刷、包装加工、部品組立等の作業を提供。視覚障害を含め、さまざまな障害をお持ちの方が、開発した治工具や器具などを利用してそれぞれの特性を活かし、より高い工賃を目標に日々やりがいを感じながら働いている。

就労移行支援では、知的、精神障害の方を中心に、年間 10 人以上の就職者を出している。生活介護事業では、重症心身障害の方を含め、幅広い対象の方を受け入れている。

また、安心・安全にくらすことができるよう視覚障害・肢体障害の方を中心に受け入れている福祉ホームや視覚障害の方や車イス利用者などの通院、買い物、レジャーなど、さまざまな外出支援に力を入れた同行援護や重度訪問介護等のサービスも展開している。

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会 伊賀市盲人ホーム

〒518-0851三重県伊賀市上野寺町1184-3		TEL	0595-23-1511
URL	https://www.iga-sjk.or.jp/		

当ホームは、地域の視覚障害者の強い要望を受けて、昭和 35 年（1960 年）に上野市（現伊賀市）が設置した施設です。翌年には、上野市社会事業協会（現伊賀市社会事業協会）が市から運営を委託され現在に至っています。施設そのものは平成 6 年（1994 年）に改築され、敷地内に新設された障害者介護事業所「かしの木ひろば」と同一の建物に入ることになりました。この改築によって装いは新たになり、法人内の視覚障害者関連施設である上野点字図書館、盲養護老人ホーム「梨ノ木園」とともに、視覚障害者福祉の推進に注がれた多くの先達の熱意を受け継ぎ、その伝統を守りながら運営は継続されています。

市内で開業している方の多くは、当ホームで研修を修了され、誇りを持って仕事を続けてこられました。その方たちが中心になって運営している「伊賀市視覚障害者福祉会」の事務局も当ホームに置かれ、現在も会合や行事の折にはみな集まってくださっています。今後も視覚障害者の皆様の拠り所としての機能を充実させながら、安定した運営を目指していきます。

公益財団法人 関西盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター

〒621-0027京都府亀岡市曽我部町犬飼未ヶ谷18-2		TEL	0771-24-0323
E-mail	info@kansai-guidedog.jp	URL	https://kansai-guidedog.jp/

昭和 55 年（1980 年）11 月、盲導犬の育成普及を願う市民が集まり発足。昭和 58 年（1983 年）7 月に、京都府の許可を受け財団法人を設立。同年 8 月には国家公安委員会より「盲導犬を訓練し認定する法人」として指定を受けました。また、平成 22 年（2010 年）9 月、内閣府より認定を受け公益財団法人に移行しました。

昭和 63 年（1988 年）3 月には、京都府亀岡市に盲導犬総合訓練センターを竣工。平成 28 年（2016 年）4 月、「人と犬の共生」をコンセプトに新しい犬舎「木香（モツカ）テラス」が完成。

木造建築の室内に配置した犬室は可動式で状況にあわせて場所や大きさを変えることができ、また、室内に職員が業務を行うスペースを設けるなど、より家庭に近い環境の中で盲導犬の育成ができるようになりました。

このような環境の中、盲導犬の育成を通して、視覚障害者が行きたい時に、行きたい場所に、安全に行ける社会の実現と視覚障害者福祉の向上に貢献することを目的として、以下の事業を行っています。

1. 盲導犬および視覚障害に関する事業：盲導犬としての素質をもつ候補犬の繁殖と育成・訓練、盲導犬を希望する視覚障害者への歩行指導および盲導犬の無償貸与、盲導犬ユーザーへのフォローアップ、リタイア犬飼養補助等のボランティア活動支援および養成
2. 相談事業：盲導犬ユーザー、受け入れ事業者等からの相談への対応
3. 普及啓発事業：SNS も活用し一般市民や事業者等に対し盲導犬や視覚障害についての理解促進のための啓発活動、また盲導犬を希望する視覚障害者に対し体験歩行等を通して盲導犬についての情報を提供

社会福祉法人 京都ライトハウス 鳥居寮

〒603-8302京都市北区紫野花ノ坊町50		TEL	075-463-6455
E-mail	torii@kyoto-lighthouse.or.jp	URL	https://www.kyoto-lighthouse.or.jp/

視覚障害者の自立を支援するために歩行訓練、点字、パソコン、スマートフォンなどのコミュニケーション訓練や ADL 訓練などを行っています。利用者は 18 歳から高齢の方までと幅広く、また、見え方は全く見えない方からロービジョンの方までさまざまです。

特徴①：自立支援給付による施設入所支援・自立訓練（機能訓練）事業、京都府委託事業としての中途視覚障害者歩行訓練事業、そして、京都市補助事業としての中途視覚障害者歩行訓練事業を行っています。この三つの形態があることで、地域にサービスのない方、集中して訓練を希望する方には入所訓練が提供でき、通所の方では、施設に来られる視覚に障害のある他の方との交流もあり、互いに励まし合って訓練を進めることができます。

特徴②：京都ライトハウスという総合的な施設にあることで、訓練へのかかわりがスムーズになります。視覚低下で不安な時期に眼科診療所での相談、ロービジョン相談があり、相談事業が医療や福祉、行政関係との連携に努めていることや、点字、音訳図書などの情報提供サービス、児童発達支援、生活介護、就労支援、高齢入所施設の事業が必要に応じて紹介できる体制など、相談に来られる方の障害に対する気持ちや状況に応じた対応がとれます。

社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター 障害者支援施設 洛西寮（ラクサイリョウ）

〒610-1111京都市西京区大枝東長町1-67		TEL	075-333-0171
E-mail	info@kyo-ssc.com		

全国的にも数少ない視覚障害者に特化した障害者支援施設です。

年齢は、盲学校卒業生から 70 歳前後まで幅広く対応し、入所型として日々の生活の支援から、日中は就労支援等を行なっています。法人理念である「希望に満ちた成長への喜び」、行動指針である「働く力、よりよい生活あなたの能力や可能性に合った自立に向けての支援を行ないます」に沿って障害者福祉サービスを展開しています。

【福祉サービス事業】

①就労継続支援 B 型「らくさい作業所」（定員 40 人）

②施設入所支援「洛西寮」（定員 30 人）

「らくさい作業所」での活動科目としては、京都市の広報紙等の点字印刷を中心とした「点字印刷」と下請け（ミシン縫製、数珠玉通し等）の仕事を請負っています。また、自主製品では給食袋・くつ入れ等や腕カバーの自主製品も販売しています。

社会福祉法人 日本ライトハウス 大阪盲人ホーム　通称：はなてん治療院

〒536-0021大阪市城東区諏訪1-16-9 はなてん治療院		TEL	06-6961-5521
URL	https://www.lighthouse.or.jp/		

平成 17 年（2005 年）12 月に改築し、鉄骨 3 階建の 1 階に治療室（ベッド 5 台）、2 階に技術指導室（ベッド 2 台）・休憩室を設置し、同一法人の支援施設「日本ライトハウスきらきら」の就労移行支援サービス利用者で免許保持者に実習の機会と場所を設け、一般就労への足がかりになるよう実習施設としての役割を果たしています。

また、技術的に接客レベルに達しているメンバーには、一定期間継続して働ける就労の場を提供し、施術料の 8 割を還元しています。

今後も健康づくりの担い手としての価値を発揮し、安価でしかも安心できる治療院として、お客様サービスの充実をはかって固定客の確保をめざします。

現在、以下の条件を満たしている方をメンバーとさせていただいています。

①通所にあたって職員の送迎が不要な方

②あん摩マッサージ指圧師または、はり師の免許を持っている方

③「はなてん治療院」で実習を終えている方、あるいは同等の技術を持っていると指導員が判断する方

社会福祉法人 日本ライトハウス きらきら　略称：きらきら

〒538-0042大阪市鶴見区今津中2-4-37		TEL	06-6961-5521
E-mail	kirakira@lighthouse.or.jp	URL	https://www.lighthouse.or.jp/

これからの生活を豊かにし、きらきらと輝きながら社会参加活動を実現し、その人の望む地域生活を実現するために、また利用者と家庭や地域との「つながり」が一層広がるよう、さまざまな協力者、関係機関、専門職とともに協働作業を展開しています。

日中提供サービスの種別と定員は、自立訓練（機能訓練）19 人、就労移行支援 6 人、生活介護 15 人です。営業日は年末年始と祝日をのぞく月曜日から金曜日、午前 9 時 50 分から午後 4 時まで日中プログラムを提供しています。

施設入所支援の定員 30 人で、年間を通してサービスを提供しています。

「自立訓練（機能訓練）」では、見えにくいことで困られていることを解消するため、白杖を使った歩行訓練、コミュニケーション訓練（点字の読み書き、音声や拡大ソフトを用いたパソコン操作）日常生活のための訓練などを、「就労移行支援」では、在職・休職中の視覚障害者の方への復職訓練を通所・入所の形態で提供しています。

「生活介護」は、視覚障害とともに知的・精神障害をあわせ持つ重複障害をお持ちの方に対し、入所支援との併用で支援しています。少人数で、ゆったりした家庭的な支援を心がけています。

社会福祉法人 日本ライトハウス 盲導犬訓練所

〒585-0055大阪府南河内郡千早赤阪村東阪1202		TEL	0721-72-0914
E-mail	guidedog@lighthouse.or.jp	URL	http://www.guidedog-lighthouse.jp/

日本ライトハウスは視覚障害者の行く手を照らす「陸の灯台」として、大正 11 年（1922 年）岩橋武夫（イワハシタケオ）が点字図書の製作を開始したことに始まります。その後、点字図書の貸し出しや盲人援護事業を行い、昭和 40 年（1965 年）に日本最初の視覚障害リハビリテーションセンターを開設しました。

昭和 45 年（1970 年）には盲導犬育成事業を開始し、昭和 48 年（1973 年）に第 1 号の盲導犬「リンダ」が誕生しました。

令和 4 年度（2022 年度）にはのべ 800 頭目の盲導犬「マイリー」が卒業しています。

大阪府唯一の村、千早赤阪村に拠点を構え、近隣の市町村の皆様および、多くのボランティアの皆様の協力に支えられております。皆様のあたたかな協力の元、今後も質の良い盲導犬の作出を目指していきます。

社会福祉法人 日本ライトハウス わくわく 略称：わくわく

〒538-0042大阪市鶴見区今津中2-4-37		TEL	06-6961-5521
E-mail	wakuwaku@lighthouse.or.jp	URL	https://www.lighthouse.or.jp/

日中活動の場の提供として、生活介護事業のサービスを提供しています。定員 40 人で、営業日は年末年始と祝日をのぞく月曜日から金曜日、午前 9 時 50 分から午後 4 時までです。

いろいろな人と出会い、違った価値に触れ合いながら、ご自身の持つ強さに気づきその力を高めていただけるよう、ストレッチ、創作、カラオケ、ディスカッションなどの日中プログラムを提供しています。

また、働くことで張り合いをもった生活を送りたいという方々に対しては、軽作業プログラムを提供し、規定に基づいて工賃をお支払いしています。

その人の望む地域生活が実現できることが目的で、利用いただいている方の持っている力を発揮し、わくわくとした毎日を過ごせるように応援します。そのために、利用者と家庭や地域との「つながり」が一層広がるよう、ご家族ともにさまざまな協力者、関係機関や専門職と協働作業を展開します。

最寄り駅の JR 放出駅と事業所との間は朝夕の一定時間に送迎を行っています。

社会福祉法人 関西盲人ホーム

〒662-0833兵庫県西宮市北昭和町3-15		TEL	0798-66-7397
URL	https://xn--ydkk7fz36l395bdjxan0r.com/		

昭和 5 年（1930 年）視覚障害女性越岡（コシオカ）ふみは、視覚障害者の先覚者である点字毎日編集長であった中村京太郎（ナカムラキョウタロウ）氏の協力を得て、視覚障害女性を立派な社会人として養成するための施設として「関西盲婦人ホーム」を創立し、キリスト教信仰による相互扶助の生活を始めました。

その後、戦争のため一時解散しましたが、昭和 22 年（1947 年）に再興し、昭和 23 年（1948 年）盲ろうあ者として世界の偉人ヘレン・ケラー女史の来日を機に、喜久田倫（キクタリンショウ）章、好本督（ヨシモトタダス）等諸先生の協力を得て、地域の諸団体等多方面よりの協力により、現在地北昭和町にホームを新築しました。

視覚障害女性専門の更生援護施設として社団法人となり、昭和 27 年（1952 年）には社会福祉法人となりました。以後熱心なキリスト教徒である歴代理事長により経営が継続されて今日に至っております。

残念ながら、利用者の退所により令和 5 年（2023 年）3 月甲東寮は閉鎖しました。

◆利用者は外来者に対するあん摩･マッサージ治療を実施しながら、自立への研鑽をはかり、日々努力しております。

◆専門職員により視覚障害者の相談等も行っております。

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局
神戸視力障害センター

〒651-2134兵庫県神戸市西区曙町1070		TEL	078-923-4670
E-mail	kvrc-info@mhlw.go.jp	URL	http://www.rehab.go.jp/kobe/

神戸視力障害センターは、主に視覚に障害のある方を対象とした指定障害者支援施設です。

就労移行支援（養成施設）として、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師を養成する専門課程（3 年）の理療教育を行い、国家試験に合格し免許取得できるよう支援しています。

さらに、利用者の進路希望に沿って就労を支援し社会参加を実現します。卒業修了者へも研修会等の後支援を行なっています。

また、自立訓練（機能訓練）として、自立した社会生活を送るための歩行訓練やコミュニケーション訓練（点字、パソコンなど）、日常生活訓練などを行っています。自立訓練、就労移行支援を受けている方で、自宅から通うことが困難な方には、併設の利用者宿舎における居室や食事、入浴などの居住サービスの提供を行っています。

なお、自立訓練では通うことが困難な方には、可能な範囲で訪問訓練も実施しています。

いずれの訓練とも、利用者一人ひとりの能力を最大限に発揮できるように個別の支援に取り組み、これまで約 3,400 人の方々が訓練を修了して、それぞれの地域で生活を送っています。

社会福祉法人 兵庫盲導犬協会

〒651-2212兵庫県神戸市西区押部谷町押部24		TEL	078-995-3481
E-mail	info@moudouken.org	URL	https://www.moudouken.org/

平成 2 年（1990 年）に「関西盲導犬協会兵庫支部」として神戸市に事務所を設置し、同年に「兵庫県盲導犬協会」を設立しました。そして平成 9 年（1997 年）に「社団法人兵庫盲導犬協会」を発足しました。平成 16 年（2004 年）には『視覚障害者が、盲導犬とともに個人の尊厳を保持し、自立した生活を営むことができるように支援することを目的』として、現在の形である「社会福祉法人兵庫盲導犬協会」が誕生しました。神戸市西区押部谷町の自然豊かな場所で、盲導犬の育成・訓練・視覚障害者への貸与事業を行っています。兵庫県内にとどまらず、大阪府や岡山県など県外の方にも盲導犬を貸与しています。

また、学校・企業講演等を実施することで盲導犬を含めた補助犬の普及啓発にも積極的に取り組んでいます。日々、盲導犬たちやユーザーの方々、支援者やボランティアの皆様に支えられ活動を続けております。

令和 3 年（2021 年）9 月には、神戸市兵庫区に完成した中山視覚福祉財団の「中山記念会館」の 3 階にオフィスを提供していただき、入居されている他の視覚障害者支援団体と連携し、施設のコンセプトである「県内の視覚障害者、当事者団体、支援団体が気兼ねなく集える象徴的な建物にする」の実現に向けて努力してまいります。

一般社団法人 奈良県視覚障害者福祉協会 奈良県盲人ホーム

〒634-0061奈良県橿原市大久保町320-11 奈良県社会福祉総合センター5F			
E-mail	nashikyou@bz04.plala.or.jp	TEL	0744-29-0144

一般社団法人奈良県視覚障害者福祉協会は、昭和 23 年（1948 年）5 月 25 日奈良県盲人協会として発足。昭和 47 年（1972 年）奈良県視覚障害者協会と改名。昭和 58 年（1983 年）3 月 17 日社団法人格を取得。平成 16 年（2004 年）10 月 1 日「福祉」の文言を入れて、現在の一般社団法人奈良県視覚障害者福祉協会となりました。

平成 19 年（2007 年）4 月に奈良市高畑町から奈良県橿原市大久保町奈良県社会福祉総合センター 5 階へ移転しました。

本会は、県下在住の視覚障害者が友愛と互助をモットーに、人格･教養を高めるとともに、福祉の増進･文化の向上をはかることを目的としています。

事業の一環として、昭和 37 年（1962 年）に盲人ホームを開設し、次のような事業を行っています。

◆東洋療法研修事業：あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の有資格者を対象に、資質の向上のための実技講習会や研修会の実施。

◆県下の老人施設等への治療奉仕活動

◆視覚障害者情報支援事業：パソコン・点字・情報機器等の研修会や講習会の実施。

◆視覚障害者生活訓練事業：料理・編み物・茶華道等の基本的な実習。

◆社会参加促進事業：川柳・詩吟・民謡・グランドソフトボール・フロアバレーボール・サウンドテーブルテニス等のクラブ活動。

社会福祉法人 鳥取県ライトハウス 盲人ホーム

〒683-0001鳥取県米子市皆生温泉3-18-3 米子市皆生市民プール2F

E-mail	honbu@tottori-lighthouse.or.jp	TEL	0859-22-6400

山陰屈指の温泉地、皆生温泉という恵まれた環境にあって、住居と温泉、それに施術の場が一体となった全国的にも珍しい盲人ホームとして知られていた。しかし、ライトハウス建物の老朽化に伴い、平成 20 年（2008 年）に現在の仮の場所へと移転して、通所のみの施設として新たに生まれ変わって、現在に至っている。

通所者は、技術の研鑽を行うとともに、今後の自らの進む道を考えながら、日々来院される地元の方々の健康保持のためのマッサージ施術を行っている。

公益財団法人 日本盲導犬協会 島根あさひ訓練センター 愛称：パピネス

〒697-0426島根県浜田市旭町丸原155-15 TEL 0855-45-8311

E-mail	info@moudouken.net	URL	https://www.moudouken.net/

島根あさひ訓練センター「パピネス」は、中国・四国地域で唯一の盲導犬訓練センターとして、視覚障害者の方へ盲導犬の貸与事業を行っています。

平成 20 年（2008 年）に設立されたこのセンターは、日本初、受刑者が盲導犬の子犬を育成するプログラムを展開しており、そのための施設としても利用されています。子犬は平日はここで受刑者により飼育・躾を受け、週末は地域のボランティア家庭で生活します。この取り組みにより、視覚障害者と盲導犬、受刑者と地域ボランティアをつなげる橋渡しの役割を果たしています。

施設は犬舎が事務所を囲む形で配置され、窓から犬たちの様子を見ることができます。また、訓練の一部として都市部での生活経験も重視されており、広島市に広島事務所を開設し、電車やバスでの訓練を行っています。

公益財団法人 九州盲導犬協会
総合訓練センター　略称：訓練センター

〒819-1122福岡県糸島市東702番地1 総合訓練センター		TEL	092-324-3169
E-mail	fgda@pop02.odn.ne.jp	URL	https://www.fgda.or.jp

昭和 58 年（1983 年）9 月に「九州で盲導犬を」というたっての願いのもと、たくさんの方々のご尽力により設立された当協会は、自然豊かな福岡県糸島市に訓練センターを有しております。この訓練センターは九州唯一の盲導犬育成施設であり、広島から九州・沖縄を主なエリアとして年間 8 頭の育成体制で盲導犬の無償貸与を行い、これまでに延べ 280 人以上の視覚障害者の社会参加と自立をサポートしてまいりました。

平成 17 年（2005 年）には訓練センターを新しく開設し、犬舎は訓練犬収容頭数 50 頭、3 階建ての管理棟の中には利用者の宿泊施設 7 室や講習会などを行えるホール、会議室も備え、充実した施設で視覚障害者の方々をお迎えいたします。

訓練士の平均年齢は 20 代と若いスタッフがほとんどですが、その分、明るくパワーあふれる雰囲気づくりを心がけ、利用者の方々に快適に過ごしていただける施設としてサービスの向上に努めてまいります。良質な盲導犬を一日も早く一頭でも多くをモットーに、これからも盲導犬使用者が、より良い盲導犬ライフを満喫できるようにスタッフ一同全力で事業を行ってまいります。

春己（ハルミ）ガイドサービス株式会社

〒816-0801 福岡県春日市春日原東町4丁目63-103		TEL	092-574-6656
E-mail	harumiguide@jewel.ocn.ne.jp		

春己ガイドサービス株式会社は、目に障害のある方の同行援護や居宅介護サービスを行っている事業所です。福岡県を中心に、佐賀県、長崎県で活動しており、設立して 10 年目となりました。

目の不自由な方々が地域で安心安全な生活を営めるように個々の性格を把握し、それに合った支援を実施できるように心掛けております。

ご利用者の方々の行動範囲が広がるようにご希望の場所へベテランのガイドが安全を期して同行します。また、旅行企画やスポーツ活動なども積極的に取り組んでおり、ご利用者の方々にも大変好評です。

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

福岡視力障害センター

〒819-0165福岡市西区今津4820-1		TEL	092-806-1361
E-mail	syomuka-f@mhlw.go.jp	URL	http://www.rehab.go.jp/fukuoka/

視覚に障害のある方々を対象に国が設置し、福岡市の指定を受けた指定障害者支援施設である当センターは、視覚に障害のある方の自立と社会参加を支援することを目的としています。

提供する昼間サービスには、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の養成のための就労移行支援（養成施設）と日常生活に必要な諸技術を身につけるための自立訓練（機能訓練）があり、昼間利用サービスを利用される方で、通所が困難な方に宿舎利用のサービス（夜間・休日におけるサービス）として、施設入所支援を行っています。

◆定員および利用対象者◆

【就労移行支援（養成施設）】60 人

あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科専門課程（修業年限 3 年）は、視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた 18 歳以上で、次の基準に該当する方

◆大学に入学することができる方（学校教育法第 90 条 1 項規定）

◆または、当センターが実施する「個別利用資格審査」によって高等学校を卒業した方と同等以上の学力があると認められた方

【自立訓練（機能訓練）】10 人

視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた 15 歳以上の方

生活施設部会：19施設

日盲社協が誕生した昭和28年（1953年）当時は、今でいう生活施設は更生援護部会に属していたが、施設数の増加とともに昭和46年（1971年）に更生援護部会から収容施設部会として分離した。

その後、収容という言葉が使用されなくなってきたのに伴い、平成3年（1991年）から現在の生活施設部会に名称変更した。現在、生活施設部会の会員施設数は19施設である。**（部会長 茂木幹央）**

社会福祉法人 成仁会（セイジンカイ） 養護（盲）老人ホーム 祥風苑（ショウフウエン）

〒022-0004岩手県大船渡市猪川町字冨岡176	TEL	0192-26-3111
URL	https//www.i-seijinkai.jp	

養護（盲）老人ホーム祥風苑は、入居者の皆様の支援に関する計画に基づき、社会復帰の促進および自立のために必要な支援等を行います。入居者の皆様がその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるようにするとともに、入居者の皆様が地域に戻り自立した生活を送れるよう支援します。

また、施設の所在する地域において、社会的に援助を要する高齢者の方々に対して必要な支援や、ボランティアの受け入れ、地域住民への施設開放にも積極的に取り組むことで、地域福祉の拠点となるよう努めています。

祥風苑は、視覚障害のある高齢者の方々の自立した生活を支援するために、その専門性を高め、入居者の皆様、地域で生活する視覚障害者の皆様の「心の拠り所」としての役割を果たすことに熱意をもって取り組んでおります。

社会福祉法人 日本失明者協会 熊谷ライトハウス

〒360-0001埼玉県熊谷市上中条727-1	TEL	048-599-2112
URL	https://hitomien.jimdofree.com	

◆施設概要◆

入所定員：10 人

開所年月日：平成 26 年（2014 年）3 月 1 日

施設の構造・規模：鉄筋コンクリート 2 階建

施設の延床面積：553.33 ㎡

施設の敷地面積：771.09 ㎡

鉄道の最寄駅：JR 高崎線熊谷駅

◆施設の特色◆

入所者は、18 歳以上の視覚障害者。居室は、1 人用居室が 10 室。居室の面積はいずれも 12.43 ㎡。居室の中には、トイレ・洗面所・寝室部分・掲示板・冷蔵庫置き場・テレビ置き場・五段式タンス・押し入れ（下段・中段・上段）あり。浴室は共同使用。

1 階の居室の名称は英国の都市名、2 階の居室の名称は米国の州の名前。

この施設からいろいろな職場に働きに行くことができる。

社会福祉法人 日本失明者協会

熊谷ライトハウスリフレッシュセンター

〒360-0001埼玉県熊谷市上中条727-2		TEL	048-599-2111
URL	https://hitomien.jimdofree.com/		

◆施設概要◆

入所定員：10 人

開所年月日：平成 26 年（2014 年）3 月 1 日

施設の構造・規模：鉄骨造り平屋建て

施設の延床面積：208.00 ㎡

施設の敷地面積：599.37 ㎡

鉄道の最寄駅：JR 高崎線熊谷駅

◆施設の特色◆

事務室、静養室、多目的室兼相談室、第一施術室、第二施術室、第三施術室、第四施術室、第五施術室、第六施術室、待合室、水圧マッサージ室、その他あり。

この施設は、重度の視覚障害者に、マッサージ施術、はり施術等により働く場を提供している。

また、マッサージ師免許や、はり師免許を所持していない人も働けるような作業項目を用意している。

社会福祉法人 日本失明者協会 養護盲老人ホーム ひとみ園

〒366-0811埼玉県深谷市人見1665-3		TEL	048-573-5222
E-mail	hitomien5222@yahoo.co.jp	URL	https://hitomien.jimdofree.com/

◆施設概要◆

入所定員：120 人

施設の構造・規模：鉄筋コンクリート 3 階建（一部 2 階建）

施設の延床面積：6,965.725 ㎡

施設の敷地面積：10,204 ㎡

鉄道の最寄駅：JR 高崎線深谷駅

◆施設の特色◆

1 人用居室 120 室のほかに、客席 240 席の本格的な演劇ホール、客席 35 席の映画館、客席 16 席のステージ付きカラオケ喫茶、盲人卓球教室、陶芸教室、手芸教室、その他の教養娯楽施設を備えている。

ひとみ園は、日常生活動作が自立している人だけでなく、介護保険法の一般型特定施設の指定を受けているので、要介護度が 1 級から 5 級の人も入所することができる。

ひとみ園のスローガン「もう一度青春ひとみ園！」

社会福祉法人 日本失明者協会

一般型特定施設養護盲老人ホーム ひとみ園入居者生活介護事業所

〒366-0811埼玉県深谷市人見1665-3		TEL	048-573-5222
E-mail	hitomien5222@yahoo.co.jp	URL	https://hitomien.jimdofree.com/

◆施設概要◆

入所定員：120 人中の 60 人

施設の構造・規模：鉄筋コンクリート 3 階建（一部 2 階建）

施設の延床面積：6,965.725 ㎡

施設の敷地面積：10,204 ㎡

鉄道の最寄駅：JR 高崎線深谷駅

◆施設の特色◆

この施設は、要介護度が 1 級から 5 級までの人を受け入れる施設である。

また、介護保険負担割合証は 1 割負担の人から 3 割負担の人を受け入れる。

社会福祉法人 日本失明者協会

特別養護老人ホーム むさし愛光園　略称：愛光園

〒366-0814埼玉県深谷市大谷241		TEL	048-551-5511
E-mail	musashi-aikoen@w6.dion.ne.jp	URL	https://musashiaikoen-2.jimdosite.com/

◆施設概要◆

入所定員：80 人

施設の構造・規模：鉄筋コンクリート 4 階建（一部 3 階建）

施設の延床面積：5,300.60 ㎡

施設の敷地面積：5,987.02 ㎡

鉄道の最寄駅：JR 高崎線深谷駅

◆施設の特色◆

この施設は、附属施設として、むさし愛光園ショートステイ（10 人定員、1 人用居室 10 室）、むさし愛光園デイサービスセンター（20 人定員）を運営しており、老人福祉を総合的に推進している。

特養の居室は 1 人用居室 50 室、多床室（2 人用）15 室。

特養の特別室としては機能回復訓練室、日常動作訓練室、感覚訓練室、マッサージルーム、介護教室、娯楽室、クラブ活動室などがある。

クラブ活動としては音楽、ダンス、華道、書道、創作、ゲートボール、読書、カラオケなどがある。

社会福祉法人 日本失明者協会 むさし静光園

〒366-0811埼玉県深谷市人見2049-1		TEL	048-551-4566
URL	https://hitomien.jimdofree.com/		

◆施設概要◆

入所定員：10 人

施設の構造・規模：鉄筋コンクリート 2 階建

施設の延床面積：716.85 ㎡

施設の敷地面積：915 ㎡

鉄道の最寄駅：JR 高崎線深谷駅

◆施設の特色◆

入所者は 18 歳以上の視覚障害者。居室は、1 人用居室が 10 室。居室の面積はいずれも 26.6 ㎡。居室の中には、トイレ・浴室・洗面所・寝室部分・リビング部分あり。

1 階の居室の名称は英国の都市名、2 階の居室の名称は米国の州の名前。

この施設からいろいろな職場に働きに行くことができる。

平成 15 年（2003 年）4 月 1 日に身体障害者福祉ホームとして出発したが、平成 21 年（2009 年）10 月 1 日にケアホーム、グループホームに変更した。平成 26 年（2014 年）4 月 1 日にケアホーム、グループホームをグループホームに変更した。

社会福祉法人 信愛福祉協会 障害者就労継続支援事業所 信愛ホーム

〒157-0066東京都世田谷区成城2-15-3		TEL	03-3416-1804
E-mail	braille@safk.net	URL	http://www.shin-ai-fukushi.or.jp/shin-ai_home.html

信愛ホームは、信愛福祉協会が運営する障害者就労継続事業所です。キリスト教の精神を基盤として、視力に障害を持つ人に自立して生活する能力を持ってもらい、それを活かす場を提供することを目的としています。

信愛ホームでは、創立者平方龍男が創出した「新しい鍼（平方鍼法）」の体系立てた学習と実技指導を行い、「信愛ホームはり治療室」での臨床体験により、実力を持った鍼治療家を錬成しています。また、キリスト教（プロテスタント）の信仰を基盤とした、精神的成長をも重視した教育内容により、視覚障害の枠にとらわれない、社会の一員としての前向きな生活を営むための基盤をつくる指導を行っています。

指導期間は 2 年間で、指導を終了した利用者は、さらに経験を積んで信愛ホームの職員として治療に当たったり、地元で就職・開業して臨床家としての実績を挙げたりしています。

入所条件は、原則的に視力に障害を持ち、はり師国家試験に合格しているか、合格見込であることです。

入所の申し込みは、信愛ホームに連絡して入所要項を入手し、入所願書に必要事項を記入の上、必要書類とともに提出します。選考は信愛ホーム側で行ない、入所の許可を出します。

一次募集の締切は 1 月上旬、二次募集は 3 月初頭です。

短期入所は、信愛ホームにおける学習内容や生活を知っていただくため、入所者と学習・寝食をともに実地に体験していただくため、毎夏約一週間実施しています。

詳細は、入所願書に添付される「入所の手引き」を参照してください。

社会福祉法人 聖明福祉協会 盲養護老人ホーム 聖明園 曙荘（セイメイエンアケボノソウ）

〒198-8531東京都青梅市根ヶ布2-722		TEL	0428-24-5701
E-mail	seimeien@ceres.ocn.ne.jp	URL	https://seimeifukushi.or.jp/

昭和 30 年（1955 年）に今日でいう在宅サービスの事業を開始、昭和 39 年（1964 年）には盲人専用の軽費老人ホームを開設し老人福祉に参入、昭和 40 年（1965 年）には盲養護老人ホームを開設し今日に至っております。

視覚に障害のある人たちが、高齢となって耳が遠くなったり感覚が鈍くなったりして五感の助けが得られにくくなり、また記憶力なども衰えてくると、それまでできていたことがままならなくなります。このような高齢視覚障害者の特性を踏まえ、施設内の障害物や突起物をなくしたり、音響信号を要所に配置するなどの施設整備、点字などによる情報支援、ガイドヘルプなどの専門知識を持つ職員の配置など、高齢視覚障害者が生活しやすいよう、特別に配慮された生活環境を整えています。また、施設全体が高齢視覚障害者が主役の大家族のような雰囲気で、生活施設として心地よい環境を整えています。さらに、職員全員が、当施設の役割の重さを認識し、視覚障害に特化した専門性を発揮し、使命感を持って業務に当たっています。

入所は、区市町村からの措置に加え、自由契約による入所も行っております。居室はトイレと洗面所が付いた個室で、固定電話も引くことができ、片面居室配置でプライバシーに配慮した構造、給食サービスは温かいものは温かいうちに提供する個別配膳、入浴は浴槽清掃の日以外の週 6 日、夜間浴を実施。四季折々の行事や各種のクラブ活動、地域との交流などを通して、健康で充実した日常の実現のお手伝いをさせていただいております。また、代読、代筆、朗読（音訳）や外出など、ボランティアの皆様のご協力もいただき、利用者の個別のご希望にも可能な限りお応えしています。

社会福祉法人 聖明福祉協会 特別養護盲老人ホーム 聖明園 寿荘（セイメイエンコトブキソウ） 略称：寿荘

〒198-8531東京都青梅市根ヶ布2-724		TEL	0428-24-5702
E-mail	kotobukisou5702@gaea.ocn.ne.jp	URL	https://seimeifukushi.or.jp/

当施設は、常時介護が必要で視覚に障害をお持ちの方にご利用いただく、入居型の介護保険指定施設です。高齢者特有の慢性疾患や認知症で、入院治療が必要でない程度の状態であれば、お受けしています。

入居者の生活は、基本的な日課に沿っていただきますが、可能な限りご本人の要望や生活習慣等を尊重し、自由な雰囲気になるように努めています。

視覚障害についての生活支援は、その不便さや不安感に対して、その都度声かけして周囲の状況を説明するなど配慮しています。特に入居直後は、生活に慣れていただくために、専門の職員が集中して支援や介護にあたります。

基本方針である自立支援に関しては、排泄機能の維持、安易に車椅子に頼らない歩行支援、自力咀嚼による食事、認知症症状の軽減等を目指しており、入居者ご自身がいつまでも、このようにありたいとする生活を支援しています。

社会福祉法人 東京光の家 救護施設 光の家神愛園（シンアイエン）

〒191-0065東京都日野市旭が丘1-17-17		TEL	042-581-2340
E-mail	sinnaien@hikarinoie.org	URL	https://www.hikarinoie.org/

光の家神愛園を経営する社会福祉法人東京光の家は、キリスト教精神に基づいて創立された視覚障害者のための法人です。聖書の教えを法人経営ならびに利用者サービスの基本としています。

光の家神愛園は生活保護法に基づく救護施設で、主として視覚障害者を対象とし、生活扶助を行うとともに、社会人として生活できるよう援助することを目的としています。

光の家神愛園は法人の基本理念を実現するために、「安心と安全と希望――生活には喜びを――」を福祉サービスの具体的目標として、利用者支援を日々行っています。

利用者のおよそ 8 割は視覚障害に他の障害を併せ持つ盲重複障害者で、生活のさまざまな場面で支援を必要とする方々です。しかし、施設は単に保護を与える場所ではなく、「人はどんな障害があっても必ず新生の希望を持って生きられる」という確信を持って、利用者一人ひとりの保有能力を最大限に開発し、ノーマライゼーションの理念であるすべての人が尊重される共生社会の建設を目指しています。

社会福祉法人 光道園 盲養護老人ホーム 第二光が丘ハウス

〒916-0146福井県丹生郡越前町朝日22-7-1		TEL	0778-34-8001
E-mail	somu-2@kodoen.or.jp	URL	https://www.kodoen.or.jp/

第二光が丘ハウスは定員 50 名で、一般型特定施設入居者生活介護事業を併設しています。

法人内にはリハビリテーション職をはじめ専門職が多く配置されています。そのため、多職種連携によるサービスを提供し、健全で意欲と活力ある生活が送れるよう支援を行っています。

利用者の方の「できる」に着目し歩行訓練士と共同で支援方法の工夫を行ったり、日常生活動作の中でのリハビリテーションの継続を理学療法士をはじめとするリハビリテーションスタッフの助言を受け、日々継続している自立支援介護の実践につなげ心身機能・生活機能の維持増進に努めています。

また、利用者の方もさまざまな障害や疾病を持たれる方が増えています。多様化するサービスに対応するため同行援護従業者研修への参加や定期での認知症研修や看取り研修の実施など、より専門性を高めその人らしい生活がいつまでも送れるように職員も学びを大事にしています。

いくつもの実践や学びの根底には、利用者本位の支援があります。ご家族、利用者のニーズに寄り添いいつまでもお元気に過ごしていただけるようチームワークケアを大事に職員一人一人が支援を継続しています。

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会 盲養護老人ホーム 梨ノ木園

〒518-0032三重県伊賀市朝屋734-1		TEL	0595-23-1555
E-mail	nashinokien@iga-sjk.or.jp	URL	https://www.iga-sjk.or.jp/

全国で 9 番目に誕生した、三重県内では唯一の盲老人ホームです。

おおむね 65 歳以上の視覚に障害のあるお年寄りに日常生活上、必要な専門的サービスを提供し、安心して自立した生活を過ごしていただけるよう援助しています。

平成 19 年（2007 年）には特定施設入居者生活介護事業所の指定を受け、ご利用者の生活援助・介護・看護の一体的な支援が可能となり、より細やかな対応ができるようになりました。

年間を通して、朗読（読書）ボランティアの来訪、小学校児童・保育園児との交流があります。

同行援護または施設職員との買い物や外食、日帰り旅行などの外出行事のほか、喫茶、お茶会、夕涼み会、演芸大会、敬老会、運動会、餅つき大会など、四季を感じられる施設内イベントもいっぱいです。

書道・俳句・詩吟・点字・カラオケなどのさまざまなクラブ活動もさかんです。施設は豊かな自然に囲まれ、市街地まで指呼の間、というすばらしい環境の中にあります。

社会福祉法人 京都ライトハウス
盲養護老人ホーム ライトハウス朱雀（スザク）

〒604-8434京都市中京区西ノ京新建町3		TEL	075-803-1739
E-mail	suzaku@kyoto-lighthouse.or.jp	URL	https://www.kyoto-lighthouse.or.jp/

当施設は、平成 28 年（2016 年）6 月に（旧施設の船岡寮から）立て替え移転した高齢者総合福祉センターです。

盲養護老人ホームは 50 名定員ですが、同じ建物内に特別養護老人ホーム 65 名、短期入所生活介護事業所（ショートステイ）9 名、通所介護（デイサービスセンター）、居宅介護支援事業所（ケアプランセンター）、同行援護事業所（ガイドヘルプステーション）を併設しています。

館内は、見えない・見えにくい方たちへ配慮した職員配置や設えの工夫、そして何よりも声かけを大切に、寄り添う支援を行い、「いきいき」「わくわく」「こつこつ」をキーワードにご利用者、ご家族、地域から必要とされる社会資源となることを施設理念としています。

施設内の取り組みとしては、お花見や夏祭り、芋堀やクリスマス会等の四季折々のお楽しみ行事を実施したり、ご家族や地域の方たちと連携した開所記念や敬老会、訪問販売会やお餅つき等も開催しています。

同市北区にある法人本部との関りでも、ご利用者・職員ともにアットホームに連携できているのが特色です。

さまざまな世代、いろいろなサービスがある中で、法人全体の繋がりが継続してあることがアピールポイントです。

社会福祉法人 大阪福祉事業財団 盲養護老人ホーム 槻ノ木荘（ツキ キ ソウ）

〒569-1046大阪府高槻市塚原1-8-1		TEL	072-694-0716
E-mail	zai-tukinoki1971@etude.ocn.ne.jp	URL	https://www.tukinoki.org/

槻ノ木荘は、昭和 46 年（1971 年）12 月に全国では 11 番目、大阪府で唯一の盲養護老人ホームとして誕生しました。

平成 15 年（2003 年）12 月に全面建替えにより「全室個室でトイレと洗面所付」「より視覚障害者に配慮した設備」などを兼ね備えた施設になりました。

平成 18 年（2006 年）4 月の制度改正（老人福祉法一部改正）に伴い、平成 20 年（2008 年）8 月より訪問介護事業を立ち上げ、平成 21 年（2009 年）9 月に外部サービス利用型特定施設（定員 10 人）の導入を行いました。

「その人らしさを大切に生きがいのあるくらしを送っていただく」ことを支援・介護の重点におき、彩りのある施設生活のため、クラブや行事などをより内容豊かに取り組めるように努めています。また、会食・配食サービス事業を行い地域の高齢者とのふれあいの機会を積極的に設け、入居者の自治会「槻ノ木会」も地域の老人会に加入し、地域との交流をはかっています。「豊かな老後を地域とともに」をモットーに入居者はじめ地域の高齢者の豊かな生活が保障されるまちづくりをめざしています。

社会福祉法人 愛光社会福祉事業協会
障害者支援施設 愛光園 略称：愛光園

〒671-2246兵庫県姫路市打越1100		TEL	079-266-6900
E-mail	aiko@aiko-welfare.or.jp	URL	http://www.aiko-welfare.or.jp/

愛光園は障害者入所授産施設として昭和 57 年（1982 年）4 月に開設され、早や 40 年以上の月日が流れました。

施設という大きな屋根の下での集団生活は、何かとご不便な思いが生じますが、できるだけ個々のニーズに沿った支援を心がけています。

愛光園は入所型の施設で生活介護事業 50 名、短期入所事業に 4 名の方の受け入れを行なっています。

また、開設当初から作業を中心とした施設作りを継続しており、働きたくても働ける場所がないといった方へのお気持ちを大切にし、パンや焼き菓子の自主作業からチラシ入れ作業やダンボールの仕切り組み作業、箱折り作業、緩衝材袋詰め作業など利用者の方の障害に応じた作業を進めており、毎月月末には工賃支給をさせていただいています。

利用者の方の高齢化が進むにあたり、作業よりも生活面を重視した支援を必要とされる方が年々増えてきています。今後も「利用者の方のご満足」を第一に、安心安全に過ごしていただけるよう支援をしていきます。

社会福祉法人 壷阪寺聚徳会（ツボサカデラシュウトクカイ） 養護盲老人ホーム 慈母園　略称：慈母園

〒635-0103奈良県高市郡高取町大字清水谷100番地		TEL	0744-52-2350
E-mail	jiboen@sunny.ocn.ne.jp	URL	https://shutokukai.or.jp/

慈母園は、吉野熊野の霊峰連なる西国観音霊場「壷阪寺」の山内に「思いやりの心を広く深く」の理念の下、昭和 36 年（1961 年）日本で最初の「養護盲老人ホーム」として建てられました。

創立 60 周年を迎えた令和 3 年（2021 年）6 月に当法人が経営する「特別養護老人ホーム光明園」の近隣地へ新築移転いたしました。

新しい慈母園は、全居室にトイレ、洗面台、各階に浴室とラウンジを完備し、災害時の対応として「自家発電装置」も装備した安心で快適な生活支援が提供できる施設です。

イメージカラーは白と茶で周辺の自然に調和しており、施設から壷阪寺が仰げる立地となっています。入園者が介護サービスを必要とする場合は「光明園」のデイサービスセンターの利用、外部サービスを利用しての訪問入浴サービスなどを受けることができます。また、併設する「特定相談支援事業所」の利用で同行援護のサービスが受けやすくなっています。

そして、入園者の皆さんの楽しみと生きがいづくりとして「演劇クラブ愛園座」、「民謡」、「園芸」などのクラブ活動を実施。地域社会の一員として町の老人クラブ連合会の会員としての活動、また、小学校・中学校・高校との交流会や福祉教育の出張授業への参加など、地域貢献につながる活動を行っています。

今後も入園者の皆さんの生活の充実と質の向上のため取り組んでいきたいと思っております。

社会福祉法人 三原のぞみの会 盲養護老人ホーム 白滝園　略称：白滝園（シラタキエン）

〒729-2361広島県三原市小泉町116-1		TEL	0848-66-3214
E-mail	sirataki@mail.mcat.ne.jp	URL	https://mihara-nozomi.jp/

◆施設のコンセプト◆

「地域に開かれた交流の場」の実現。

利用者の皆さんが当たり前の生活ができる「自立支援型」の生活の場を創る。

自然な光を随所に取り入れ、木の温もりが感じられる明るく清潔感のある空間づくり。

居室は「完全個室」で、パーソナルスペースを確保しております。

利用者（盲老人）の皆様の意思を尊重し、ユニットケアの理念を取り入れ、在宅生活に近づけた環境をもとに、さまざまな行事等にも参加していただき、明るく心豊かな生活を送っていただきます。

介護保険サービスが利用できる特定施設を併設しております。

視覚障害高齢者の利用に供し、入所者の処遇に関する計画に基づき、社会復帰の促進および自立のために必要な指導および訓練その他の援助を行うことにより、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすることを目指し、視覚障害のある高齢者の「最後の拠り所」としての役割を果たしていきます。

社会福祉法人 山口県盲人福祉協会

養護盲老人ホーム 春光苑 略称：春光苑（シュンコウエン）

〒759-6534山口県下関市大字永田郷440-3		TEL	083-286-7300
E-mail	syunkouen@yamamou.com	URL	http://www.yamamou.com/

春光苑は、昭和 47 年（1972 年）の山口県盲人福祉大会で「山口県にぜひ盲老人ホームを」と決議し、建設運動が始まった。最初、県は「県立で」と言っていたが、10 年過ぎても県立は実現せず、団体が「法人立」で建設することを決定した。

しかし自己資金もなく、「土地も無いのに」と皆に笑われた。「人口一人当たり 10 円、市や町に補助を」と周南市の福祉課長が教えてくれ、早速それを実行した結果、150 万円を確保することができた。

竜鉄也ショーを開いて、山口銀行にチケットを 100 枚買ってもらったり、県下の自治会に物品販売を依頼したことによって自己資金が集まった。

土地は、下関市が安く譲ってくれ、日本小型自動車振興会が約 1 億 8 千万円の補助金を決定したので建設は実現できることになった。

建設にあたっては「利用者が人間らしい尊厳ある存在の回復を目指す」ことを既定方針とした。その後、年を重ねて素晴らしいホームが完成した。

しかし平成 8 年（1996 年）の介護保険導入により市や町の措置控えが始まり、入所者の高齢化・重度化がすすんで次第にホームは特養化していった。

現在もなお措置控えは続けており厳しい運営を余儀なくされているが、自由契約の制度も利用しつつ、コロナ禍も収束に近づき新しい時代に対応すべくさらに努力したい。

盲人用具部会：18施設

　コロナ禍の影響で用具部の活動の柱である展示会開催ができませんでした。令和5年度（2023年度）からは用具部会では各地域に出向き地域の当事者および支援者と交流の場を広げていきます。

　用具メンバー18施設を中心に視覚障害のある方の生活を便利に、豊かにする機器やグッズなど開発販売している企業にも声がけして、製品等に直接触り体験できる機会を企画していきたいと思っています。**（部会長　工藤良治）**

ケージーエス株式会社

〒355-0321埼玉県比企郡小川町小川1004		TEL	0493-72-7311
E-mail	info_fukushi@kgs-jpn.co.jp	URL	https://www.kgs-jpn.co.jp/

当社は（旧社名）広業社通信機器製作所として戦後間もない昭和 28 年（1953 年）に戦後復興に向け、通信業、通信機器、通信インフラに幅広く貢献していこうという創業者の想いがあり創業いたしました。

それから 30 年、ご縁があり現在の電気で動く点字（以後「点字セル」という）を開発し、主に先進国に向けてこの点字セルを輸出してきました。

歴史的には紙に正しく印字された点字にはかないませんが、私たちの作った文字が、視覚障害者の知識・教養となり、彼らが障害を受け入れながらも力強く自立した社会活動を支えています。それが私たちの誇りであり使命です。

株式会社ジェイ・ティー・アール

〒335-0022埼玉県戸田市上戸田4-13-18		TEL	048-452-8898
E-mail	info@jtr-tenji.co.jp	URL	http://www.jtr-tenji.co.jp/

株式会社ジェイ・ティー・アールは、点字プリンターの設計・製造販売の業務を中心に、令和 5 年（2023 年）6 月に 41 年を迎えることができました。創業以来、社是として「ユーザーの方に喜んでいただくために私たちの会社は存在しています」を掲げています。

また、「Serendipity（セレンディピィティ）偶然による発見、そしてそれを可能にする地道な努力」を基本姿勢として製品の開発をしています。

昭和 57 年（1982 年）、日本で初のコンピューター点字端末装置 ESA731 をはじめとし、点字プリンター ESA721、NewESA721、ESA721Ver'95、点字ラインプリンター ESA300Pro、点字両面同時ラインプリンター ESA600Pro、L サイズ点字両面同時プリンター ESA2000L、標準サイズ点字両面同時プリンター ESA919 と、製品を作り続けてきました。現在は、新製品 2 機種を加えて製造・販売しております。1 つは ESA600Pro の後継機種となる ESA300 × 2 です。もう 1 つは個人ユーザー向けとして、TEN-100 の後継機種で点字両面同時プリンタ・プロッタ ESASolo です。幅広くご利用いただいております。

株式会社アメディア

〒176-0011東京都練馬区豊玉上1-15-6 第10秋山ビル1F		TEL	03-6915-8597
E-mail	webmaster@amedia.co.jp	URL	http://www.amedia.co.jp/

アメディアは視覚障害者向けの電子機器や用具を取り扱っています。

自社で開発するとともに、視覚障害者にとって有用な機器やソフトウェア、その他の商品を国内外から調達して販売しています。

直販も卸売も行っております、各地の視覚障害者協会が運営する販売拠点のお店でも取り扱っていただいています。

自社開発商品としては、音声・拡大読書機「よむべえスマイル」や「快速よむべえシリーズ」が知られています。

ケージーエス（株）、シナノケンシ（株）、（有）エクストラ、（株）高知システム開発などの国内有力メーカーの商品はほとんど取り扱っています。

米国、カナダ、中国、英国など、世界各国から日本の視覚障害者マーケットに見合った商品を調達して紹介しています。

資本金 7,800 万円。年商約 3 億円。従業員数 15 人、うち視覚障害者 2 人（令和 5 年〔2023 年〕4 月現在）

社会福祉法人 日本点字図書館 生活支援部 用具事業課 愛称：わくわく用具ショップ

〒169-8586東京都新宿区高田馬場1-23-4		TEL	03-3209-0751
E-mail	yougu@nittento.or.jp	URL	https://yougu.nittento.or.jp/

◆見えない・見えにくい人に便利で使いやすい商品を約 900 点取り扱っています。

◆多くの種類の白杖、拡大読書器やデイジー再生機をはじめとする音響機器、糸通しや調理用品などの便利用品、おもちゃなど幅広い商品をそろえています。役所への申請手続きも行います。

【ご来館の方へ】

図書館 1 階のロビーに面したショーケースのなかに、商品のサンプルをディスプレイしています。自由に手に取って試せるよう、商品名と価格を点字と墨字で書いています。

【ご来館できない方へ】

インターネット通販をおすすめしています。ホームページに掲載する商品案内はできるだけ丁寧でわかりやすい文章を心がけ、商品のイメージがそのまま伝わるよう工夫をしています。携帯電話からアクセスができるモバイルサイトもご用意し、気軽にお買い物ができるようになっています。

【情報の発信】

当館発行の録音雑誌『にってんデイジーマガジン』に掲載している「ニュー用具タイムズ」（年 4 回）と、毎月掲載の「ホームライフ」の“わくわく用具タイム”コーナー（年 4 回）で、新商品のご案内や取り扱い商品の便利な使い方などをご紹介しています。「わくわく用具ショップ」スタッフが出演しています。

【機器体験会】

メーカーによる各種機器体験会を毎月開催しています。

株式会社日本テレソフト

〒167-0034東京都杉並区桃井2-1-3 葉ビル3F		TEL	03-6913-5641
E-mail	ts-info@telesoft.co.jp	URL	https://www.nippontelesoft.com/

当社は、点字プリンター、点字ディスプレイ、拡大読書器を製造販売しています。

◆点字プリンターは、国内工場（熊本）で製造し、国内では官公庁や金融機関、福祉関連施設へ導入させていただいております。海外へは ODA や JICA の草の根支援を通じて主に発展途上国へ輸出も行っています。機器を販売だけでなく、普及実証プログラムによる「視覚障害者の ICT プログラム」で、インストラクターを教育する環境配備なども行っています。

◆点字ディスプレイは、中国北京・精華大学内の工場で Seika シリーズを製造し、全世界に向けて販売を行っています。

◆拡大読書器については、米国の Enhanced　Vision 社から輸入し、国内のメガネショップや点字図書館、ライトハウスを通じて販売させていただいております。

株式会社ブライユ

〒173-0004東京都板橋区板橋4-8-16		TEL	03-5943-3361
E-mail	braille@buraiyu.com	URL	https://buraiyu.com/

ブライユは、視覚障害誘導システム開発・製作・販売をおこなっております。

JR 東日本・JR 東海・小田急電鉄・西武鉄道・相模鉄道・東京地下鉄や、日本車輌製造・日立製作所など、大手鉄道会社や車両会社への納入実績があります。

破損しにくくユーザーの方のケガのリスクが低いステンレス製品や真鍮加工製品等を、1 台（小ロット）から製作可能です。

触知案内板や手摺案内はもちろんのこと、音声誘導装置や歩行路標識シール等もお取り扱いをしています。

株式会社ラビット

〒169-0075東京都新宿区高田馬場1-29-7 スカイパレスビル401		TEL	03-5292-5644
E-mail	eigyo@rabbit-tokyo.co.jp	URL	https://rabbit-tokyo.co.jp/

ラビットは、ICT 技術を活用した視覚障害者の総合的な支援サポートを行っております。視覚障害者のスタッフが多数勤務しており、ご相談やアドバイスには「障害特性」「利用者の視点」に配慮し、メーカーを問わず、常に中立な立場でのご提案を目指しています。

取扱商品は視覚障害者向けパソコンソフト、DAISY 機器、点字機器、拡大読書器、便利グッズ、キータイプ練習、各種支援機器やソフトの実演操作マニュアル、講習会講師派遣など多岐にわたります。

これまで個人、福祉施設、公共・教育機関、民間企業の視覚障害者の自立支援を応援サポートしてまいりました。

また、社会貢献事業の一環として、地方での説明会、講習会を積極的に行っています。これまでの実績と経験をもとに、視覚障害に関する情報を提供し、社会においても職場においても、お互いがより良い関係と環境を実現するために、皆様の良きパートナーとして貢献できればと考えております。お困りの際はラビットまでお気軽にご相談ください。

株式会社エクシオテック

〒153-0064東京都目黒区下目黒2丁目7番4号		TEL	03-5948-4205
E-mail	fukushi@exeo-tech.co.jp	URL	https://www.exeo-tech.co.jp

エクシオテックでは、前身の池野通建時代より 35 年にわたり音声誘導設備のパイオニアとして、視覚に障害をお持ちの方に『音声（こえ）』による誘導を行っています。

日常生活用具に指定されている歩行時間延長信号機用小型送信機（シグナルエイド）を軸とした、音声誘導設備を全国の公共施設や公共交通機関の入口、トイレ入口などに設置しています。

【製品一覧】

◆音声標識ガイド装置（シグナルエイド対応）
◆音声案内装置（間欠式、センサ式）
◆バリアフリートイレ内音声案内装置
◆ルームガイド（ホテル客室内）

レハ・ヴィジョン株式会社

〒923-1211石川県能美市旭台2-13 いしかわクリエイトラボ		TEL	0761-51-0016
E-mail	info@reha-vision.com	URL	https://www.reha-vision.com/

弊社は、視覚障害者の方々が日常生活において困っていることの解決を目的に起業しました。特徴は、開発時に類似した製品が無い・日常生活用具等の法律で未認定。試作製品は、利用される何人もの当事者の方々の意見をいただき、改良を重ね、満足いただいた機器のみ販売していることです。

製品は、

◆色と柄が分かる「カラートークプラス」: 平成 18 年（2006 年）以降一部の市町村にて日常生活用具認定。（生産終了）

◆身体を支えることのできる白杖「SU サポートケーン」: 平成 23 年（2011 年）厚生労働省・補装具認定。

◆一般トイレ内において、男女・手洗い・小便器・便房の位置を案内する「ポッチ TR」

◆便房内で、和式洋式と便器の向き・荷物掛フック・ペーパー・洗浄の位置を案内する「ポッチ TP」

◆この機器が開発されるまでは利用することができなかった、多機能トイレ内の設備を案内する「ポッチ UD」: 社会福祉法人日本視覚障害者団体連合推奨品。「ポッチ UD」は、国土交通省平成 23 年（2011 年）視覚・聴覚障害者の安全性、利便性に関する調査研究報告書、平成 28 年（2016 年）にトイレ事例集に掲載されました。

視覚障害者の方々が、地域の官公庁・病院・図書館・ショピングモール等に設置要望されて導入が進んでいます。

シナノケンシ株式会社

〒386-0498長野県上田市上丸子1078 RSビジネスユニット		TEL	0268-41-1814
E-mail	plextalk@aspina-group.com	URL	http://www.plextalk.com/jp/

シナノケンシ株式会社は、デジタル録音図書の世界規格であるデイジー（DAISY）の策定に携わって以来、目の見えない方・見えにくい方の生活を楽しく、豊かにする支援機器の開発・製造・販売を行っております。

プレクストーク（PLEXTALK）ブランドで提供される製品は視覚障害者、図書館関係者、音訳者、図書制作者、福祉施設等の皆様にご利用いただいており、デイジー規格に完全準拠した視覚障害当事者用デジタル録音図書読書機から、施設・ボランティア向けデジタル録音図書制作ツールまで取りそろえております。

メイン商品であるプレクストークポータブルレコーダー PTR3 は録音図書再生の専用機として、使いやすい操作性、音声ガイドの搭載により初心者の方でも安心してお使いいただける製品となっております。

シナノケンシのプレクストークは『バリアフリーな読書環境をデイジーでトータルサポート』をコンセプトに、当事者から支援者の皆様まで、全面的に支援する活動をこれからも進めてまいります。

有限会社エクストラ

〒424-0886静岡市清水区草薙一丁目19-11		TEL	054-264-8608
E-mail	support@extra.co.jp	URL	https://www.extra.co.jp/

有限会社エクストラは視覚障害者の情報アクセシビリティを推進するソフトウェア、およびハードウェアの開発・ローカライズおよび販売を行っています。

スクリーンリーダー「JAWS」、画面拡大ソフト「ZoomText」、自動点訳ソフト「EXTRA for Windows」などのソフトウェアや音声点字携帯端末「ブレイルセンスシリーズ」、携帯型 OCR マルチプレーヤー「センスプレーヤー」、メガネ型視覚障害者支援デバイス「エンビジョングラス」、点字プリンター「ベーシック D」、「エベレスト D」など視覚障害者の日常生活での利用はもちろん就労や就学で活用できる最先端の支援技術を用いた商品を提供することで、視覚障害者の情報アクセスを支援します。

盲人福祉研究会　略称：浜松・盲研

〒430-0812静岡県浜松市南区本郷町1296-11		TEL	053-463-2764
E-mail	camelia@po3.across.or.jp	URL	https://moujinhukushi.sakura.ne.jp/

白杖を作って 70 年！　昭和 29 年（1954 年）、ある地方の視覚障害者の依頼により、竹製の携帯用白杖を試作する。後にこの方式で専売特許を取得。「木製四段折りたたみ白杖――愛の杖」として生産を開始するとともに、日本盲人会連合（現日本視覚障害者団体連合）用具購買所を総代理店として全国販売。昭和 49 年（1974 年）第 1 回日盲連パイオニア賞を受賞する。

草創期の日盲社協に加盟し、点字器や計量器などの製作所などとともに盲人用具部会を結成し福祉機器の啓発・普及に努める。

各地での用具展示会を通じて、ユーザーの要望を受け各種の白杖、交通安全灯、誘導用具などの交通安全機器、将棋盤やトランプ、花札などの娯楽用具、音声歩数計や方位センサー、盲ろう者とのコミュニケーション補助具として指点字練習器「ユビコン」などの開発と普及に取り組む。

平成 8 年（1996 年）、中途視覚障害者への視覚障害リハビリテーションの提供、盲重複障害者の社会参加と就労支援を目的とし、「授産所・ウイズ」を併設。白杖の製造、トランプ、花札の点字印刷を委託、平成 20 年（2008 年）障害者自立支援法による就労継続支援 B 型事業所となる。

株式会社サン工芸

〒613-0022京都府久世郡久御山町市田新珠城90		TEL	0774-23-1133
E-mail	tenji@sunkogei.co.jp	URL	http://www.sunkogei.co.jp/

◆営業品目◆

点字案内板の企画・立案・製造販売

手すり点字標示板の製造販売

点字ブロック・誘導電子チャイム販売

視覚障害者用音声誘導装備

視覚障害者用総合誘導装備

当社は昭和 50 年（1975 年）、日本で初めて点字案内板（触知案内図）を世に出しました。それ以来、点字サインのパイオニアとして開発・製造・普及に努めております。

また、点字案内板だけでなく「手すり用点字標示板」「乗車位置標示板」など、触知にかかわる標示板の製作や音声による誘導設備の普及にも努力しております。

株式会社実業エージェンシー 福祉事業部

〒601-8469京都市南区唐橋平垣町47-1		TEL	075-662-7133
E-mail	j-ag@j-agc.com	URL	https://j-agc.com/

◆施設の紹介◆

実業エージェンシーは、ユニバーサルデザインを基軸として、だれもが使いやすい点字案内板を中心に製作してまいりました。音声誘導装置は、利用者の方の灯台の役割を果たすべく、日頃よりわかりやすい音声や音源の開発を進めております。

日常生活の中で移動の際の安全と情報伝達のためには、何が必要か、どのように配置するか、バリアフリーの提案から物作りまでを創造する企業です。

株式会社アイフレンズ

〒554-0012大阪市此花区西九条1-33-13 オークラ第2ビル5F		TEL	06-6462-1594
E-mail	info@eyefriends.jp	URL	https://www.eyefriends.jp/

アイフレンズは、視覚障害者関連機器の総合販売店です。

音声拡大読書器「とうくんライト」や視覚情報支援ソフトウェア「とうくん」をはじめ、パソコンや周辺機器、視覚障害者用ソフトウェアはもちろん、点字プリンタや点字ディスプレイ、視覚障害者用拡大読書器などを数多く取り扱っています。また、一般市販商品でも、音声ガイダンス付き製品など、視覚障害者にも使いやすい製品や、音楽 CD 全集なども積極的に販売しています。

【とうくんライトとは】

「とうくんライト」は、視覚に障害のある方が「活字文書」や「点字文書」の読書、および「紙幣判別」を一人で簡単に行えるように工夫した音声・拡大読書器です。

本体上面の原稿台に活字や点字文書などをのせボタンを押すだけで、その内容を視力に応じた拡大画面に表示して、滑らかな音声で読み上げます。読み上げながら、次の原稿を読み取ることもできますので、小説などの長い文書もとぎれることなくすいすい読み上げます。操作ガイダンスや読み上げた内容を点字ディスプレイ（別売）に出力することができますので、視覚と聴覚に障害のある方にもご利用いただけます。

高性能の英文 OCR とネイティブな英語音声エンジンにより、英文もすらすら読み上げます。また、紙幣を判別して読み上げます。

一般財団法人 安全交通試験研究センター　略称：安全交通センター

〒700-0024岡山市北区駅元町15-1 リットシティビル7F		TEL	086-252-1212
E-mail	info@tsrc.or.jp	URL	http://www.tsrc.or.jp/

昭和 40 年、初代理事長故三宅精一によって、目の不自由な方々の歩行支援を目的とした『点字ブロック』を世界に先駆けて考案開発。以来、視覚障害者の方々が安心して歩けるまちづくりを目標に『点字ブロック』をはじめとする数々の福祉器材を研究開発し、“リーディングカンパニー”としてその普及・啓発事業に努めるとともに、全国の諸官庁から、視覚障害者のための交通・生活環境整備における設計上の敷設方法等について照会を受け協力を行っています。「点字ブロックの日」をご存じですか？これは、1967（昭 42）年 3 月 18 日「点字ブロック」が世界に先駆けて岡山の地に敷設された日を記念し、社会福祉法人岡山県視覚障害者協会によって設けられました。（日本記念日協会登録）「点字ブロックの日」が目に障害のある人々をめぐる諸問題について考える、シンボル Day となっていくことを希っています。

また、「公益目的支出計画」事業として、視覚障害者団体（協会）が行う事業への助成および協賛に努め、視覚障害者の福祉厚生の増進に寄与するために活動を行っている法人です。

ウツミ株式会社

〒732-0053広島市東区若草町3-24		TEL	082-262-4426
E-mail	uzmi@mx4.tiki.ne.jp	URL	http://ww4.tiki.ne.jp/~uzmi/

当社は音声での誘導や案内を行う装置関連の開発から販売まで行っている会社です。

手持ちの白杖による音声誘導システムの一つでは、駅などのエレベーターの呼び出しや、エレベーターの動作に連動した音声案内を行っており、国内外のエレベーターメーカーとの連動実績があります。

また、ユニバーサルデザインに対応した音声案内装置など、全ての機器の開発・設計・製造まで当社社内で行い、用途に応じた変更や特注での対応も行っております。

株式会社高知システム開発

〒780-0048高知市吉田町2-23		TEL	088-873-6500
E-mail	support@aok-net.com	URL	http://www.aok-net.com/

「視覚障害者の生活支援、社会参加支援」を目的に、視覚障害者向け各種ソフトウエアの開発、販売、アフターサービスを行っており、日本全国、多くのユーザーの方々にお使いいただいております。

PC-Talker は、Windows の操作を音声で案内するスクリーンリーダー（ScreenReader）です。PC-Talker をインストールするだけで、お使いのパソコンが「おしゃべりパソコン」に変身します。

パソコン操作支援ソフトとして幅広くご利用ください。